

熊本県における
ヤングケアラーの実態に関する調査報告書

熊本県

目次

第 I 章. 調査の実施概要	1
1. 調査の目的	1
第 II 章. 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査結果	2
1. 学校調査の結果	2
(1) 調査対象	2
(2) 実施時期、調査方法、回収状況	2
(3) 学校の概要	3
(4) 支援が必要だと思われる子どもへの対応	7
(5) ヤングケアラーについて	20
(6) 個別の事例	36
第 III 章. 中高生の生活実態に関するアンケート調査結果	40
1. 中高生アンケート調査 調査概要	40
(1) 調査対象	40
(2) 回答方法	40
(3) 実施時期	40
(4) 回収状況	40
2. 中高生アンケート調査 調査結果	41
(1) 基本情報	41
(2) ふだんの生活について	46
(3) 家庭や家族のことについて	52
(4) ヤングケアラーについて	74
3. 中高生アンケート調査 自由意見	79
(1) ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うこと	79
(2) その他感想など	81

< 資料編 >

第 1 章. 調査の実施概要

1. 調査の目的

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、学校に行けなかったり、友達と遊ぶ時間がないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる、いわゆるヤングケアラーについて、国が実態調査（令和3年3月 ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書）を行い、全国のヤングケアラーと思われる子どもの実態を把握したところ。本調査は、国の実態調査を踏まえ、本県の実態を把握し、具体的な支援策を検討することを目的とする。

第 11 章. 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査結果

1. 学校調査の結果

(1) 調査対象

小学校

県内の公立小学校を教育事務所単位で 2 校ずつ抽出。

中学校

県内全ての中学校

高等学校

県内全ての高等学校（定時制・通信制を含む）

(2) 実施時期、調査方法、回収状況

< 調査実施時期 > 令和 3 年 9 月 1 日 ~ 10 月 6 日

< 調査方法 > Web 回答

< 回収状況 >

回答状況

	対象数	回収数	回収率
小学校	22	21	95.5%
中学校	172	131	76.2%
高等学校	85	86	100.0%

回収数が対象数を上回っていますが、そのままの数で計上しています。(回答の誤りが原因だと推測される)

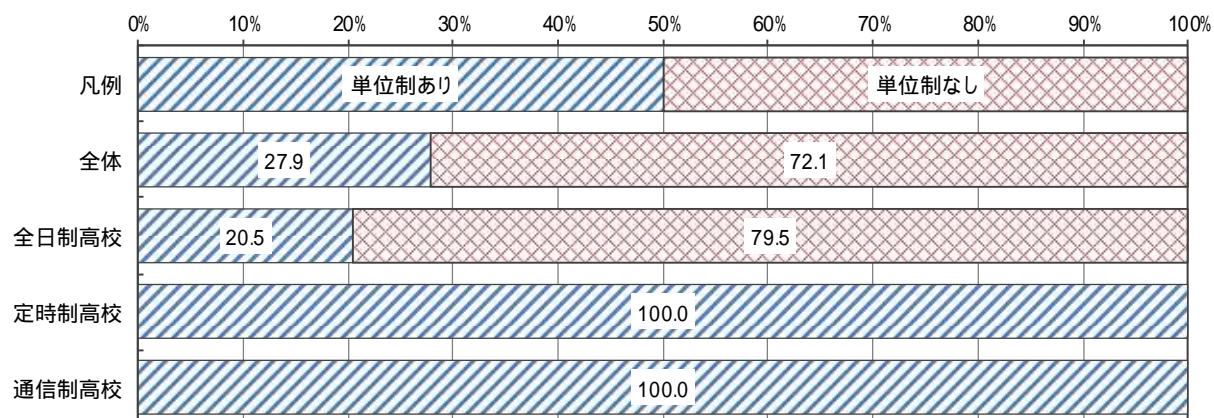
(3) 学校の概要

全日制高校・定時制高校・通信制高校での単位制の有無

「全日制高校」のうち、「単位制あり」が 20.5%（国：17.3%）、「定時制高校」のうち、「単位制あり」が 100.0%（国：81.5%）となっている。

全日制高校・定時制高校での単位制の有無

	合計	単位制あり	単位制なし
上段：実数 下段：%			
全体	86	24	62
	100.0	27.9	72.1
全日制高校	78	16	62
	100.0	20.5	79.5
定時制高校	7	7	0
	100.0	100.0	0.0
通信制高校	1	1	0
	100.0	100.0	0.0

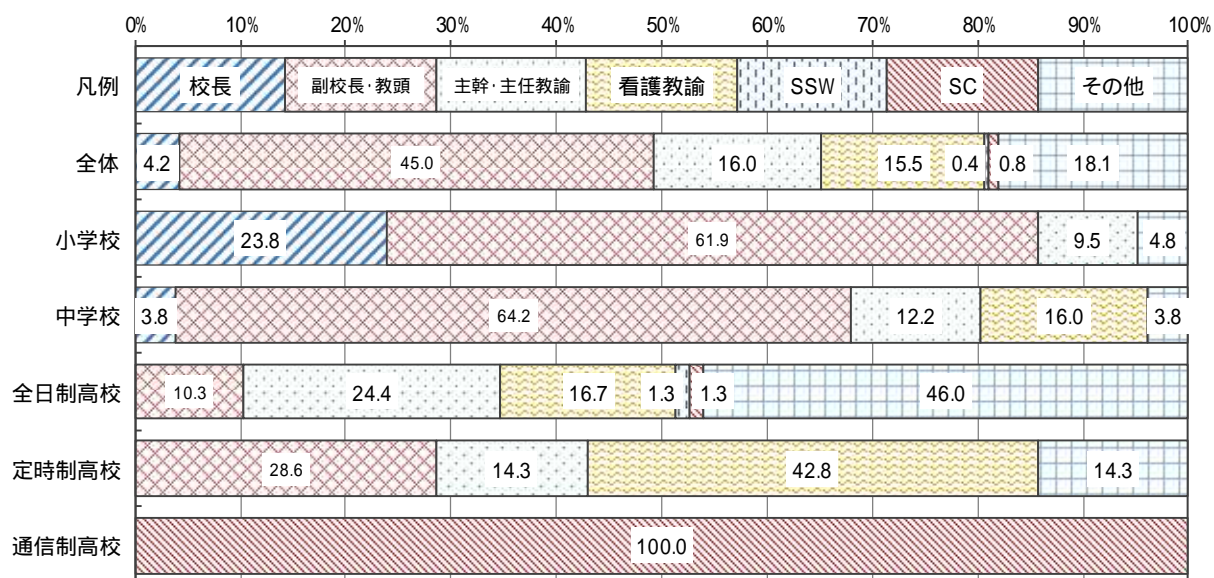


回答者の役職

回答者の役職は、小学校、中学校では「副校長・教頭」が最も高く、小学校で 61.9%、中学校で 64.2%（国：58.1%）となっている。全日制高校では「その他」が最も高く 46.0%（国：16.5%）、定時制高校では「養護教諭」が最も高く 42.8%（国：7.4%）となっている。国の調査では、いずれにおいても「副校長・教頭」が最も高く、全日制高校で 53.0%、定時制高校で 74.1%、通信制高校で 71.4%となっている。

回答者の役職

	合計	校長	副校長・教頭	主幹・主任教諭	養護教諭	ワーカー（SSW）	スクールカウンセラー（SC）	その他
上段：実数 下段：%								
全体	238	10	107	38	37	1	2	43
	100.0	4.2	45.0	16.0	15.5	0.4	0.8	18.1
小学校	21	5	13	2	0	0	0	1
	100.0	23.8	61.9	9.5	0.0	0.0	0.0	4.8
中学校	131	5	84	16	21	0	0	5
	100.0	3.8	64.2	12.2	16.0	0.0	0.0	3.8
全日制高校	78	0	8	19	13	1	1	36
	100.0	0.0	10.3	24.4	16.7	1.3	1.3	46.0
定時制高校	7	0	2	1	3	0	0	1
	100.0	0.0	28.6	14.3	42.8	0.0	0.0	14.3
通信制高校	1	0	0	0	0	0	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0



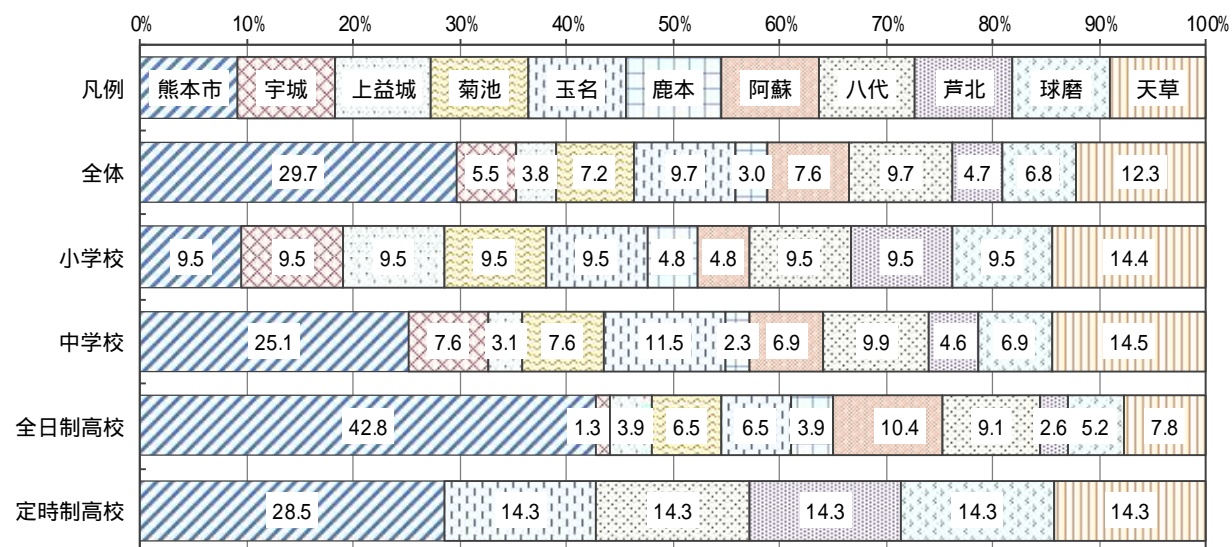
学校の所在地

学校の所在地（地域別）は、以下の通りである。

学校の所在地(地域別)

	合計	熊本市	宇城地域	上益城地域	菊池地域	玉名地域	鹿本地域	阿蘇地域	八代地域	芦北地域	球磨地域	天草地域
上段：実数 下段：%												
全体	236 100.0	70 29.7	13 5.5	9 3.8	17 7.2	23 9.7	7 3.0	18 7.6	23 9.7	11 4.7	16 6.8	29 12.3
小学校	21 100.0	2 9.5	2 9.5	2 9.5	2 9.5	2 9.5	1 4.8	1 4.8	2 9.5	2 9.5	2 9.5	3 14.4
中学校	131 100.0	33 25.1	10 7.6	4 3.1	10 7.6	15 11.5	3 2.3	9 6.9	13 9.9	6 4.6	9 6.9	19 14.5
全日制高校	77 100.0	33 42.8	1 1.3	3 3.9	5 6.5	5 6.5	3 3.9	8 10.4	7 9.1	2 2.6	4 5.2	6 7.8
定時制高校	7 100.0	2 28.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3

通信制高校については、回答数が少ないため、掲載していない。

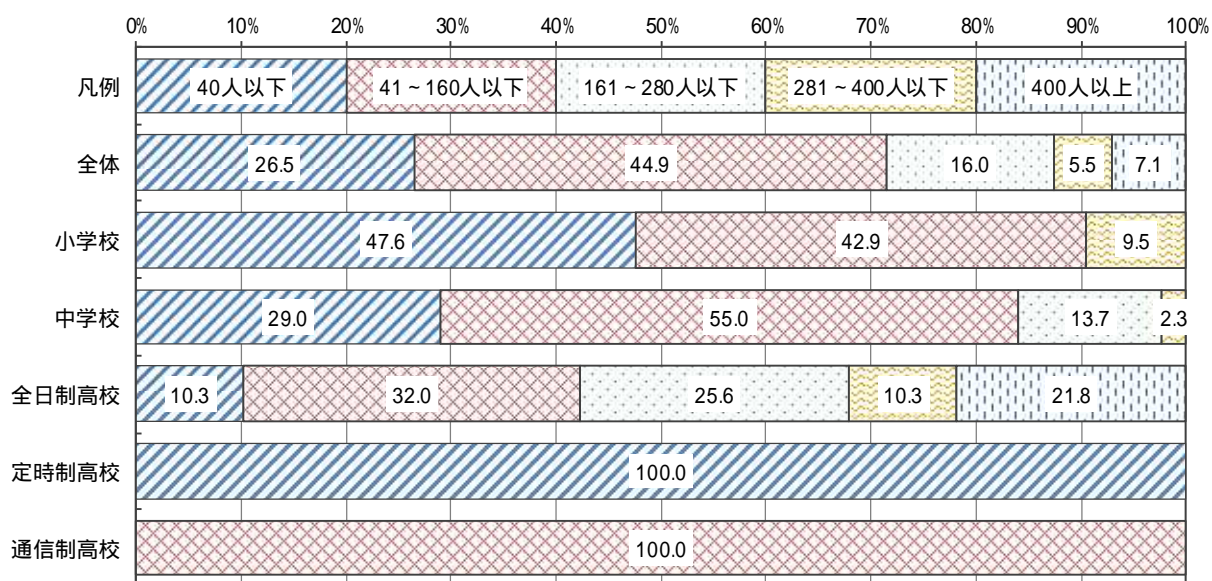


学校の規模 小学校は6年生の人数、中学校、高等学校は2年生の人数

小学校、定時制高校では「40人以下」が最も高く、小学校で47.6%、定時制高校で100.0%（国：40.7%）となっている。中学校、全日制高校では、国の調査と同様「41人～160人以下」が最も高く、中学校で55.0%（国：80.2%）、全日制高校で32.0%（国：51.0%）となっている。国の調査と比べて「40人以下」の割合が高く、中学校で29.0%（国：5.6%）、全日制高校で10.3%（国：2.0%）、定時制高校で100.0%（国：40.7%）となっている。

学校規模

	合計	学校規模				
		40人以下	41～160人以下	161～280人以下	281～400人以下	401人以上
上段：実数						
下段：%						
全体	238	63	107	38	13	17
	100.0	26.5	44.9	16.0	5.5	7.1
小学校	21	10	9	0	2	0
	100.0	47.6	42.9	0.0	9.5	0.0
中学校	131	38	72	18	3	0
	100.0	29.0	55.0	13.7	2.3	0.0
全日制高校	78	8	25	20	8	17
	100.0	10.3	32.0	25.6	10.3	21.8
定時制高校	7	7	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通信制高校	1	0	1	0	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0



(4) 支援が必要だと思われる子どもへの対応

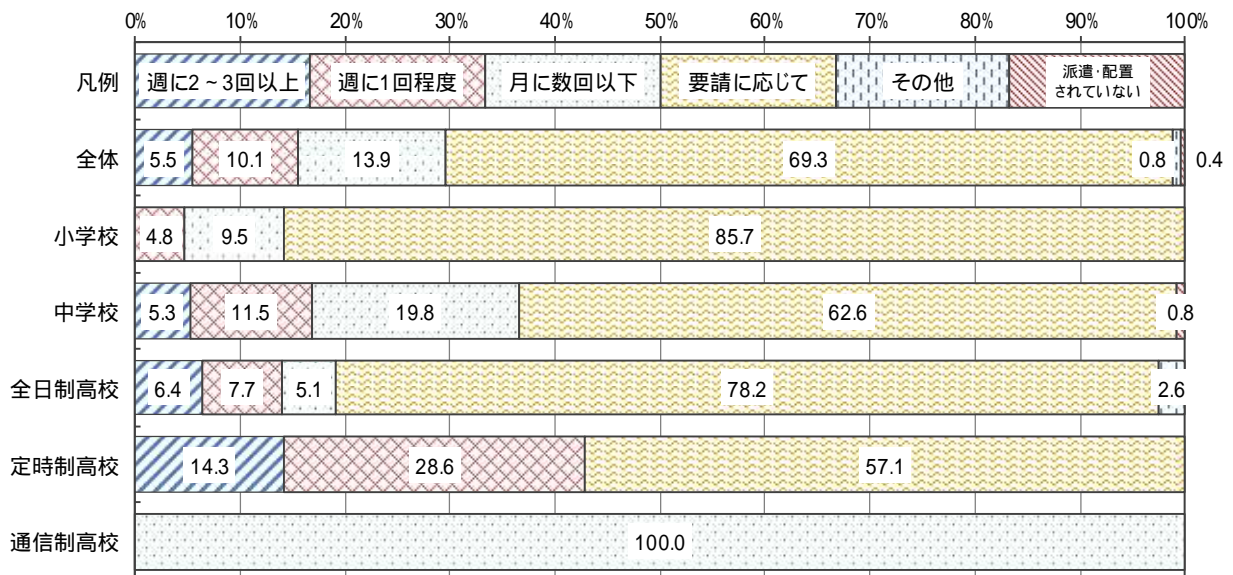
スクールソーシャルワーカー（以下、SSW）、スクールカウンセラー（以下、SC）配置・派遣状況

SSWの配置・派遣状況については、小学校、中学校、全日制高校、定時制高校で、ともに「要請に応じて派遣される」が最も高く、小学校で85.7%、中学校で62.6%（国：50.7%）、全日制高校で78.2%（国：51.4%）、定時制高校で57.1%（国：29.6%）となっている。

SCの配置・派遣状況については、小学校、中学校、全日制高校、定時制高校で、ともに「月に数回以下で派遣・配置されている」が最も高く、小学校で71.4%、中学校で45.0%（国：20.6%）、全日制高校で55.1%（国：55.0%）、定時制高校で71.4%（国：40.7%）となっている。国の調査では、中学校では「週に1回程度派遣・配置されている」が最も高く65.1%となっている。

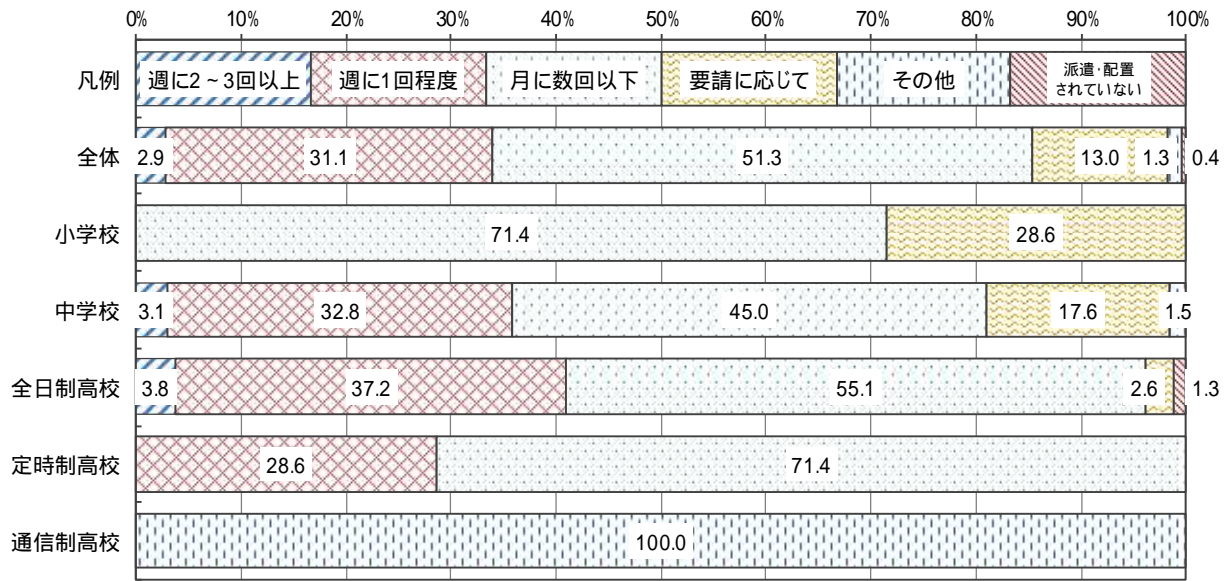
SSWの配置・派遣状況

	合計	れ上週 て派に い遣2 る・） 配3 置回 さ以	い遣週 る・に 配1 置回 さ程 れ度 て派	て派月 い遣に る・数 配回 置以 さ下 れで	遣要 さ請 れに 応じ て派	そ の 他	て派 い遣 な・ い配 置さ れ
全体	238 100.0	13 5.5	24 10.1	33 13.9	165 69.3	2 0.8	1 0.4
小学校	21 100.0	0 0.0	1 4.8	2 9.5	18 85.7	0 0.0	0 0.0
中学校	131 100.0	7 5.3	15 11.5	26 19.8	82 62.6	0 0.0	1 0.8
全日制高校	78 100.0	5 6.4	6 7.7	4 5.1	61 78.2	2 2.6	0 0.0
定時制高校	7 100.0	1 14.3	2 28.6	0 0.0	4 57.1	0 0.0	0 0.0
通信制高校	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



SCの配置・派遣状況

上段：実数 下段：%	合計	れ上週 て派に い遣2 る・ 配3 置回 さ以	い遣週 る・に 配1 置回 さ程 れ度 て派	て派月 い遣に る・数 配回 置以 さ下 れで	遣要 さ請 れに る応 じて 派	その他	て派 い遣 ない 配置 され
	全体	238 100.0	7 2.9	74 31.1	122 51.3	31 13.0	3 1.3
小学校	21 100.0	0 0.0	0 0.0	15 71.4	6 28.6	0 0.0	0 0.0
中学校	131 100.0	4 3.1	43 32.8	59 45.0	23 17.6	2 1.5	0 0.0
全日制高校	78 100.0	3 3.8	29 37.2	43 55.1	2 2.6	0 0.0	1 1.3
定時制高校	7 100.0	0 0.0	2 28.6	5 71.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
通信制高校	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

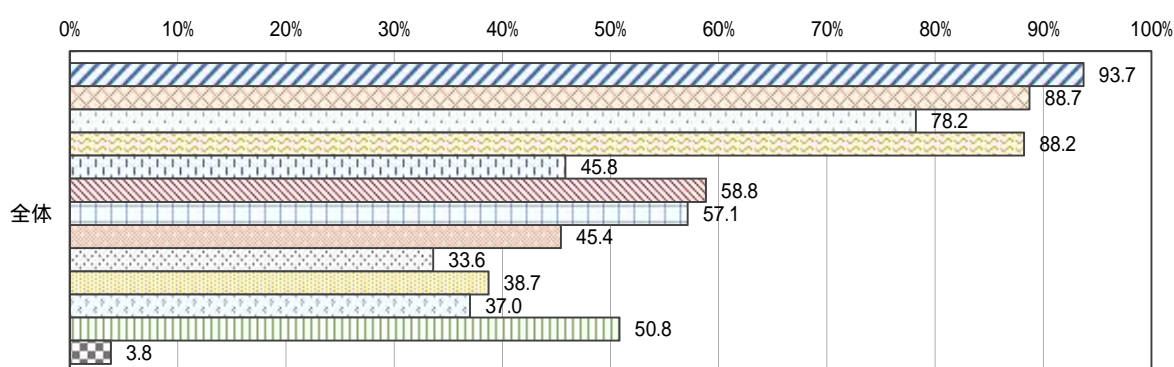


校内で共有している子どものケース

校内で共有している子どものケースについて聞いたところ、小学生では「学校を休みがちである」「遅刻や早退が多い」がともに 90.5%と最も高く、中学生、全日制高校は、ともに「学校を休みがちである」がそれぞれ最も高く、中学校で 95.4%（国：99.5%）、全日制高校で 92.3%（国：97.6%）となっている。次いで、「精神的な不安定さがある」が中学校で 87.8%（国：95.0%）、全日制高校で 91.0%（国：91.2%）、「遅刻や早退が多い」が中学校で 87.8%（国：88.1%）、全日制高校で 89.7%（国：79.1%）となっている。

校内で共有している子どものケース(複数回答)

	合計	学校を休みがちである	遅刻や早退が多い	多 保 健 室 で 過 ご し て い る こ と が	精 神 的 な 不 安 定 さ が あ る	身 だ し な み が 整 っ て い な い	学 力 が 低 下 し て い る	宿 題 や 持 ち 物 の 忘 れ 物 が 多 い	の 保 護 者 の 承 諾 が 必 要 な 書 類 等 の 提 出 遅 れ や 提 出 忘 れ が 多 い	も ら え な い も の を 用 意 し て	学 校 に 必 要 な も の を 用 意 し て ま ら な い	部 活 を 途 中 で や め て し ま っ た	修 学 旅 行 や 宿 泊 行 事 等 を 欠 席 す る	校 納 金 が 遅 れ る 、 未 払 い	そ の 他
全体	238 - 93.7	223 - 93.7	211 - 88.7	186 - 78.2	210 - 88.2	109 - 45.8	140 - 58.8	136 - 57.1	108 - 45.4	80 - 33.6	92 - 38.7	88 - 37.0	121 - 50.8	9 - 3.8	
小学校	21 - 90.5	19 - 90.5	19 - 90.5	12 - 57.1	16 - 76.2	10 - 47.6	9 - 42.9	12 - 57.1	12 - 57.1	9 - 42.9	1 - 4.8	4 - 19.0	8 - 38.1	0 - 0.0	
中学校	131 - 95.4	125 - 95.4	115 - 87.8	108 - 82.4	115 - 87.8	66 - 50.4	78 - 59.5	80 - 61.1	63 - 48.1	50 - 38.2	61 - 46.6	56 - 42.7	64 - 48.9	6 - 4.6	
全日制高校	78 - 92.3	72 - 92.3	70 - 89.7	63 - 80.8	71 - 91.0	31 - 39.7	46 - 59.0	41 - 52.6	31 - 39.7	21 - 26.9	29 - 37.2	28 - 35.9	45 - 57.7	3 - 3.8	
定時制高校	7 - 85.7	6 - 85.7	6 - 85.7	3 - 42.9	7 - 100.0	2 - 28.6	6 - 85.7	2 - 28.6	1 - 14.3	0 - 0.0	0 - 0.0	0 - 0.0	3 - 42.9	0 - 0.0	
通信制高校	1 - 100.0	1 - 100.0	1 - 100.0	0 - 0.0	1 - 100.0	0 - 0.0	1 - 100.0	1 - 100.0	1 - 100.0	0 - 0.0	1 - 100.0	0 - 0.0	1 - 100.0	0 - 0.0	



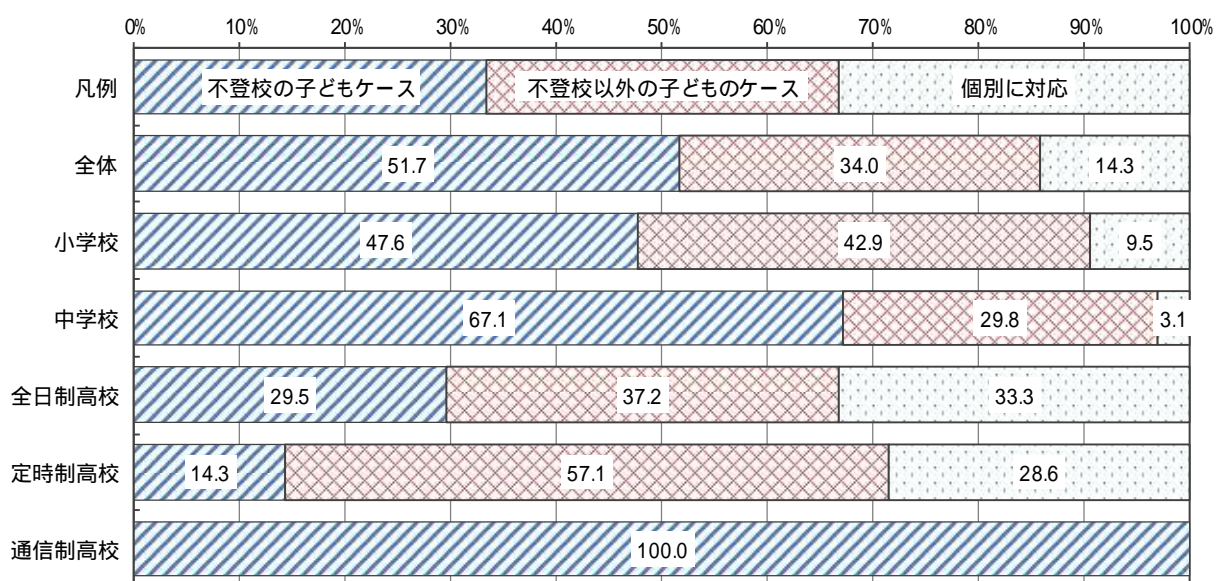
- 学校を休みがちである
- 保健室で過ごしていることが多い
- 身だしなみが整っていない
- 宿題や持ち物の忘れ物が多い
- 学校に必要なものを用意してもらえない
- 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
- その他
- 遅刻や早退が多い
- 精神的な不安定さがある
- 学力が低下している
- 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
- 部活を途中でやめてしまった
- 校納金が遅れる、未払い

情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについての情報共有・対応の検討体制について聞いたところ、小学校、中学校ともに「不登校の子どもに関する校内の検討体制で検討している」がそれぞれ小学校で 47.6%、中学校で 67.1%（国：63.8%）と最も高く、全日制高校、定時制高校では国の調査同様、「不登校以外の子どもに関する校内の検討体制で検討している」が全日制高校で 37.2%（国：37.3%）、定時制高校で 57.1%（国：40.7%）と最も高くなっている。

情報共有・対応の検討体制

	合計	不登校の子どもに関する校内の検討体制で検討している	不登校以外の子どもに関する校内の検討体制で検討している	個別に対応している（決）
上段：実数				
下段：%				
全体	238	123	81	34
	100.0	51.7	34.0	14.3
小学校	21	10	9	2
	100.0	47.6	42.9	9.5
中学校	131	88	39	4
	100.0	67.1	29.8	3.1
全日制高校	78	23	29	26
	100.0	29.5	37.2	33.3
定時制高校	7	1	4	2
	100.0	14.3	57.1	28.6
通信制高校	1	1	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0



校内の検討体制

「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した学校に、校内の情報共有・対応の検討体制について聞いた結果は以下とおりである。

情報共有・対応の検討方法

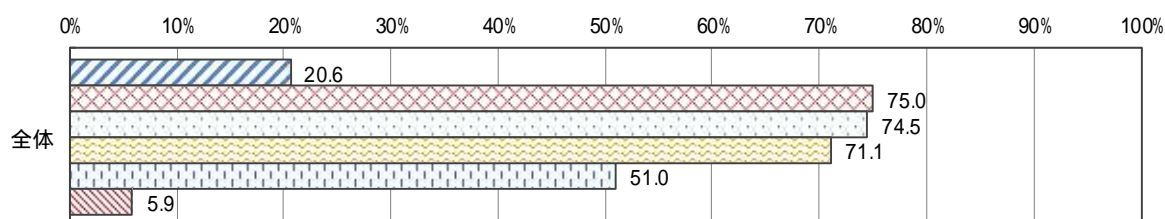
小学校、全日制高校では「ケース会議」が最も高く、小学校で 89.5%、全日制高校で 76.9%（国：60.1%）となっている。中学校では国の調査同様、「生活指導部・委員会など」が最も高く 87.4%（国：88.1%）となっている。

校内の情報共有・対応の検討方法(複数回答)

	合計	スクリーニング会議 (1)	ケース会議	生徒指導部・委員会など	児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有 (2)	児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名	その他
上段：実数 下段：%							
全体	204 -	42 20.6	153 75.0	152 74.5	145 71.1	104 51.0	12 5.9
小学校	19 -	2 10.5	17 89.5	12 63.2	12 63.2	5 26.3	2 10.5
中学校	127 -	26 20.5	93 73.2	111 87.4	92 72.4	65 51.2	5 3.9
全日制高校	52 -	11 21.2	40 76.9	26 50.0	36 69.2	29 55.8	5 9.6
定時制高校	5 -	2 40.0	2 40.0	3 60.0	4 80.0	4 80.0	0 0.0
通信制高校	1 -	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0

(1) スクリーニング会議とは、すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、混在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議

(2) 「教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名」を短縮して記載しています



□スクリーニング会議

□ケース会議

□生徒指導部・委員会など

□児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有

□課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名

□その他

) 会議に参加する教職員、会議の頻度

情報共有・対応の検討で「スクリーニング会議」、「ケース会議」、「生徒指導部・委員会など」、「その他」と回答した学校に、それぞれの会議の参加者、頻度を聞いた結果は以下のとおりである。

会議の参加者(複数回答) スクリーニング会議

	合計	校長	副校長・教頭	学年主任	担当教諭	生徒指導教諭	看護教諭	S S W	S C	外部の 関係 機関	その他
上段：実数											
下段：%											
全体	42	33	36	31	27	27	31	7	12	3	12
	-	78.6	85.7	73.8	64.3	64.3	73.8	16.7	28.6	7.1	28.6
小学校	2	2	2	0	2	1	2	0	0	0	0
	-	100.0	100.0	0.0	100.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中学校	26	26	26	21	15	19	19	4	6	1	8
	-	100.0	100.0	80.8	57.7	73.1	73.1	15.4	23.1	3.8	30.8
全日制高校	11	3	6	8	7	5	8	2	4	1	4
	-	27.3	54.5	72.7	63.6	45.5	72.7	18.2	36.4	9.1	36.4
定時制高校	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	0
	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0
通信制高校	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
	-	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

会議の参加者(複数回答) ケース会議

	合計	校長	副校長・教頭	学年主任	担当教諭	生徒指導教諭	看護教諭	S S W	S C	外部の 関係 機関	その他
上段：実数											
下段：%											
全体	153	92	127	119	138	71	136	84	59	42	35
	-	60.1	83.0	77.8	90.2	46.4	88.9	54.9	38.6	27.5	22.9
小学校	17	16	15	6	16	11	16	7	4	3	5
	-	94.1	88.2	35.3	94.1	64.7	94.1	41.2	23.5	17.6	29.4
中学校	93	72	85	74	83	45	82	61	38	28	13
	-	77.4	91.4	79.6	89.2	48.4	88.2	65.6	40.9	30.1	14.0
全日制高校	40	4	26	39	36	15	36	14	16	8	17
	-	10.0	65.0	97.5	90.0	37.5	90.0	35.0	40.0	20.0	42.5
定時制高校	2	0	1	0	2	0	2	2	0	2	0
	-	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
通信制高校	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0
	-	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0

会議の参加者(複数回答) 生徒指導部・委員会など

	合計	校長	副校長・教頭	学年主任	担当教諭	生徒指導教諭	看護教諭	S S W	S C	外部の 関係 機関	その他
上段：実数 下段：%											
全体	152	115	138	73	54	129	121	13	14	1	39
	-	75.7	90.8	48.0	35.5	84.9	79.6	8.6	9.2	0.7	25.7
小学校	12	11	12	4	8	11	11	2	2	0	1
	-	91.7	100.0	33.3	66.7	91.7	91.7	16.7	16.7	0.0	8.3
中学校	111	102	103	48	29	97	87	8	9	1	22
	-	91.9	92.8	43.2	26.1	87.4	78.4	7.2	8.1	0.9	19.8
全日制高校	26	2	20	19	16	18	20	3	3	0	15
	-	7.7	76.9	73.1	61.5	69.2	76.9	11.5	11.5	0.0	57.7
定時制高校	3	0	3	2	1	3	3	0	0	0	1
	-	0.0	100.0	66.7	33.3	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3
通信制高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

会議の参加者(複数回答) その他

	合計	校長	副校長・教頭	学年主任	担当教諭	生徒指導教諭	看護教諭	S S W	S C	外部の 関係 機関	その他
上段：実数 下段：%											
全体	12	6	6	8	7	5	8	2	2	0	10
	-	50.0	50.0	66.7	58.3	41.7	66.7	16.7	16.7	0.0	83.3
小学校	2	2	2	1	2	2	2	0	0	0	1
	-	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0
中学校	5	4	4	4	2	2	4	1	0	0	5
	-	80.0	80.0	80.0	40.0	40.0	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0
全日制高校	5	0	0	3	3	1	2	1	2	0	4
	-	0.0	0.0	60.0	60.0	20.0	40.0	20.0	40.0	0.0	80.0
定時制高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通信制高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

会議の頻度

スクリーニング会議

上段：実数 下段：%	合計	2週間に1回以上	月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度
	全体	42 100.0	10 23.8	21 50.0	10 23.8
小学校	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
中学校	26 100.0	8 30.8	13 50.0	4 15.4	1 3.8
全日制高校	11 100.0	2 18.2	5 45.4	4 36.4	0 0.0
定時制高校	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
通信制高校	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

ケース会議

上段：実数 下段：%	合計	2週間に1回以上	月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度
	全体	153 100.0	24 15.7	80 52.2	48 31.4
小学校	17 100.0	2 11.8	14 82.3	1 5.9	0 0.0
中学校	93 100.0	12 12.9	50 53.8	31 33.3	0 0.0
全日制高校	40 100.0	10 25.0	15 37.5	14 35.0	1 2.5
定時制高校	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
通信制高校	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

生徒指導部・委員会など

上段：実数 下段：%	合計	2週間に1回以上	月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度
	全体	152 100.0	84 55.2	60 39.5	7 4.6
小学校	12 100.0	0 0.0	11 91.7	1 8.3	0 0.0
中学校	111 100.0	67 60.4	42 37.8	2 1.8	0 0.0
全日制高校	26 100.0	17 65.5	5 19.2	3 11.5	1 3.8
定時制高校	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0
通信制高校	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

その他

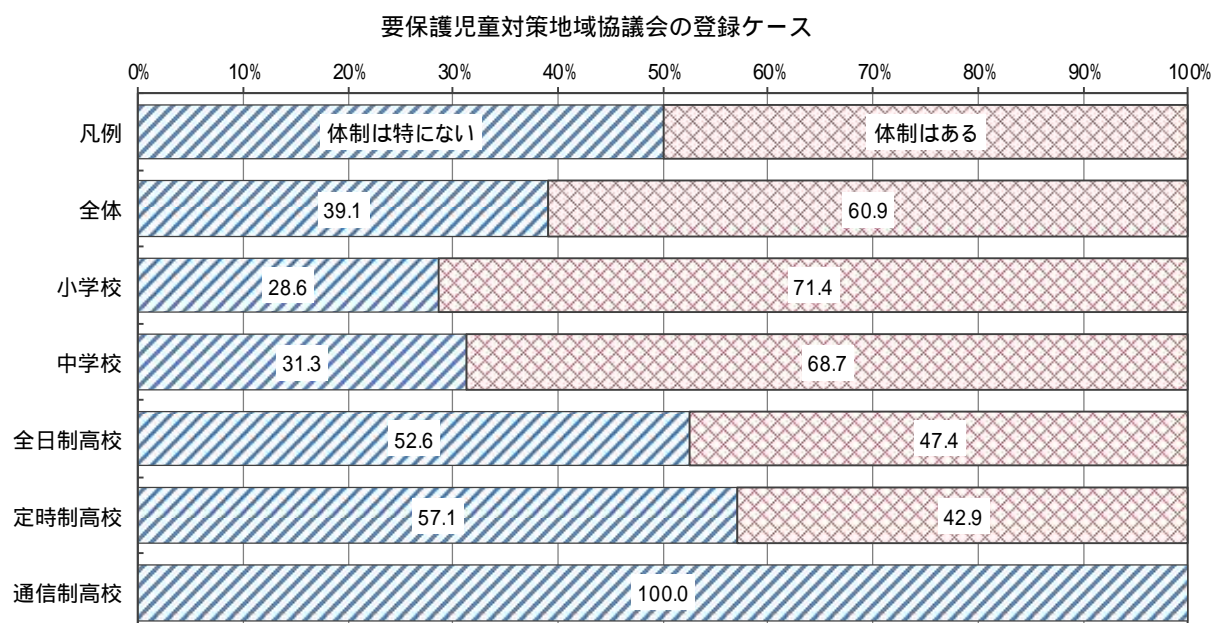
上段：実数 下段：%	合計	2週間に1回以上	月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度
	全体	12 100.0	6 50.1	4 33.3	1 8.3
小学校	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
中学校	5 100.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0
全日制高校	5 100.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
定時制高校	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
通信制高校	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

外部との情報共有・対応の検討体制

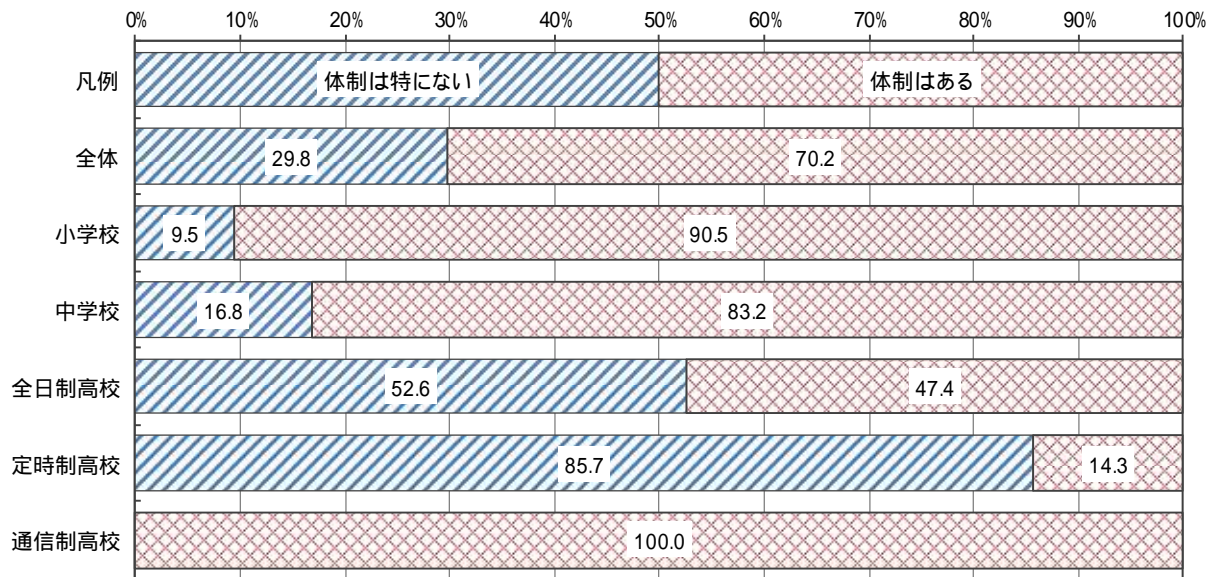
校内で共有している子どものケースについて学校以外の関係機関と連携する体制があるかどうか、また体制がある場合、連携する関係機関について聞いたところ、結果は以下のとおりである。

体制の有無では、いずれの場合においても、小学校、中学校では「体制がある」の割合が高く、全日制高校、定時制高校では「体制は特にない」の割合が高くなっている。国の調査では「それ以外」については、全日制高校、定時制高校、通信制高校とも「体制はある」の割合が高くなっている。

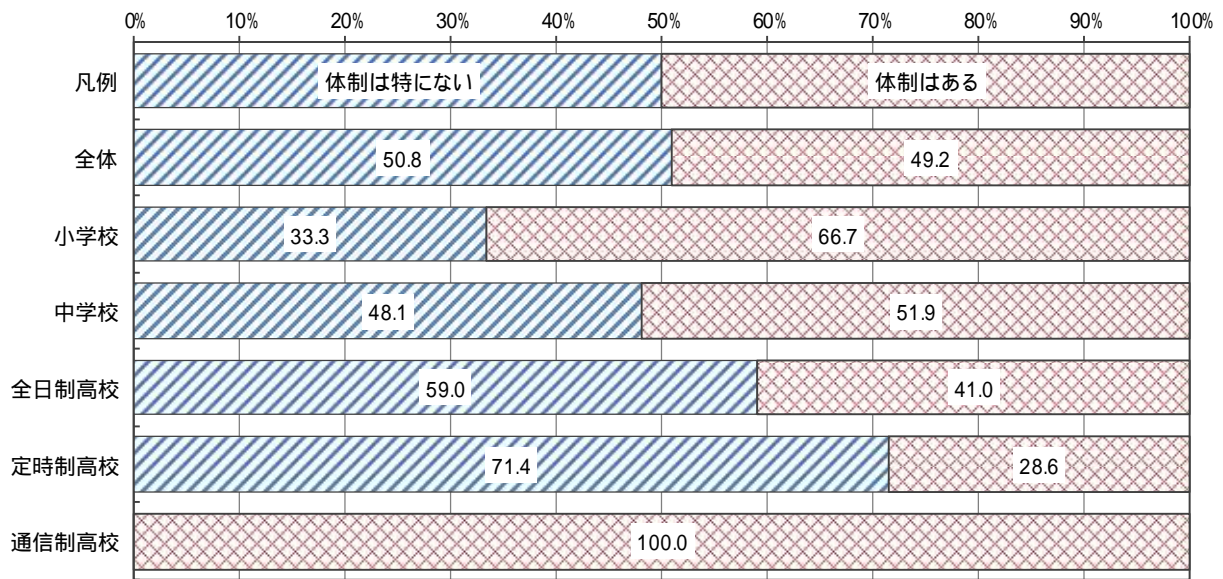
要保護児童対策地域協議会の登録ケース	体制の有無			要保護児童対策地域協議会の登録ケース	不登校のケース			要保護児童対策地域協議会の登録ケース	それ以外		
	合計	体制は特にない	体制はある		合計	体制は特にない	体制はある		合計	体制は特にない	体制はある
上段：実数 下段：%				上段：実数 下段：%				上段：実数 下段：%			
全体	238 100.0	93 39.1	145 60.9	全体	238 100.0	71 29.8	167 70.2	全体	238 100.0	121 50.8	117 49.2
小学校	21 100.0	6 28.6	15 71.4	小学校	21 100.0	2 9.5	19 90.5	小学校	21 100.0	7 33.3	14 66.7
中学校	131 100.0	41 31.3	90 68.7	中学校	131 100.0	22 16.8	109 83.2	中学校	131 100.0	63 48.1	68 51.9
全日制高校	78 100.0	41 52.6	37 47.4	全日制高校	78 100.0	41 52.6	37 47.4	全日制高校	78 100.0	46 59.0	32 41.0
定時制高校	7 100.0	4 57.1	3 42.9	定時制高校	7 100.0	6 85.7	1 14.3	定時制高校	7 100.0	5 71.4	2 28.6
通信制高校	1 100.0	1 100.0	0 0.0	通信制高校	1 100.0	0 0.0	1 100.0	通信制高校	1 100.0	0 0.0	1 100.0



不登校のケース



それ以外

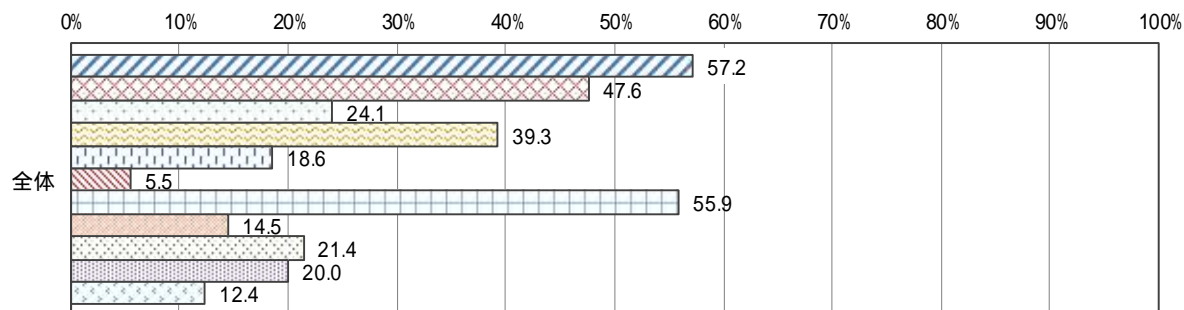


連携する関係機関では「要保護児童対策地域協議会の登録ケース」については、小学校、中学校では「市区町村教育委員会」の割合が最も高く小学校で73.3%、中学校で74.4%（国：56.7%）
 全日制高校では、国の調査同様、「児童相談所」の割合が最も高く59.5%（国：63.0%）
 全日制高校では、国の調査同様、「児童相談所」の割合が最も高く59.5%（国：63.0%）
 国調査では、中学校で「市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門」が最も高く60.0%となっている。

「不登校のケース」、「それ以外」については、小学校、中学校では「市区町村教育委員会」の割合が最も高く、全日制高校では「病院」の割合が最も高くなっている。

関係機関(複数回答) 要保護児童対策地域協議会の登録ケース

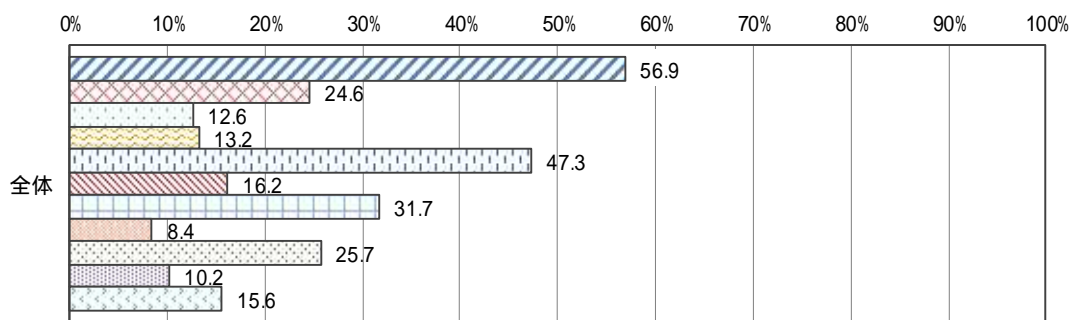
	合計	市区町村教育委員会	市区町村の福祉部門(4)を除く	市区町村の保健部門	市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	教育支援センター(適応指導教室)	の民間団体・施設	児童相談所	民生委員	病院	警察や刑事司法関係機関	その他
全体	145	83	69	35	57	27	8	81	21	31	29	18
	-	57.2	47.6	24.1	39.3	18.6	5.5	55.9	14.5	21.4	20.0	12.4
小学校	15	11	10	8	9	3	0	9	2	0	3	0
	-	73.3	66.7	53.3	60.0	20.0	0.0	60.0	13.3	0.0	20.0	0.0
中学校	90	67	48	23	37	18	5	48	17	18	15	7
	-	74.4	53.3	25.6	41.1	20.0	5.6	53.3	18.9	20.0	16.7	7.8
全日制高校	37	5	8	4	11	6	3	22	2	13	11	11
	-	13.5	21.6	10.8	29.7	16.2	8.1	59.5	5.4	35.1	29.7	29.7
定時制高校	3	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0
	-	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
通信制高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



- 市区町村教育委員会
- 市区町村の福祉部門(4)を除く
- 市区町村の保健部門
- 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関
- 教育支援センター
- フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
- 児童相談所
- 民生委員
- 病院
- 警察や刑事司法関係機関
- その他

関係機関(複数回答) 不登校のケース

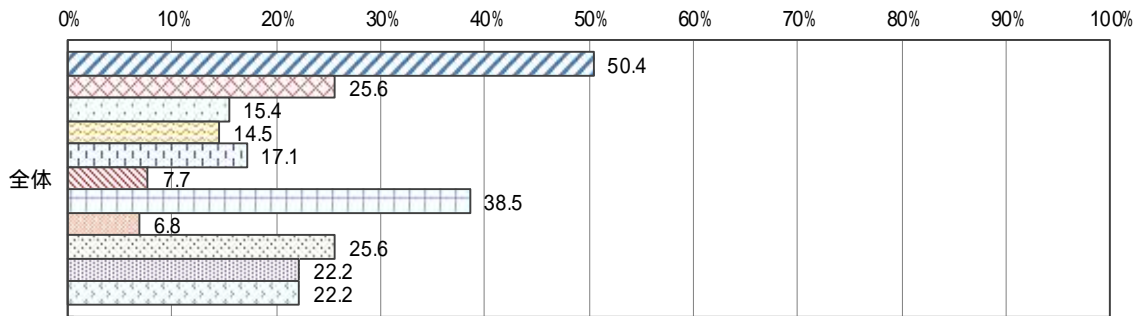
	合計	市区町村教育委員会	市区町村の福祉部門(4)を除く	市区町村の保健部門	議会の調整機関/虐待対応部門	市区町村の要保護児童対策地域協議会	教育支援センター(適応指導教室)	の民間団体・施設	児童相談所	民生委員	病院	警察や刑事司法関係機関	その他
上段：実数	167	95	41	21	22	79	27	53	14	43	17	26	
下段：%	-	56.9	24.6	12.6	13.2	47.3	16.2	31.7	8.4	25.7	10.2	15.6	
全体	167	95	41	21	22	79	27	53	14	43	17	26	
小学校	19	11	5	3	1	9	2	7	1	0	1	2	
中学校	109	79	30	15	17	62	22	31	12	27	10	10	
全日制高校	37	5	5	3	4	8	3	14	1	15	6	12	
定時制高校	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
通信制高校	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	



- 市区町村教育委員会
- 市区町村の保健部門
- 教育支援センター
- 児童相談所
- 病院
- その他
- 市区町村の福祉部門(4)を除く
- 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関
- フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
- 民生委員
- 警察や刑事司法関係機関

関係機関(複数回答) それ以外

	合計	市区町村教育委員会	市区町村の福祉部門(4)を除く	市区町村の保健部門	市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	教育支援センター(適応指導教室)	フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	児童相談所	民生委員	病院	警察や刑事司法関係機関	その他
上段: 実数	117	59	30	18	17	20	9	45	8	30	26	26
下段: %	-	50.4	25.6	15.4	14.5	17.1	7.7	38.5	6.8	25.6	22.2	22.2
全体	117	59	30	18	17	20	9	45	8	30	26	26
小学校	14	11	5	3	2	1	0	5	0	0	2	3
中学校	68	45	17	12	10	16	7	26	7	13	13	7
全日制高校	32	3	7	3	5	3	2	13	1	15	11	14
定時制高校	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
通信制高校	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1



- 市区町村教育委員会
- 市区町村の福祉部門(4)を除く
- 市区町村の保健部門
- 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関
- 教育支援センター
- フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
- 児童相談所
- 民生委員
- 病院
- 警察や刑事司法関係機関
- その他

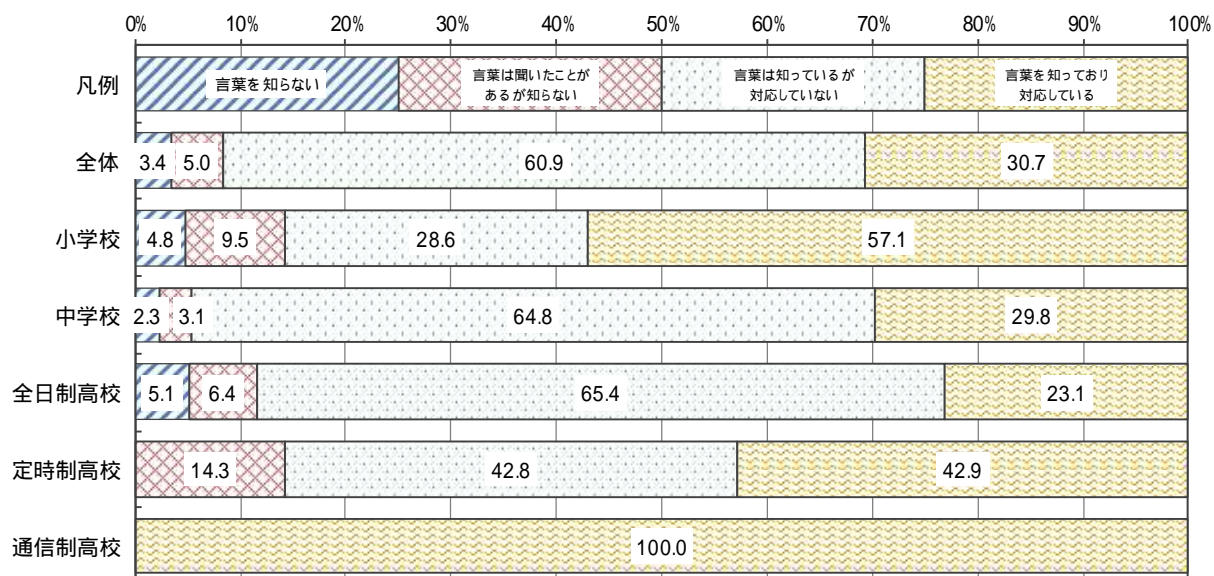
(5) ヤングケアラーについて

「ヤングケアラー」の概念の認識

「ヤングケアラー」の概念の認識について聞いたところ、小学生、定時制高校では「言葉を知っており、学校として意識して対応している」が、小学校で 57.1%、定時制高校で 42.9%（国：22.2%）と最も高く、中学校、全日制高校では、国の調査同様、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が最も高く、中学校で 64.8%（国：37.9%）全日制高校で 65.4%（国：53.0%）となっている。国の調査に比べて、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」の割合が高く、「言葉を知らない」の割合が低い。

「ヤングケアラー」の概念の認識

	合計	言葉を知らない	言葉は聞いたことがあるが知らない	言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない	言葉を知っており、学校として意識して対応している
上段：実数 下段：%					
全体	238 100.0	8 3.4	12 5.0	145 60.9	73 30.7
小学校	21 100.0	1 4.8	2 9.5	6 28.6	12 57.1
中学校	131 100.0	3 2.3	4 3.1	85 64.8	39 29.8
全日制高校	78 100.0	4 5.1	5 6.4	51 65.4	18 23.1
定時制高校	7 100.0	0 0.0	1 14.3	3 42.8	3 42.9
通信制高校	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

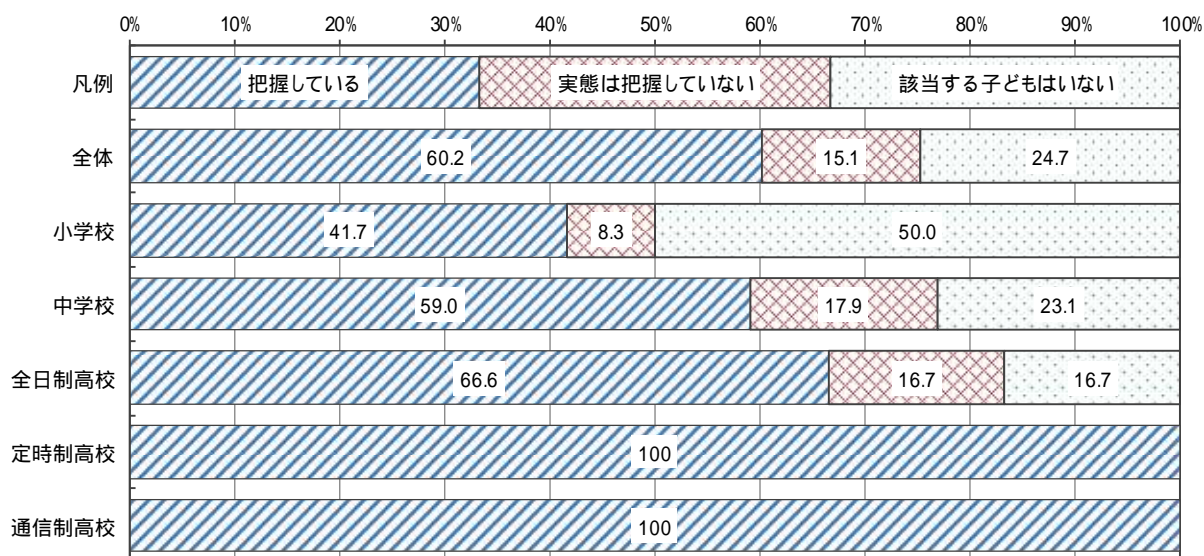


「ヤングケアラー」の実態把握の状況

「ヤングケアラー」の概念について「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校に、子どもの実態把握の状況について聞いたところ、小学校では「該当する子どもはいない(これまでもいなかった)」が50.0%と最も高く、中学校、全日制高校では、国の調査同様、「把握している」が最も高く、中学校で59.0%（国：61.2%）、全日制高校で66.6%（国：45.8%）となっている。

「ヤングケアラー」の実態把握の状況

	合計	把握している	「ヤングケアラー」は把握しているが、その実態は把握していない	「該当する子どもはいない(これまでもいなかった)」
全体	73 100.0	44 60.2	11 15.1	18 24.7
小学校	12 100.0	5 41.7	1 8.3	6 50.0
中学校	39 100.0	23 59.0	7 17.9	9 23.1
全日制高校	18 100.0	12 66.6	3 16.7	3 16.7
定時制高校	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0
通信制高校	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0

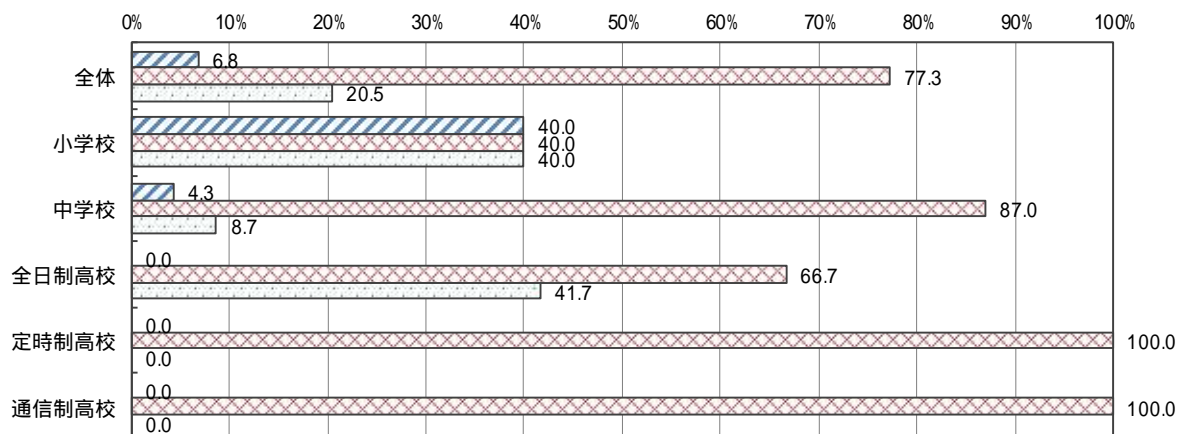


「ヤングケアラー」の把握方法

「ヤングケアラー」を「把握している」と回答した学校に、把握方法について聞いたところ、小学生では「アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている」、「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」、「その他」すべてにおいて同じ割合（40.0%）となっており、中学校、全日制高校では、国の調査同様、「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」が最も高く、中学校で87.0%（国：86.0%）、全日制高校で66.7%（国：81.8%）となっている。

「ヤングケアラー」の実態把握の方法（複数回答）

	合計	アセスメントシートなどのツールを用いている	特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している	その他
上段：実数 下段：%				
全体	44 -	3 6.8	34 77.3	9 20.5
小学校	5 -	2 40.0	2 40.0	2 40.0
中学校	23 -	1 4.3	20 87.0	2 8.7
全日制高校	12 -	0 0.0	8 66.7	5 41.7
定時制高校	3 -	0 0.0	3 100.0	0 0.0
通信制高校	1 -	0 0.0	1 100.0	0 0.0



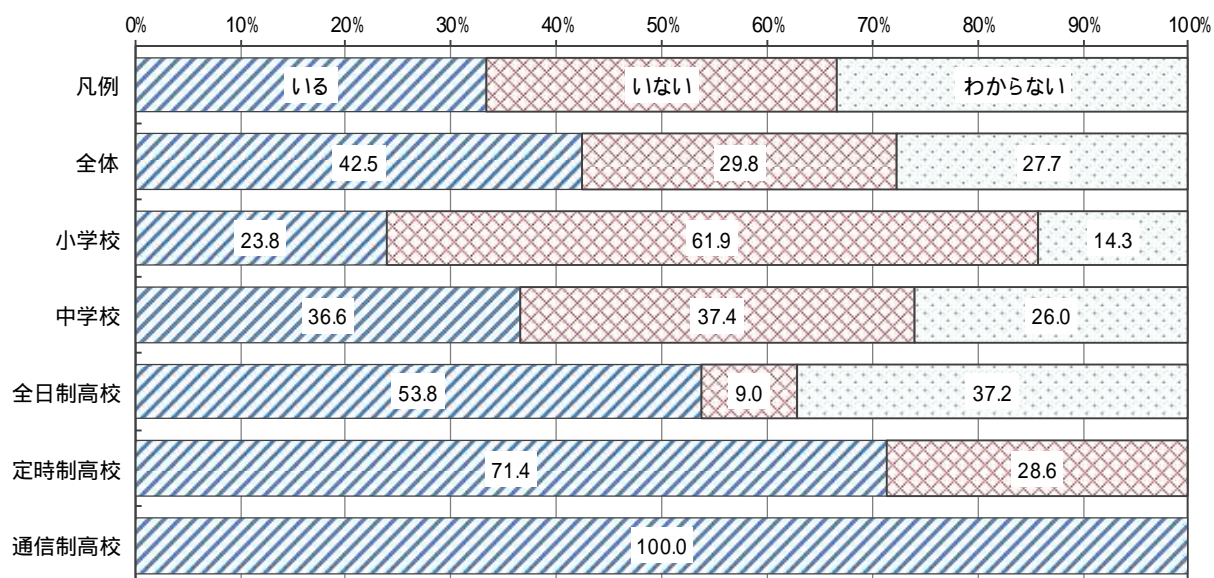
- ▨ アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
- ▤ 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
- ▩ その他

「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

「ヤングケアラー」の定義を示したうえで、該当すると思われる子どもの有無について聞いたところ、「いる」が小学校で 23.8%、中学校で 36.6%（国：46.6%）、全日制高校で 53.8%（国：49.8%）、定時制高校で 71.4%（国：70.4%）と、年齢が上がるにつれてその割合が増加している。

「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

	合計	いる	いない	わからない
上段：実数 下段：%				
全体	238	101	71	66
	100.0	42.5	29.8	27.7
小学校	21	5	13	3
	100.0	23.8	61.9	14.3
中学校	131	48	49	34
	100.0	36.6	37.4	26.0
全日制高校	78	42	7	29
	100.0	53.8	9.0	37.2
定時制高校	7	5	2	0
	100.0	71.4	28.6	0.0
通信制高校	1	1	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0



「ヤングケアラー」の概念について「言葉を知らない」、「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」と回答した学校においても、ヤングケアラーが「いる」という回答があり、「言葉を知らない」は 12.5%（国：42.1%）、「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」は 16.7%（国：41.2%）となっている。

「言葉を知らない」「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」と回答した学校は、「言葉は知っているが、学校として特別な対応をしていない」、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校に比べ、ヤングケアラーが「いる」と回答した割合が低くなっている。

「ヤングケアラー」の概念の認識×ヤングケアラーの有無

	合計	いる	いない	わからない
上段：実数 下段：%				
全体	238 100.0	101 42.5	71 29.8	66 27.7
言葉を知らない	8 100.0	1 12.5	1 12.5	6 75.0
言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	12 100.0	2 16.7	5 41.6	5 41.7
言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない	145 100.0	52 35.9	44 30.3	49 33.8
言葉を知っており、学校として意識して対応している	73 100.0	46 63.0	21 28.8	6 8.2

「ヤングケアラー」の状況について

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもが「いる」と回答した学校に、ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いた結果は以下のとおりである。

ヤングケアラーと思われる子どもの状況

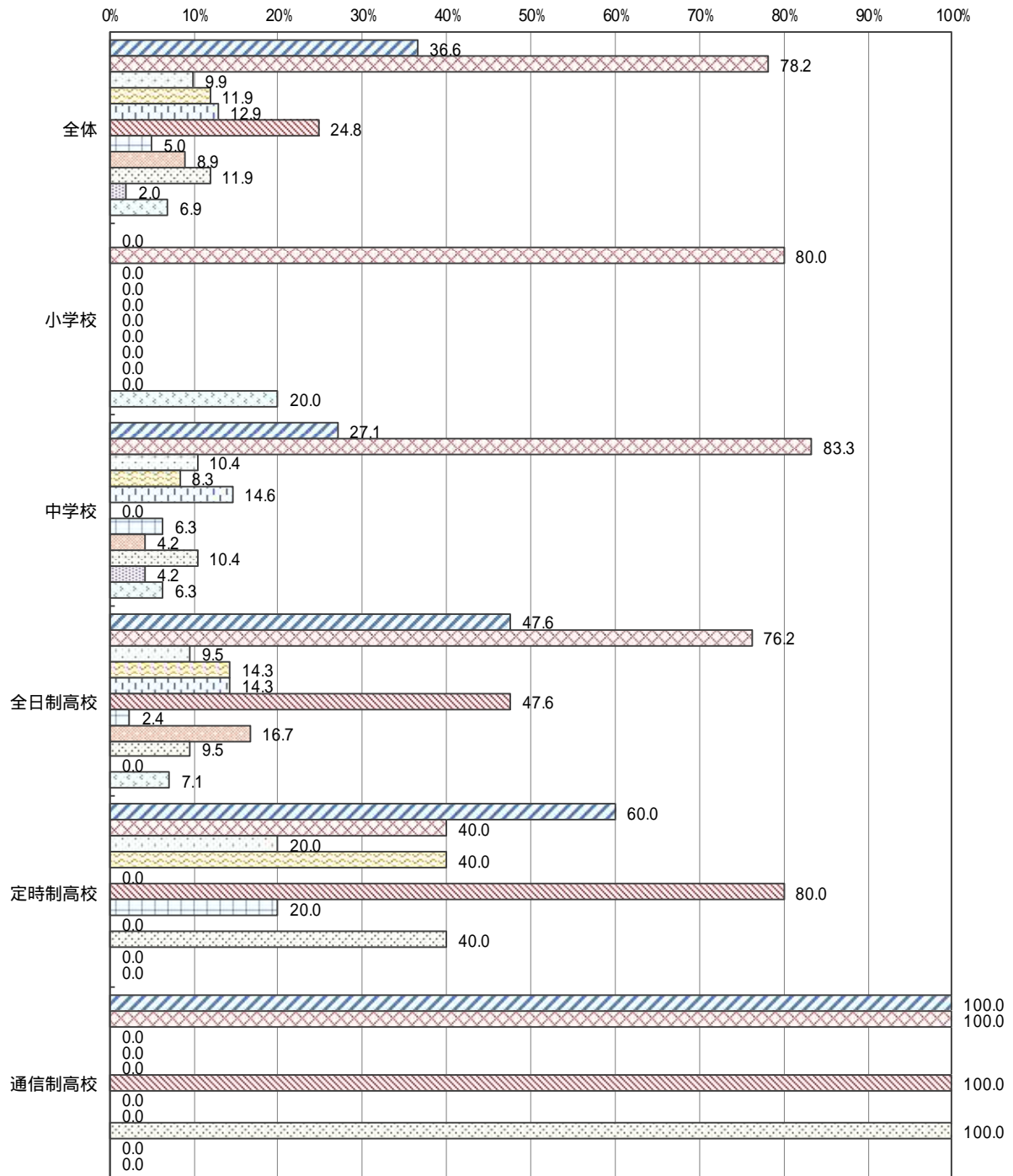
ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いたところ、小学校、中学校、全日制高校では「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が最も高く、小学校で 80.0%、中学校で 83.3%（国：79.8%）、全日制高校で 76.2%（国：70.2%）となっている。国の調査でも、中学校、全日制高校では「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が最も高い。

次いで、中学校では、国の調査同様、「障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている」が 27.1%（国 29.3%）、全日制高校では、「障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている」が 47.6%（国 56.5%）、「家計を支えるために、アルバイト等をしている」が 47.6%（国：64.5%）となっている。

定時制高校では「家計を支えるために、アルバイト等をしている」が最も高く 80.0%（国：78.9%）となっている。国の調査では、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が最も高く 94.7%となっている。

ヤングケアラーと思われる子どもの状況(複数回答)

	合計	洗濯、掃除など（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	障がいや病気のある家族の世話をしている	障がいや病気のある家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	障がいや病気のある家族の代わりに、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	障がいや病気のある家族の代わりに、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	障がいや病気のある家族の代わりに、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	障がいや病気のある家族の代わりに、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	障がいや病気のある家族の代わりに、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	障がいや病気のある家族の代わりに、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	障がいや病気のある家族の代わりに、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	その他
上段：実数	101	37	79	10	12	13	25	5	9	12	2	7	
下段：%	-	36.6	78.2	9.9	11.9	12.9	24.8	5.0	8.9	11.9	2.0	6.9	
全体													
小学校	5	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	-	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	
中学校	48	13	40	5	4	7	0	3	2	5	2	3	
	-	27.1	83.3	10.4	8.3	14.6	0.0	6.3	4.2	10.4	4.2	6.3	
全日制高校	42	20	32	4	6	6	20	1	7	4	0	3	
	-	47.6	76.2	9.5	14.3	14.3	47.6	2.4	16.7	9.5	0.0	7.1	
定時制高校	5	3	2	1	2	0	4	1	0	2	0	0	
	-	60.0	40.0	20.0	40.0	0.0	80.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	
通信制高校	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	
	-	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	



- 障がいや病気のある家族に代わり、家事をしている
- 家族に代わり、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている
- 家族の通訳をしている
- アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
- 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
- その他
- 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
- 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている
- 家計を支えるために、アルバイト等をしている
- 病気の家族の看病をしている
- 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

ヤングケアラーの概念について国の調査同様、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校の方が、子どもの状況が「障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている」という割合が高くなっている。

「ヤングケアラー」の概念の認識×ヤングケアラーと思われる子どもの状況(上位5位)

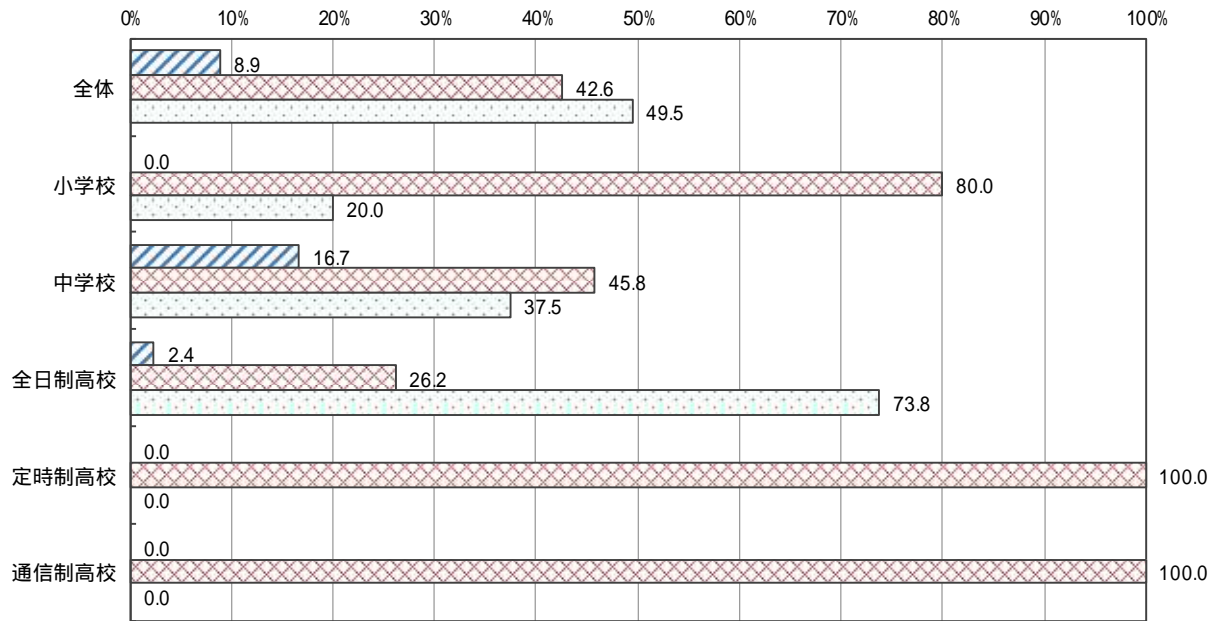
	合計	だ家の代話をりて、いるきよう	洗濯、掃除など（買い物）をして、家族に代	障がいや病気のある家族に代	家事を支えているために、アルバ	家族の通訳をしている	目を離せない家族の見守りや	障がいや病気のある家族の身
全体	101	79	37	25	13	12	12	
	-	78.2	36.6	24.8	12.9	11.9	11.9	
言葉を知らない	1	1	0	0	1	0	1	
	-	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	2	0	0	2	0	0	0	
	-	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない	52	44	19	13	5	3	4	
	-	84.6	36.5	25.0	9.6	5.8	7.7	
言葉を知っており、学校として意識して対応している	46	34	18	10	7	9	7	
	-	73.9	39.1	21.7	15.2	19.6	15.2	

）外部の支援につないだケースの有無

ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部の支援につないだケースがあるか聞いたところ、小学校、中学校では「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」が最も高く、小学校で 80.0%、中学校で 45.8%（国：43.0%）となっている。全日制高校では、国の調査同様、「外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」が 73.8%（国：62.9%）と最も高くなっている。

外部の支援につないだケースの有無(複数回答)

	合計	た 要 ケ ー ス が あ る	の 支 つ な い だ が ケ ー ス が あ る	の 支 つ な い だ が ケ ー ス が あ る	外 部 の 支 援 に は つ な い で い な い （ 学 校 内 で 対 応 し て い る ）
上段：実数 下段：%					
全体	101	9	43	50	- / 8.9 / 42.6 / 49.5
小学校	5	0	4	1	- / 0.0 / 80.0 / 20.0
中学校	48	8	22	18	- / 16.7 / 45.8 / 37.5
全日制高校	42	1	11	31	- / 2.4 / 26.2 / 73.8
定時制高校	5	0	5	0	- / 0.0 / 100.0 / 0.0
通信制高校	1	0	1	0	- / 0.0 / 100.0 / 0.0



- ▨ 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある
- ▩ 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある
- 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)

) 外部の支援につないだケースの有無

外部の支援につなげなかったケースについて、つなげなかった理由と対応方法について聞いたところ、以下のような回答があった。

つなげなかった理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実（詳細）の確認中のため ・ 学校の対応と中学入学以前から民生委員のケアがあったため ・ ヤングケアラーの概念を認識して間もないので、外部との連携までには至っていない ・ どこに繋いだらいいのかわからない ・ 実態として確認がとれている訳ではなく、家庭内の課題に学校がどこまで立ち入ってよいか分からない ・ 現在の状況は学校から外部に繋ぐまでの状況ではないと判断している ・ 学業には大きく影響がなく、本人が SC との面談により精神的安定が得られると言われたから ・ 校内の支援体制でやっていくことができている ・ 本人が希望しない など
対応方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の意思を尊重しているが、体調不良等の場合は、ヤングケアラーとしての背景を持っていることを意識している ・ 各学年や各部署で状況把握と対応を検討し、組織的に取り組んでいる ・ 教育相談で状況や様子、本人の思いを確認している ・ SC、SSW を活用した定期的な面談等 ・ 保護者と密な連携 ・ 本人との会話、日記、家庭への電話等で状況の把握を行っている ・ 日頃から本人と繋がり、本人が安心して心配事などを話ができるような信頼関係を築くようにしている ・ 保護者に対し、SSW の介入の承諾を取り、SSW との面談等を行う。学校側は SSW の報告を受け、学校側の支援策を検討する など

) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していることについて聞いたところ、以下のような回答があった。

- ・様々なケースがあるため、個々のケースを慎重に検討する必要があること
 - ・全職員で報告・連絡・相談・確認を徹底し、情報の共有を図り、早期発見・対応に努めている
 - ・本人の気持ちを大事にする。本人の話聞く。進路相談を丁寧に行う
 - ・生徒との何気ない会話や自学ノートの日記、班ノートにヤングケアラーの可能性がないかどうかを意識するようにしている
 - ・アンケートや面談の設定等、生徒が職員に相談しやすい機会を作る。支援にあたっては、SC や SSW と早期に連携する
 - ・家庭の事情をよく確認し、本人または家族とよく相談したうえで支援するようにしている
 - ・日常会話の中での気づき、子どもたちの変化、SOSに気づくこと
 - ・定期的な面談や月に1回の生活アンケートの実施を通して生徒の状況を把握している
 - ・家庭訪問を行い、家庭の状況を把握するとともに、本人とのコミュニケーションを欠かさず行っている
 - ・欠席・遅刻の理由や家族背景等を情報収集する中で、ヤングケアラーの関連性はないか把握している
 - ・事態が見えにくく、本人や家族からの相談につながりにくいので、本人や支援機関からの情報把握に努めている
 - ・学年会や委員会において生徒の出席・遅刻や心身の健康状況等を情報共有し、早期発見・早期対応を図ること
 - ・担任や養護教諭、心の教室相談員等、気になる生徒の情報があれば、不登校対策委員会や支援委員会等で確実に把握するようにしている
 - ・積極的に市役所等の外部機関と連携するようにしている
 - ・対応を急ぎすぎないこと(家庭での問題なので、家族の思いなどにも寄り添いながら進める)
 - ・日頃からコミュニケーションを図って信頼して相談できる関係を作っている
- など

) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることについて聞いたところ、以下のような回答があった。

- ・ 本人が認識していなかったり、家族が認識していなかったりするなど、対応が難しい
 - ・ 家庭への関わりをどの程度進めていくべきかの度合いや関係機関との連携の難しさ
 - ・ 生徒が、自分がヤングケアラーとは思っていないこと、保護者が虐待に当たる認識がないこと
 - ・ 本人が当然すべきことととらえている場合が多い。嫌でもなく、家族への愛情とも考えているよう
 - ・ 把握は本人からの申し出が基本となり、SSW を介した支援についても、保護者の同意が得られず思うように進まないこと
 - ・ どこまでが家事の手伝いで、どこまでがヤングケアラーになるのか見極めが難しい
 - ・ ”お手伝い”との境目が不明瞭。子どもは、潜在的に親の役に立つことを望んでいるので、その思いを傷付けないようにすることは必要と思う
 - ・ 外部機関につないでも、具体的な支援や手立てにつながらない事が多い
 - ・ 本人や家族のヤングケアラーに対する認識の有無や状況の把握が難しい。相談窓口等の情報提供も必要と思われる
 - ・ 子どもは様々な理由から、実際の状況を話したがない
 - ・ 町の子育て支援課、福祉課と連携して対応を行っているが、家庭環境が非常に厳しい家庭があり、早急な改善が難しいところがある
- など

) ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目

ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について、意見や変更・追加項目を聞いたところ、以下のような回答があった。

<参考：チェック項目案>

学校を休みがちである 遅刻や早退が多い 保健室で過ごしていることが多い 精神的な不安定さがある 身だしなみが整っていない 学力が低下している 宿題や持ち物の忘れ物が多い 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い 学校に必要なものを用意してもらえない 部活を途中でやめてしまった 修学旅行や宿泊行事等を欠席する 校納金が遅れる、未払い

追加項目案

- | | |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none">・本人からの訴えがある。・DV やネグレクトを伴う場合が多いと感じるが、その項目が入ると対応が広がると思われる。・登校しても眠そう（睡眠不足）。・アルバイトの申し出があった。・集団から孤立していたり、一人で過ごしたりすることが多い。・保護者との連絡が取れるか。・土日や休日の部活動は休みがちである。・家族の話をしたがらない。・家庭の状況を理由に、進路をあきらめようとしている。・整髪（櫛を通していないなど）、体臭（お風呂に入れていない） | など |
|---|----|

ヤングケアラーがいるか分からない理由

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもがいるか「わからない」と回答した学校に、その理由聞いたところ「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が中学校で91.2%（国：87.7%）、全日制高校で72.4%（国：81.9%）といずれも最も高い。

次いで、中学校では「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が32.4%（国：44.5%）、「学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している」が23.5%（国：48.6%）と高くなっている。

全日制高校では、「学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している」が37.9%（国：45.8%）、「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が17.2%（国：37.3%）と高くなっている。

ヤングケアラーがいるか分からない理由(複数回答)

	合計	足の学校に高不 し概校関く登 て念におすな校 いやおるいや る支いて実たい 援対、の態めじ 象とヤ把握ヤ しンが後グ比 てケ回ケベ のケしア緊 認ラにラ急 識がな度 が不るが	に高不 関く登 すな校 るいや 実たい 態めじ の、め 把握ヤ ンが後 回ケベ しア緊 にラ急 な度	く家 、族 実内 態の のこ 把握 が問 難し が表 に出 にく	うそヤ 問の家グ 題を族ケ を認がア 識しヤ てンで いグあ ないケる 子 ラ ーも 自 身 いや	そ の 他
全体	66 -	22 33.3	8 12.1	55 83.3	18 27.3	4 6.1
小学校	3 -	3 100.0	0 0.0	3 100.0	2 66.7	0 0.0
中学校	34 -	8 23.5	5 14.7	31 91.2	11 32.4	1 2.9
全日制高校	29 -	11 37.9	3 10.3	21 72.4	5 17.2	3 10.3
定時制高校	0 -	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
通信制高校	0 -	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことを聞いたところ「教職員がヤングケアラーについて知ること」が小学校で 95.2%、中学校で 84.0%（国：86.6%）、全日制高校で 89.7%（国：83.5%）、定時制高校で 71.4%（国：77.8%）が最も高く、次いで、小学校では「SSW や SC などの専門職の配置が充実すること」、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」がともに 85.7%、中学校、全日制高校では「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が中学校で 82.4%（国：73.9%）、全日制高校で 74.4%（国：66.3%）となっている。

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと(複数回答)

	合計	子ども自身 がヤング ケアラー につ	教職員が ヤング ケアラー につい	学校に ヤング ケアラー が何人 いる	SSW や SC などの 専門職の 配置	子どもが 教員に 相談し やすい 関係	組織を 校内に につく ること について 検討する	ヤング ケアラー について 検	者が 相談 できる 窓口が あること 本人や 保護	学校に ヤング ケアラー の支	い学校 がヤング ケアラー の支	ヤング ケアラー を支援 する NPO	福祉と 教育の 連携を 進める こと (具体的に)	その他	特 に ない
全体	238 -	180 75.6	206 86.6	108 45.4	155 65.1	189 79.4	53 22.3	106 44.5	145 60.9	72 30.3	32 13.4	5 2.1	0 0.0		
小学校	21 -	15 71.4	20 95.2	15 71.4	18 85.7	18 85.7	10 47.6	16 76.2	15 71.4	6 28.6	4 19.0	1 4.8	0 0.0		
中学校	131 -	102 77.9	110 84.0	64 48.9	82 62.6	108 82.4	33 25.2	55 42.0	82 62.6	44 33.6	21 16.0	3 2.3	0 0.0		
全日制高校	78 -	57 73.1	70 89.7	26 33.3	51 65.4	58 74.4	9 11.5	32 41.0	44 56.4	17 21.8	5 6.4	1 1.3	0 0.0		
定時制高校	7 -	5 71.4	5 71.4	2 28.6	3 42.9	4 57.1	0 0.0	2 28.6	3 42.9	4 57.1	2 28.6	0 0.0	0 0.0		
通信制高校	1 -	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		

(6) 個別の事例（ケース数が少ないため、参考掲載）

要保護児童対策地域協議会に通告したケース、要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースについて、直近のケースを1件ずつ聞いたところ、結果は以下のとおりである。

性別

、 のケースとともに、国の調査同様、「女性」の割合が高くなっている。（国： 68.5%、 : 63.7%）

	合計	女性	男性	その他
上段：実数 下段：%				
要対協	9 100.0	6 66.7	3 33.3	0 0.0
学校以外の外部の支援	43 100.0	35 81.4	8 18.6	0 0.0

学校生活の状況

では「学校を休みがちである」の割合が最も高く、次いで、「精神的な不安定さがある」の割合が高い。 では「精神的な不安定さがある」の割合が最も高く、次いで、「学校を休みがちである」の割合が高い。

	合計	学校を休みがちである	遅刻や早退が多い	多 い 保 健 室 で 過 ご し て い る こ と が	精 神 的 な 不 安 定 さ が あ る	身 だ し な み が 整 っ て い な い	学 力 が 低 下 し て い る	宿 題 や 持 ち 物 の 忘 れ 物 が 多 い	の 保 護 者 の 承 諾 が 必 要 な 書 類 等	も ら え な い	学 校 に 必 要 な も の を 用 意 し て	部 活 を 途 中 で や め て し ま っ た	修 学 旅 行 や 宿 泊 行 事 等 を 欠 席 す る	校 納 金 が 遅 れ る 、 未 払 い	そ の 他
上段：実数 下段：%															
要対協	9 -	6 66.7	1 11.1	0 0.0	4 44.4	0 0.0	2 22.2	2 22.2	3 33.3	2 22.2	2 22.2	2 22.2	1 11.1	3 33.3	1 11.1
学校以外の外部の支援	43 -	19 44.2	15 34.9	6 14.0	28 65.1	7 16.3	11 25.6	9 20.9	11 25.6	1 2.3	1 2.3	0 0.0	8 18.6	5 11.6	

家族構成

、 のケースともに「きょうだい」がいる割合が高い。

家族構成

	合計	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
上段：実数 下段：%							
要対協	9	9	6	0	0	9	0
	-	100.0	66.7	0.0	0.0	100.0	0.0
学校以外の外部の支援	43	34	24	4	4	38	3
	-	79.1	55.8	9.3	9.3	88.4	7.0

ケアの状況

) ケアの状況

ケアの状況を把握しているか聞いたところ、 では全ケース、 では8割以上が「はい」を占めている。

ケアの状況の把握

	合計	はい	いいえ
上段：実数 下段：%			
要対協	9	9	0
	100.0	100.0	0.0
学校以外の外部の支援	43	38	5
	100.0	88.4	11.6

ケアの状況を把握していると回答した学校に、ケアを必要としている人、ケアを必要としている人の状況、ケアの内容を聞いた結果は以下のとおりである。

) ケアを必要としている人

ケアを必要としている人は、ともに「きょうだい」の割合が最も高く、次いで、「母親」の割合が高くなっている。国の調査では、「母親」の割合が最も高く、次いで、「きょうだい」となっている。

ケアを必要としている人(複数回答)

	合計	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
上段：実数 下段：%							
要対協	9	4	1	0	0	6	2
	-	44.4	11.1	0.0	0.0	66.7	22.2
学校以外の外部の支援	38	13	5	3	2	25	3
	-	34.2	13.2	7.9	5.3	65.8	7.9

) ケアを必要としている人の状況

、 ケースともに「若い」が最も高くなっている。次いで、 では、「精神疾患（疑いを含む）」の割合が高い。

国の調査では、 のケースでは「精神疾患、依存症（疑いを含む）」が 38.7%、 のケースでは「若い」が 41.2%と最も高くなっている。

ケアを必要としている人の状況

	合計	高齢 (65歳以上)	若い	状態 要介護 (介護が必要な)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	7, 8 以外の病気	その他	わからない
上段：実数 下段：%												
要対協	9	0	7	0	0	0	1	0	1	0	1	0
	-	0.0	77.8	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0
学校以外の外部の支援	38	4	21	2	5	3	4	11	4	1	4	1
	-	10.5	55.3	5.3	13.2	7.9	10.5	28.9	10.5	2.6	10.5	2.6

) ケアの内容

では「きょうだいの世話や保育園等への送迎など」の割合が最も高く、次いで、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が高い。 では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高く、次いで、「きょうだいの世話や保育園等への送迎など」の割合が高い。

国の調査では、 、 のケースともに「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高く、 で 60.4%、 で 55.4%、次いで、「きょうだいの世話や保育園等への送迎など」の割合が、 で 45.3%、 で 43.5%と高くなっている。

ケアの内容(複数回答)

	合計	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育園等への送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	わからない
上段：実数 下段：%													
要対協	9	7	8	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0
	-	77.8	88.9	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0
学校以外の外部の支援	38	26	22	4	5	5	10	9	1	3	1	3	0
	-	68.4	57.9	10.5	13.2	13.2	26.3	23.7	2.6	7.9	2.6	7.9	0.0

外部機関へのつなぎ方

外部機関へは、
 〇では「市区町村教育委員会経由」、
 〇では「学校から直接連絡」の割合が最も高くなっている。

国の調査では、
 〇のケースとともに「学校から直接連絡」が最も高く、
 〇で 56.5%、
 〇で 65.3%、次いで、「市区町村教育委員会経由」が高く、
 〇で 24.1%、
 〇で 19.5%となっている。

つないだ機関

	合計	市区町村教育委員会経由	学校から直接連絡	その他
上段：実数				
下段：%				
要対協	9	7	2	0
	100.0	77.8	22.2	0.0
学校以外の外部の支援	43	10	27	6
	100.0	23.3	62.7	14.0

第 III 章. 中高生の生活実態に関するアンケート調査結果

1. 中高生アンケート調査 調査概要

(1) 調査対象

県内全ての中学校2年生及び県内すべての高等学校（定時制・通信制を含む）の2年生

(2) 回答方法

Web回答

(3) 実施時期

令和3年9月1日～10月6日

(4) 回収状況

各学校種別での回答状況は以下の通り。

回答状況

	対象数	回収数	回収率
中学2年生	16,562	10,779	65.1%
高校2年生	15,212	6,386	42.0%
合計	31,774	17,165	54.0%

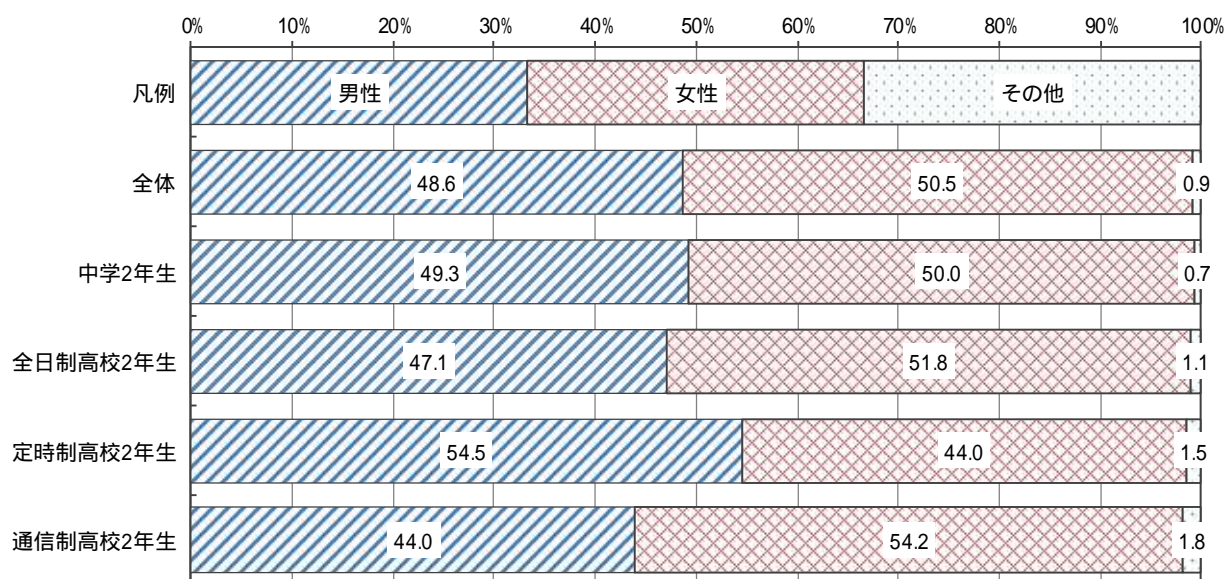
2. 中高生アンケート調査 調査結果

(1) 基本情報

性別

回答者の性別は以下の通り。

	性別			
	合計	男性	女性	その他
上段：実数 下段：%				
全体	17,165 100.0	8,348 48.6	8,671 50.5	146 0.9
中学2年生	10,779 100.0	5,312 49.3	5,391 50.0	76 0.7
全日制高校2年生	5,870 100.0	2,766 47.1	3,042 51.8	62 1.1
定時制高校2年生	407 100.0	222 54.5	179 44.0	6 1.5
通信制高校2年生	109 100.0	48 44.0	59 54.2	2 1.8

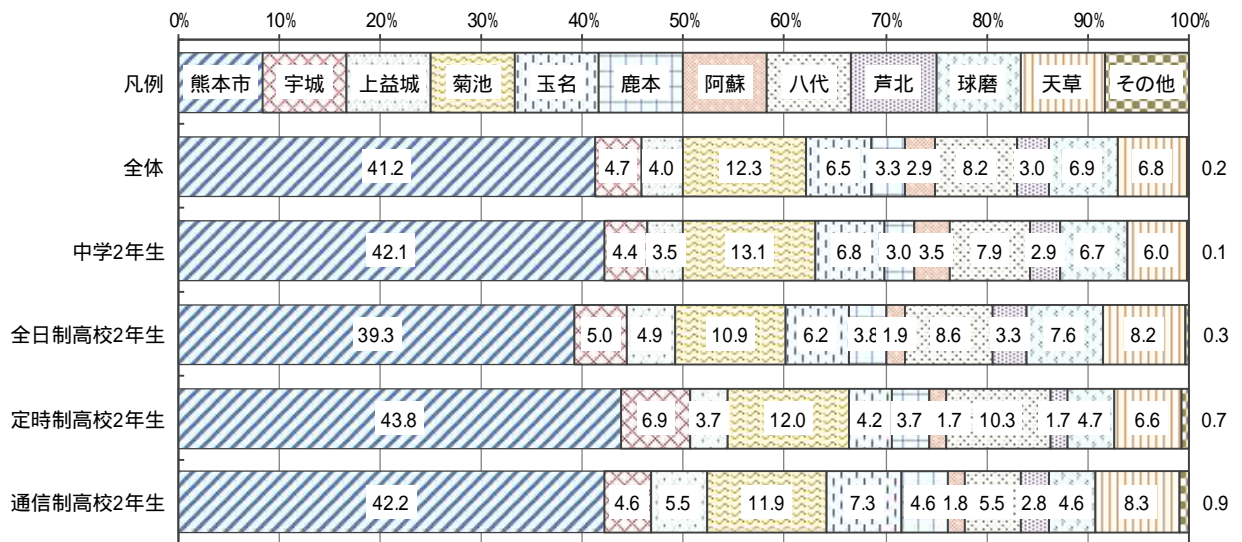


居住地

回答者の居住地（地域別）は、以下の通り。

居住地(地域別)

	合計	熊本市	宇城地域	上益城地域	菊池地域	玉名地域	鹿本地区	阿蘇地域	八代地域	芦北地域	球磨地域	天草地域	その他
上段：実数 下段：%													
全体	17,165 100.0	7,063 41.2	806 4.7	692 4.0	2,112 12.3	1,122 6.5	566 3.3	505 2.9	1,405 8.2	511 3.0	1,185 6.9	1,169 6.8	29 0.2
中学2年生	10,779 100.0	4,531 42.1	477 4.4	382 3.5	1,411 13.1	735 6.8	321 3.0	382 3.5	854 7.9	310 2.9	717 6.7	651 6.0	8 0.1
全日制高校2年生	5,870 100.0	2,308 39.3	296 5.0	289 4.9	639 10.9	362 6.2	225 3.8	114 1.9	503 8.6	191 3.3	444 7.6	482 8.2	17 0.3
定時制高校2年生	407 100.0	178 43.8	28 6.9	15 3.7	49 12.0	17 4.2	15 3.7	7 1.7	42 10.3	7 1.7	19 4.7	27 6.6	3 0.7
通信制高校2年生	109 100.0	46 42.2	5 4.6	6 5.5	13 11.9	8 7.3	5 4.6	2 1.8	6 5.5	3 2.8	5 4.6	9 8.3	1 0.9



同居家族

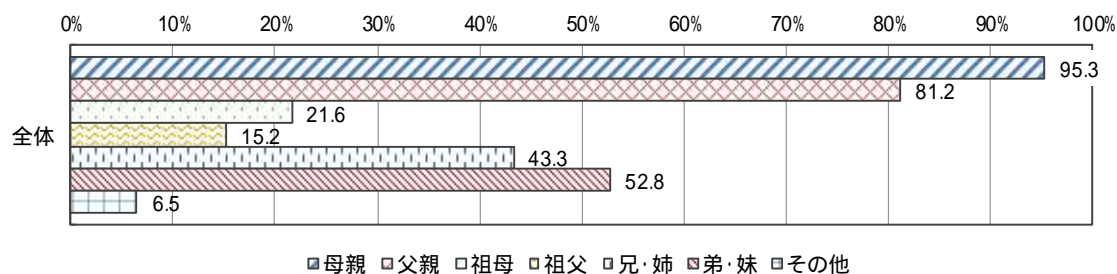
同居家族は、いずれの学校種でも、国の調査同様、「母親」が最も高く、次いで、「父親」、「弟・妹」となっている。

高校2年生では、中学2年生と比べて「母親」「父親」の割合がやや低くなる。

国の調査では、定時制高校2年生、通信制高校生は他に比べ「父親」が低くなっているが、県の調査では大きな差は見られない。

同居家族(複数回答)

	合計	母親	父親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他
上段：実数 下段：%								
全体	17,165 -	16,358 95.3	13,942 81.2	3,710 21.6	2,603 15.2	7,429 43.3	9,071 52.8	1,108 6.5
中学2年生	10,779 -	10,441 96.9	8,974 83.3	2,275 21.1	1,624 15.1	5,200 48.2	5,796 53.8	628 5.8
全日制高校2年生	5,870 -	5,441 92.7	4,570 77.9	1,325 22.6	903 15.4	2,025 34.5	3,021 51.5	441 7.5
定時制高校2年生	407 -	376 92.4	313 76.9	83 20.4	57 14.0	157 38.6	196 48.2	33 8.1
通信制高校2年生	109 -	100 91.7	85 78.0	27 24.8	19 17.4	47 43.1	58 53.2	6 5.5



家族構成

家族構成は、いずれの学校種でも、国の調査同様、「二世代世帯」が最も高く、中学 2 年生で 64.7%（国：70.1%）、全日制高校 2 年生で 57.7%（国：61.6%）、定時制高校 2 年生で 58.2%（国：55.7%）、通信制高校 2 年生で 56.0%（国：44.8%）となっている。

国の調査では、定時制高校 2 年生、通信制高校生は他に比べ「ひとり親家庭」がやや高く、通信制高校では「三世代世帯」も他に比べやや高くなっているが、県の調査では大きな差は見られない。

家族構成

	合計	二世代世帯	三世代世帯	ひとり親家庭	その他の世帯
全体	17,165	10,653	2,873	3,248	391
	100.0	62.1	16.7	18.9	2.3
中学2年生	10,779	6,969	1,769	1,939	102
	100.0	64.7	16.4	18.0	0.9
全日制高校2年生	5,870	3,386	1,020	1,199	265
	100.0	57.7	17.4	20.4	4.5
定時制高校2年生	407	237	65	85	20
	100.0	58.2	16.0	20.9	4.9
通信制高校2年生	109	61	19	25	4
	100.0	56.0	17.4	22.9	3.7

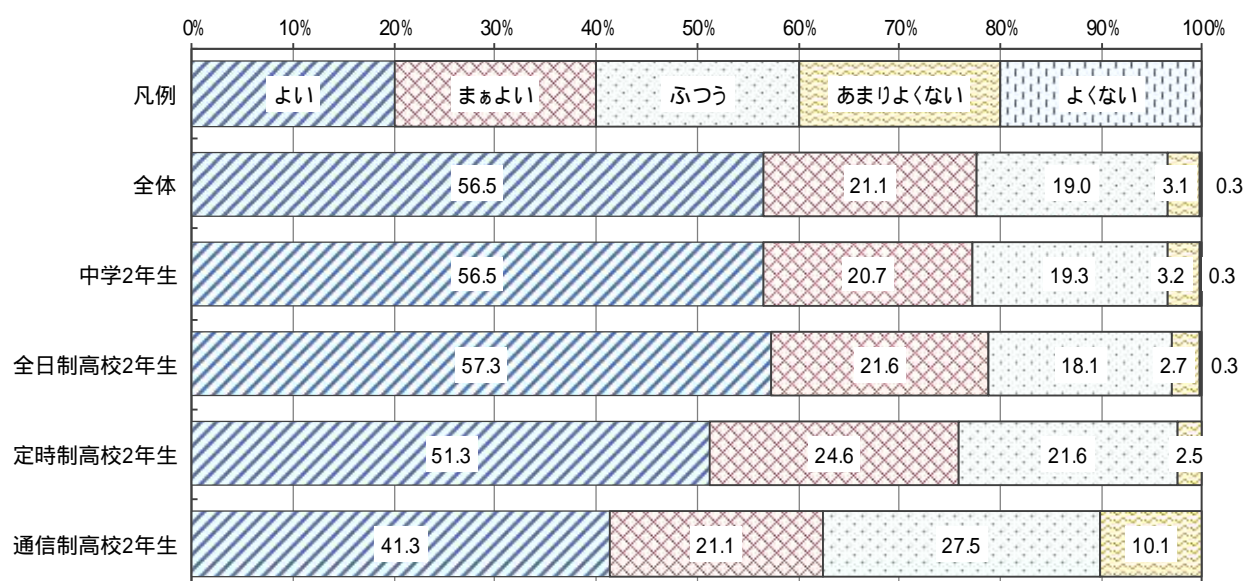
健康状態

健康状態は、いずれの学校種でも「よい」が最も高く、中学2年生が56.5%（国：56.7%）、全日制高校2年生で57.3%（国：44.9%）、定時制高校2年生で51.3%（国：35.5%）、通信制高校2年生で41.3%（国：17.9%）となっている。通信制高校2年生は、国の調査同様、「よい」が他に比べて低く、「あまりよくない」が他に比べ高くなっている。

国の調査では、定時制高校2年生で37.2%、通信制高校生で46.0%と「ふつう」が最も高くなっている。

健康状態

	合計	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
上段：実数 下段：%						
全体	17,165	9,708	3,616	3,265	526	50
	100.0	56.5	21.1	19.0	3.1	0.3
中学2年生	10,779	6,089	2,226	2,082	349	33
	100.0	56.5	20.7	19.3	3.2	0.3
全日制高校2年生	5,870	3,365	1,267	1,065	156	17
	100.0	57.3	21.6	18.1	2.7	0.3
定時制高校2年生	407	209	100	88	10	0
	100.0	51.3	24.6	21.6	2.5	0.0
通信制高校2年生	109	45	23	30	11	0
	100.0	41.3	21.1	27.5	10.1	0.0



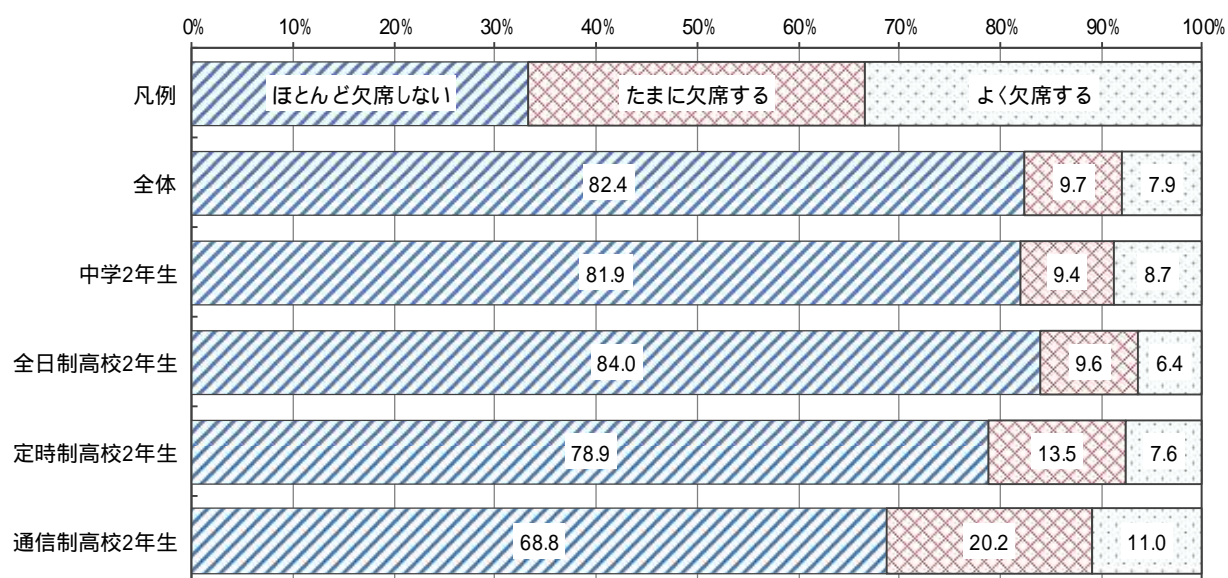
(2) ふだんの生活について

学校への通学状況：出席状況

学校の出席状況は、いずれの学校種でも、国の調査同様、「ほとんど欠席しない」が最も高く、中学2年生で81.9%（国：82.6%）全日制高校2年生で84.0%（国：74.3%）定時制高校2年生で78.9%（国：55.7%）通信制高校2年生で68.8%となっている。通信制高校2年生は、「たまに欠席する」、「よく欠席する」が他に比べ高くなっている。

出席状況

	合計	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する
	上段：実数 下段：%			
全体	17,165 100.0	14,152 82.4	1,659 9.7	1,354 7.9
中学2年生	10,779 100.0	8,830 81.9	1,016 9.4	933 8.7
全日制高校2年生	5,870 100.0	4,926 84.0	566 9.6	378 6.4
定時制高校2年生	407 100.0	321 78.9	55 13.5	31 7.6
通信制高校2年生	109 100.0	75 68.8	22 20.2	12 11.0



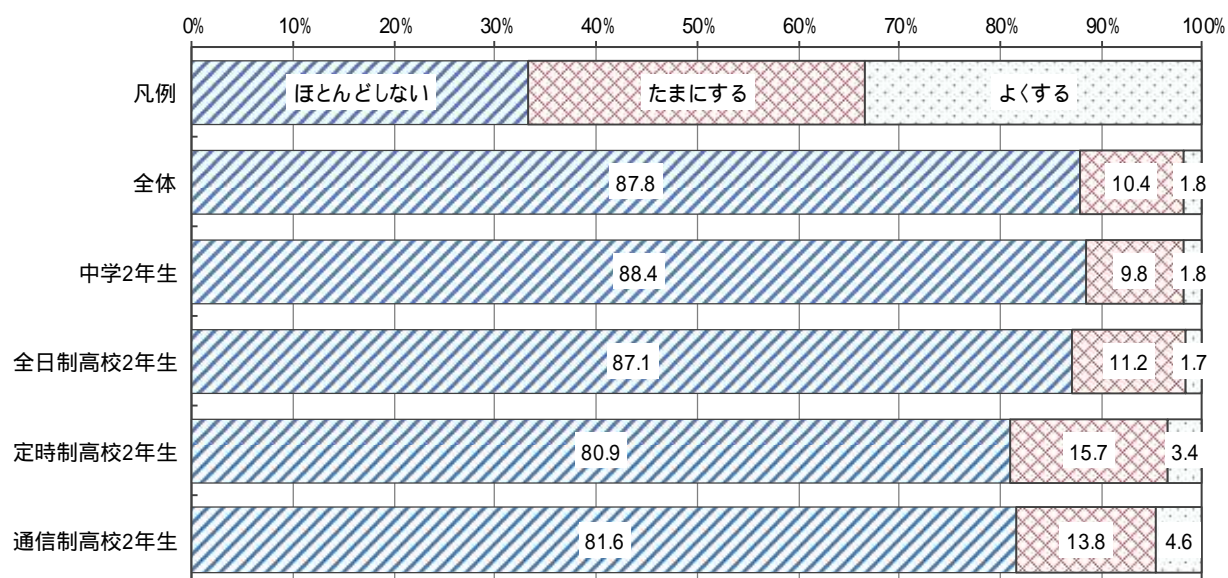
学校への通学状況：遅刻や早退の状況

学校の遅刻や早退の状況は、いずれの学校種でも、国の調査同様、「ほとんどしない」が最も高く、中学2年生で88.4%（国：88.8%）、全日制高校2年生で87.1%（国：83.5%）、定時制高校2年生で80.9%（国：60.1%）、通信制高校2年生で81.6%となっている。

定時制高校2年生は、国の調査同様、「たまにする」が他に比べ高くなっている。

遅刻や早退の状況

	合計	ほとんどしない	たまにする	よくする
上段：実数 下段：%				
全体	17,165 100.0	15,063 87.8	1,788 10.4	314 1.8
中学2年生	10,779 100.0	9,528 88.4	1,054 9.8	197 1.8
全日制高校2年生	5,870 100.0	5,117 87.1	655 11.2	98 1.7
定時制高校2年生	407 100.0	329 80.9	64 15.7	14 3.4
通信制高校2年生	109 100.0	89 81.6	15 13.8	5 4.6

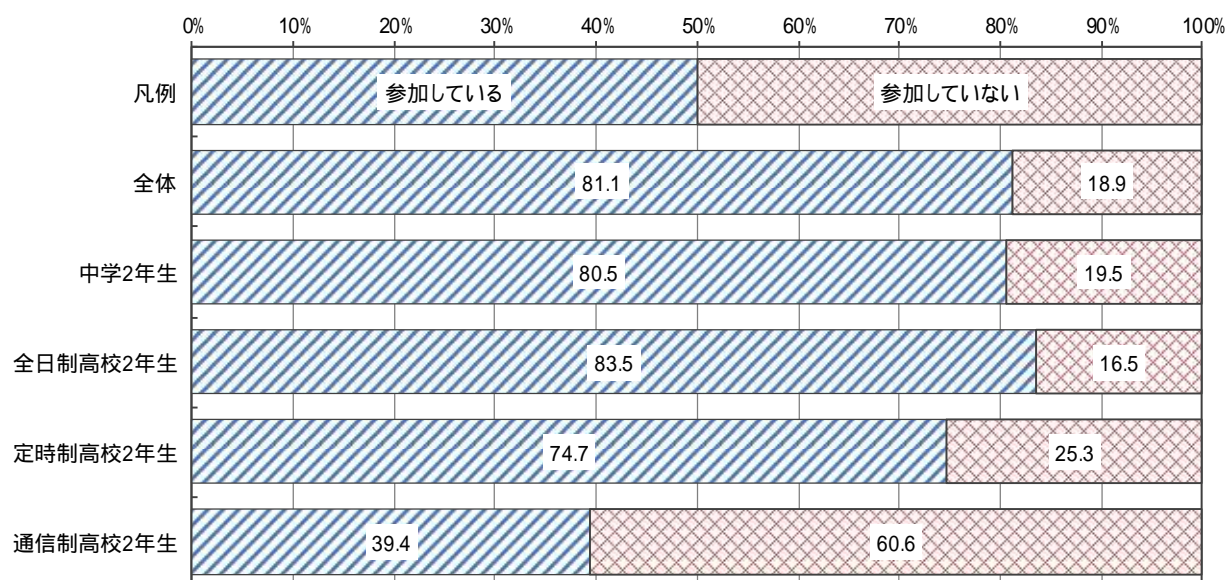


部活動への参加状況

部活動への参加状況は「参加している」と回答した割合が高く、中学2年生で80.5%（国：87.9%）、全日制高校2年生で83.5%（国：74.1%）、定時制高校2年生で74.7%（国：42.3%）となっている。通信制高校2年生では「参加していない」の割合の方が高く60.6%（国：89.7%）となっている。

部活動への参加状況

	合計	参加している	参加していない
	上段：実数 下段：%		
全体	17,165 100.0	13,926 81.1	3,239 18.9
中学2年生	10,779 100.0	8,675 80.5	2,104 19.5
全日制高校2年生	5,870 100.0	4,904 83.5	966 16.5
定時制高校2年生	407 100.0	304 74.7	103 25.3
通信制高校2年生	109 100.0	43 39.4	66 60.6

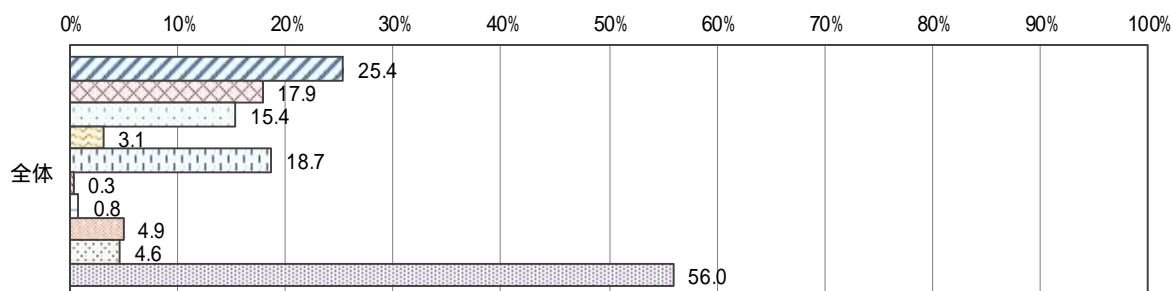


ふだんの学校生活等であてはまること

ふだんの学校生活等であてはまることについては「特にない」が最も高く、中学2年生で59.9%（国：62.7%）、全日制高校2年生で49.3%（国：42.9%）、定時制高校2年生で45.7%（国：37.4%）、通信制高校2年生で58.7%となっている。次いで、全日制高校2年生、定時制高校2年生は、国の調査同様、「授業中に居眠りすることが多い」の割合がやや高く、全日制高校2年生で36.0%（国：39.7%）、定時制高校2年生で38.1%（国：35.0%）となっている。

ふだんの学校生活等であてはまるもの(複数回答)

	合計	授業中に居眠りすることが多い	が多題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	多活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない
上段：実数 下段：%											
全体	17,165 -	4,355 25.4	3,076 17.9	2,642 15.4	532 3.1	3,202 18.7	48 0.3	134 0.8	844 4.9	784 4.6	9,604 56.0
中学2年生	10,779 -	2,061 19.1	1,855 17.2	1,867 17.3	332 3.1	2,088 19.4	31 0.3	89 0.8	531 4.9	473 4.4	6,460 59.9
全日制高校2年生	5,870 -	2,111 36.0	1,109 18.9	718 12.2	183 3.1	1,014 17.3	15 0.3	39 0.7	275 4.7	281 4.8	2,894 49.3
定時制高校2年生	407 -	155 38.1	92 22.6	50 12.3	13 3.2	86 21.1	0 0.0	6 1.5	31 7.6	19 4.7	186 45.7
通信制高校2年生	109 -	28 25.7	20 18.3	7 6.4	4 3.7	14 12.8	2 1.8	0 0.0	7 6.4	11 10.1	64 58.7



- 授業中に居眠りすることが多い
- 持ち物の忘れ物が多い
- 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い
- 保健室で過ごすことが多い
- 友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
- 宿題や課題ができていないことが多い
- 部活動や習い事を休むことが多い
- 修学旅行などの宿泊行事を欠席する
- 学校では1人で過ごすことが多い
- 特にない

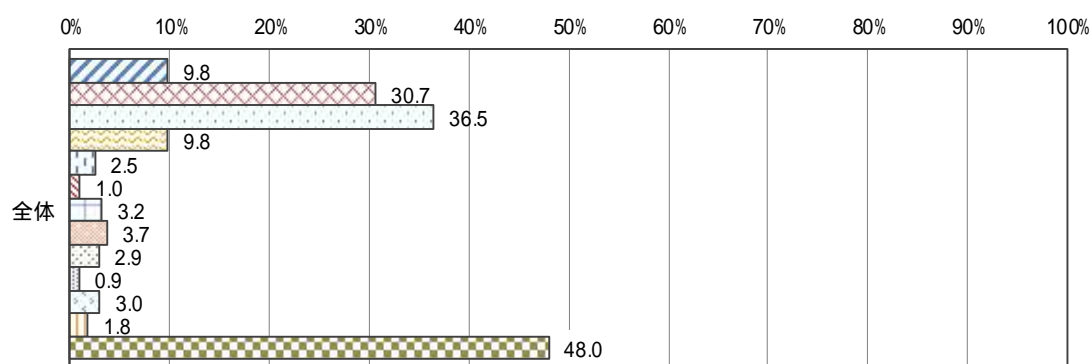
現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについては、中学 2 年生、通信制高校 2 年生は「特にない」が最も高く、中学 2 年生で 52.2%（国：41.0%）、通信制高校 2 年生で 52.3%（国：25.1%）となっている。全日制高校 2 年生、定時制高校 2 年生は「進路のこと」が最も高く、全日制高校 2 年生で 45.5%（国：53.7%）、定時制高校 2 年生で 44.0%（国：54.1%）となっている。

国の調査では、高校生は「進路のこと」が最も高くなっている。また、定時制高校 2 年生、通信制高校生は「家庭の経済的状況のこと」が他に比べ高く、通信制高校生は「自分と家族との関係のこと」「家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）」が他に比べ高くなっている。

現在の悩みや困りごと(複数回答)

	合計	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	に学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	塾(通信含む)や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	親の仲が良くないなど(両親)	家族内の人間関係のこと	と病气や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない
上段：実数 下段：%															
全体	17,165 -	1,675 9.8	5,268 30.7	6,258 36.5	1,683 9.8	437 2.5	173 1.0	544 3.2	637 3.7	506 2.9	147 0.9	523 3.0	308 1.8	8,233 48.0	
中学2年生	10,779 -	1,173 10.9	3,250 30.2	3,364 31.2	1,070 9.9	201 1.9	122 1.1	270 2.5	430 4.0	324 3.0	90 0.8	274 2.5	214 2.0	5,624 52.2	
全日制高校2年生	5,870 -	468 8.0	1,876 32.0	2,672 45.5	572 9.7	209 3.6	47 0.8	244 4.2	190 3.2	167 2.8	51 0.9	239 4.1	83 1.4	2,378 40.5	
定時制高校2年生	407 -	31 7.6	126 31.0	179 44.0	38 9.3	19 4.7	2 0.5	25 6.1	14 3.4	10 2.5	3 0.7	10 2.5	9 2.2	174 42.8	
通信制高校2年生	109 -	3 2.8	16 14.7	43 39.4	3 2.8	8 7.3	2 1.8	5 4.6	3 2.8	5 4.6	3 2.8	0 0.0	2 1.8	57 52.3	



- 友人との関係のこと
- 学業成績のこと
- 進路のこと
- 部活動のこと
- 学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと
- 塾(通信含む)や習い事ができない
- 家庭の経済的状況のこと
- 自分と家族との関係のこと
- 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)
- 病气や障がいのある家族のこと
- 自分のために使える時間が少ない
- その他
- 特にない

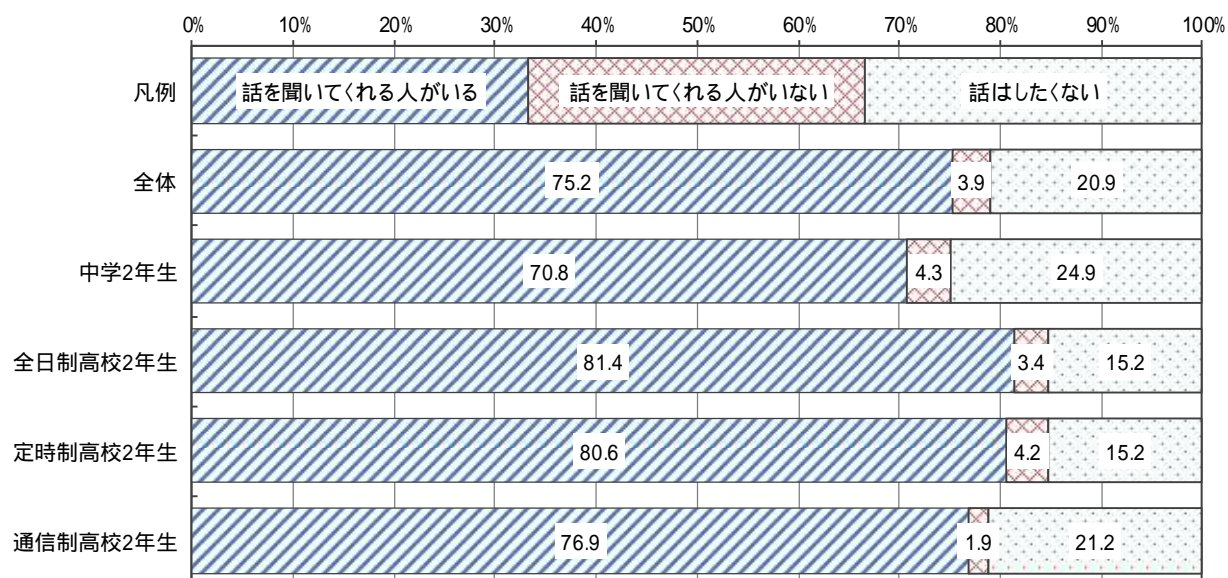
悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

何らかの悩みや困りごとがあると回答した人に、相談相手・話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、いずれの学校種でも、国の調査同様、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が最も高く、中学2年生で70.8%（国：72.4%）、全日制高校2年生で81.4%（国：74.6%）、定時制高校2年生で80.6%（国：67.6%）、通信制高校2年生で76.9%（国：56.8%）となっている。

国の調査では、通信制高校生は、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」「相談や話はしたくない」が、他に比べやや高くなっているが、県の調査では大きな差は見られない。

悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

	合計	く 相 れ 談 る 相 手 が や い 話 を 聞 い て	く 相 れ 談 る 相 手 が や い 話 を 聞 い て	相 談 や 話 は し た く な い
全体	9,060	6,813	355	1,892
	100.0	75.2	3.9	20.9
中学2年生	5,248	3,714	225	1,309
	100.0	70.8	4.3	24.9
全日制高校2年生	3,523	2,868	119	536
	100.0	81.4	3.4	15.2
定時制高校2年生	237	191	10	36
	100.0	80.6	4.2	15.2
通信制高校2年生	52	40	1	11
	100.0	76.9	1.9	21.2



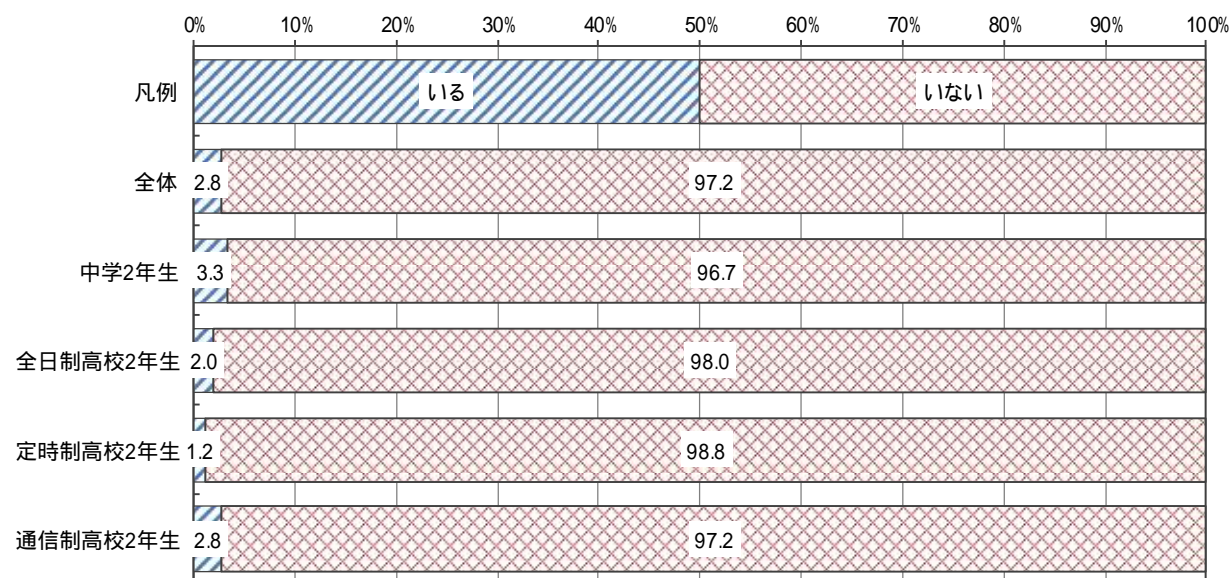
(3) 家庭や家族のことについて

世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無について「いる」と回答した割合は、中学2年生で3.3%（国：5.7%）、全日制高校2年生で2.0%（国：4.1%）、定時制高校2年生で1.2%（国：8.5%）、通信制高校2年生で2.8%（国：11.0%）となっており、いずれの学校種でも、国の調査よりも割合が低い。

世話をしている家族の有無

	合計	いる	いない
	上段：実数 下段：%		
全体	17,165 100.0	481 2.8	16,684 97.2
中学2年生	10,779 100.0	355 3.3	10,424 96.7
全日制高校2年生	5,870 100.0	118 2.0	5,752 98.0
定時制高校2年生	407 100.0	5 1.2	402 98.8
通信制高校2年生	109 100.0	3 2.8	106 97.2



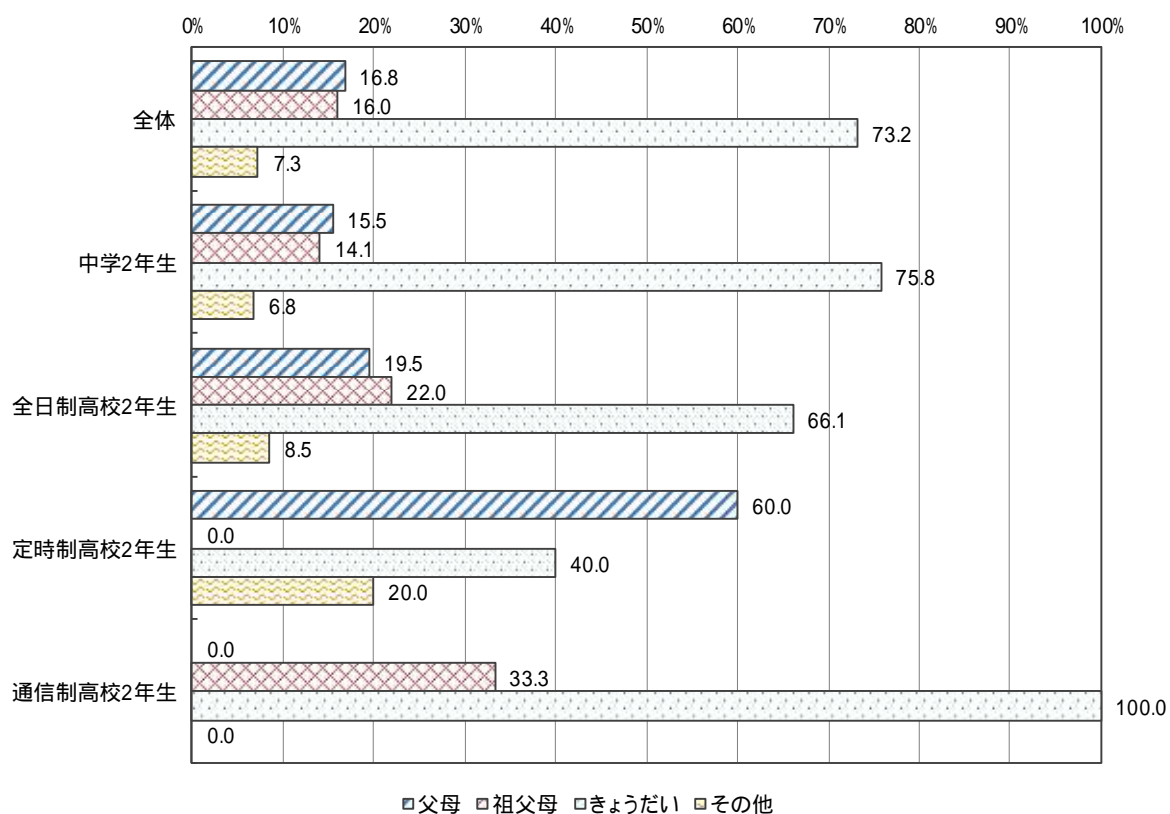
世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については「きょうだい」と回答した割合が高く、中学2年生で75.8%（国：61.8%）、全日制高校2年生で66.1%（国：44.3%）、通信制高校2年生で100.0%（国：42.9%）となっている。特に、中学2年生は、国の調査同様、「きょうだい」の割合が他に比べ高くなっている。定時制高校2年生は「父母」が最も高く60.0%（国：35.5%）となっている。

国の調査では、いずれの学校種でも「きょうだい」が最も高くなっており、定時制高校2年生で41.9%となっている。

世話を必要としている家族(複数回答)

	合計	父 母	祖 父 母	き よ う だ い	そ の 他
	上段：実数 下段：%				
全体	481 -	81 16.8	77 16.0	352 73.2	35 7.3
中学2年生	355 -	55 15.5	50 14.1	269 75.8	24 6.8
全日制高校2年生	118 -	23 19.5	26 22.0	78 66.1	10 8.5
定時制高校2年生	5 -	3 60.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0
通信制高校2年生	3 -	0 0.0	1 33.3	3 100.0	0 0.0



父母の状況、父母への世話の内容

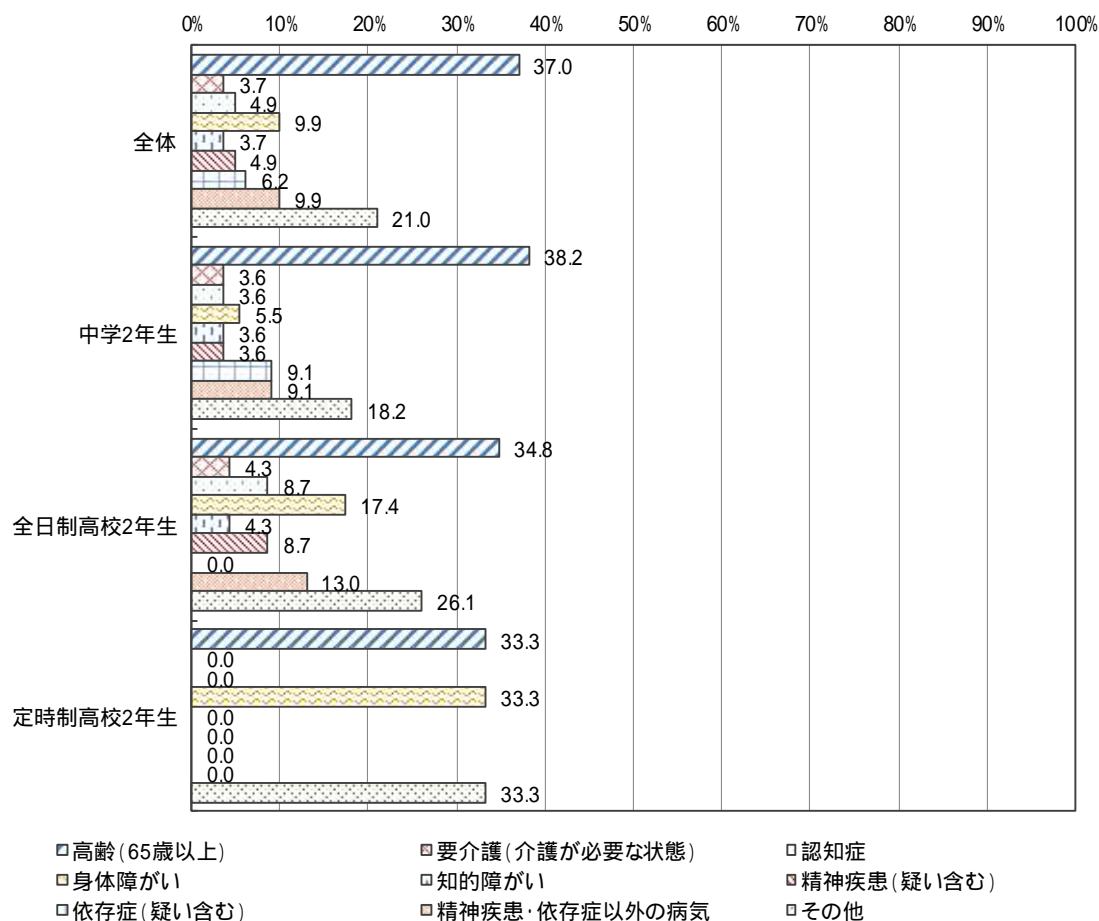
世話を必要としている家族として「父母」と回答した人に、父母の状況を聞いたところ、いずれの学校種でも「高齢（65歳以上）」が最も高くなっている。

国の調査では、中学2年生、全日制高校2年生は「身体障がい」が最も高く、中学2年生で20.0%、全日制高校2年生で15.4%となっている。

父母の状況(複数回答)

	合計	高齢 (65歳以上)	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	精神疾患・ 依存症以外 の病気	その他
全体	81 -	30 37.0	3 3.7	4 4.9	8 9.9	3 3.7	4 4.9	5 6.2	8 9.9	17 21.0
中学2年生	55 -	21 38.2	2 3.6	2 3.6	3 5.5	2 3.6	2 3.6	5 9.1	5 9.1	10 18.2
全日制高校2年生	23 -	8 34.8	1 4.3	2 8.7	4 17.4	1 4.3	2 8.7	0 0.0	3 13.0	6 26.1
定時制高校2年生	3 -	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3

通信制高校2年生は、サンプル数が無かったため掲載していない。

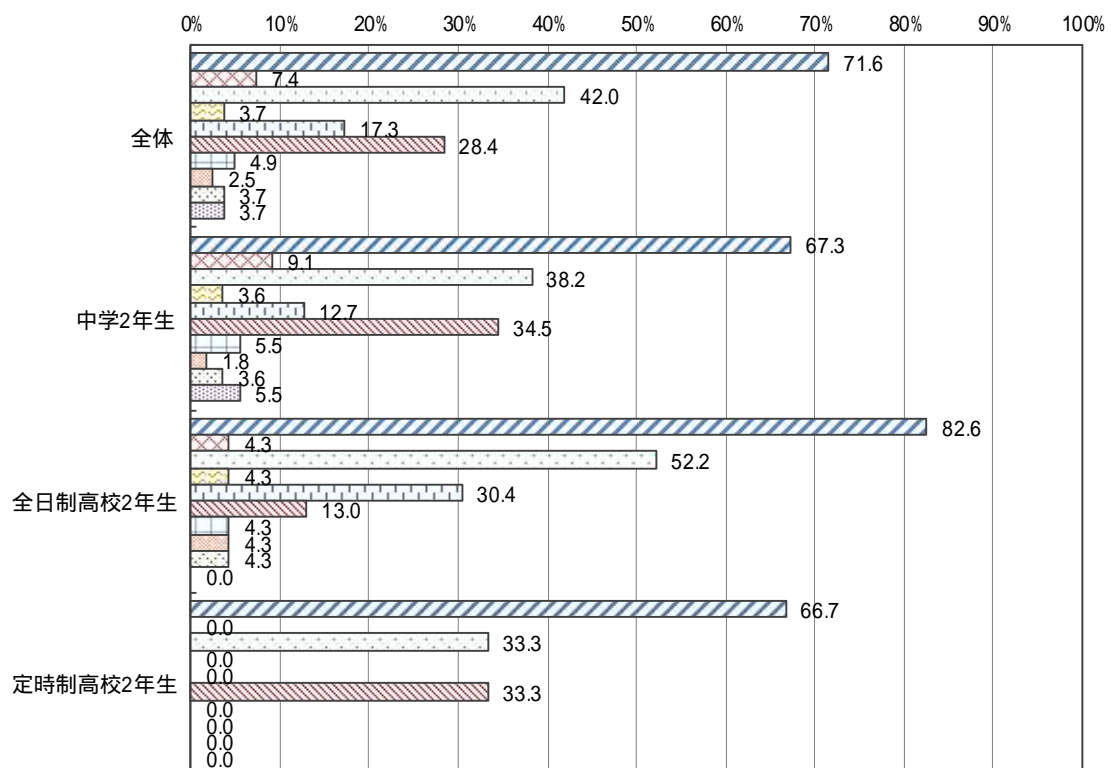


世話を必要としている家族として「父母」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、いずれの学校種でも、国の調査同様、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も高いが、特に全日制高校2年生は82.6%（国：68.1%）と、国の調査よりも割合が高い。

父母への世話の内容（複数回答）

	合計	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他
全体	81 -	58 71.6	6 7.4	34 42.0	3 3.7	14 17.3	23 28.4	4 4.9	2 2.5	3 3.7	3 3.7
中学2年生	55 -	37 67.3	5 9.1	21 38.2	2 3.6	7 12.7	19 34.5	3 5.5	1 1.8	2 3.6	3 5.5
全日制高校2年生	23 -	19 82.6	1 4.3	12 52.2	1 4.3	7 30.4	3 13.0	1 4.3	1 4.3	1 4.3	0 0.0
定時制高校2年生	3 -	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

通信制高校2年生は、サンプル数が無かったため掲載していない。



- 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
- 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
- 外出の付き添い（買い物、散歩など）
- 通院の付き添い
- 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
- 見守り
- 通訳（日本語や手話など）
- 金銭管理
- 薬の管理
- その他

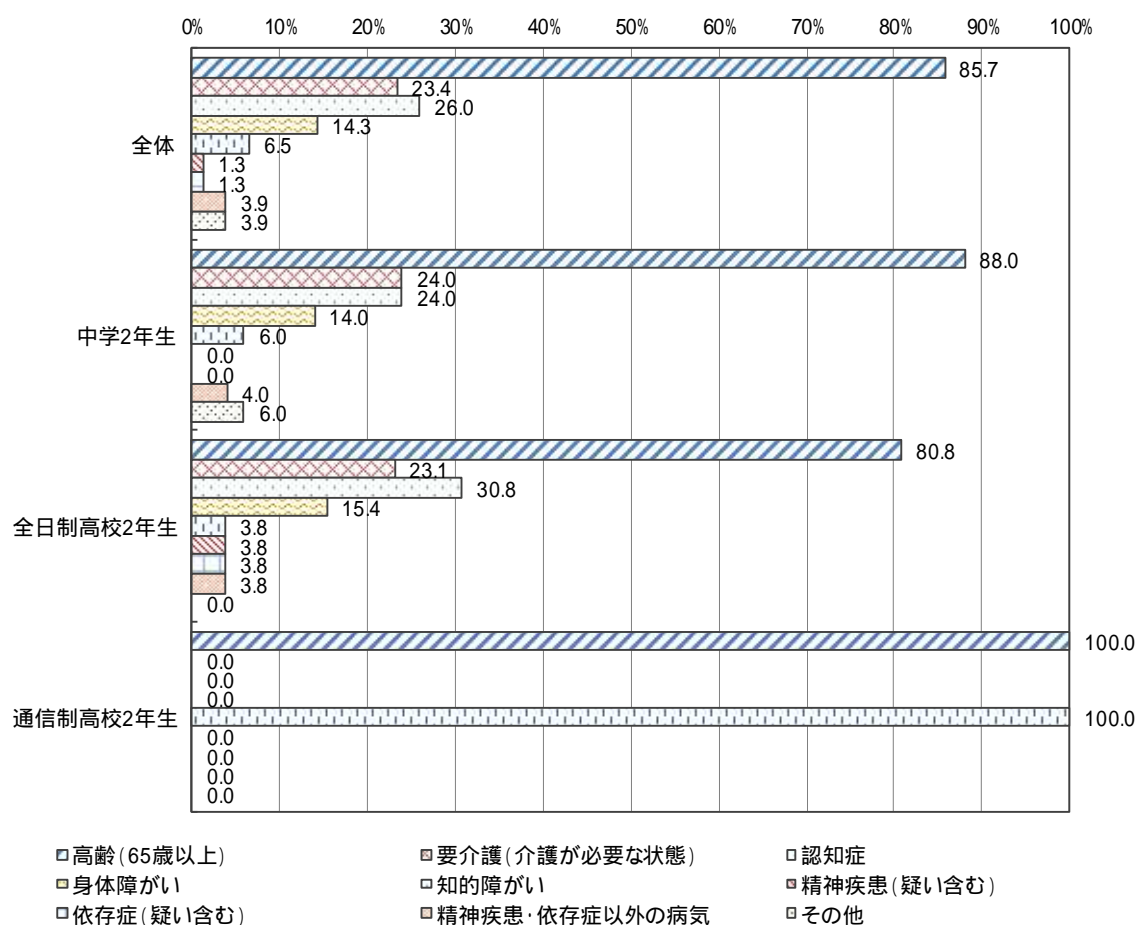
祖父母の状況、祖父母への世話の内容

世話を必要としている家族として「祖父母」回答した人に、祖父母の状況を聞いたところ、いずれの学校種でも、国の調査同様、「高齢（65歳以上）」が最も高く、次いで、「認知症」、「要介護（介護が必要な状態）」が高い。

祖父母の状況(複数回答)

	合計	高齢 (65歳以上)	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	の精神疾患・ 依存症以外	その他
全体	77	66	18	20	11	5	1	1	3	3
	-	85.7	23.4	26.0	14.3	6.5	1.3	1.3	3.9	3.9
中学2年生	50	44	12	12	7	3	0	0	2	3
	-	88.0	24.0	24.0	14.0	6.0	0.0	0.0	4.0	6.0
全日制高校2年生	26	21	6	8	4	1	1	1	1	0
	-	80.8	23.1	30.8	15.4	3.8	3.8	3.8	3.8	0.0
通信制高校2年生	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
	-	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

定時制高校はサンプル数が無かったため掲載していない。

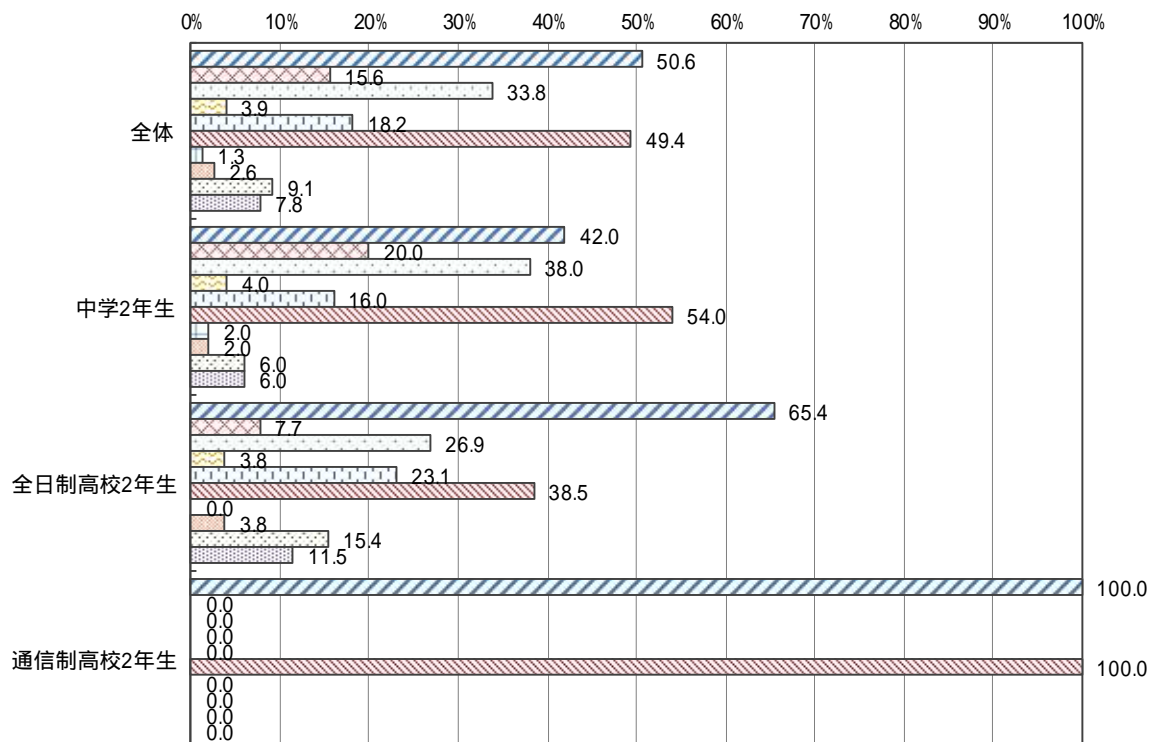


世話を必要としている家族として「祖父母」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、中学2年生では、国の調査同様、「見守り」が最も高く 54.0%（国：57.4%） 全日制高校2年生では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 65.4%（国：43.5%）と最も高い。見守りは 38.5%（国：52.2%）と、国の調査に比べて割合が低い。

祖父母への世話の内容(複数回答)

	合計	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他
全体	77 -	39 50.6	12 15.6	26 33.8	3 3.9	14 18.2	38 49.4	1 1.3	2 2.6	7 9.1	6 7.8
中学2年生	50 -	21 42.0	10 20.0	19 38.0	2 4.0	8 16.0	27 54.0	1 2.0	1 2.0	3 6.0	3 6.0
全日制高校2年生	26 -	17 65.4	2 7.7	7 26.9	1 3.8	6 23.1	10 38.5	0 0.0	1 3.8	4 15.4	3 11.5
通信制高校2年生	1 -	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

定時制高校2年生はサンプル数が無かったため掲載していない。



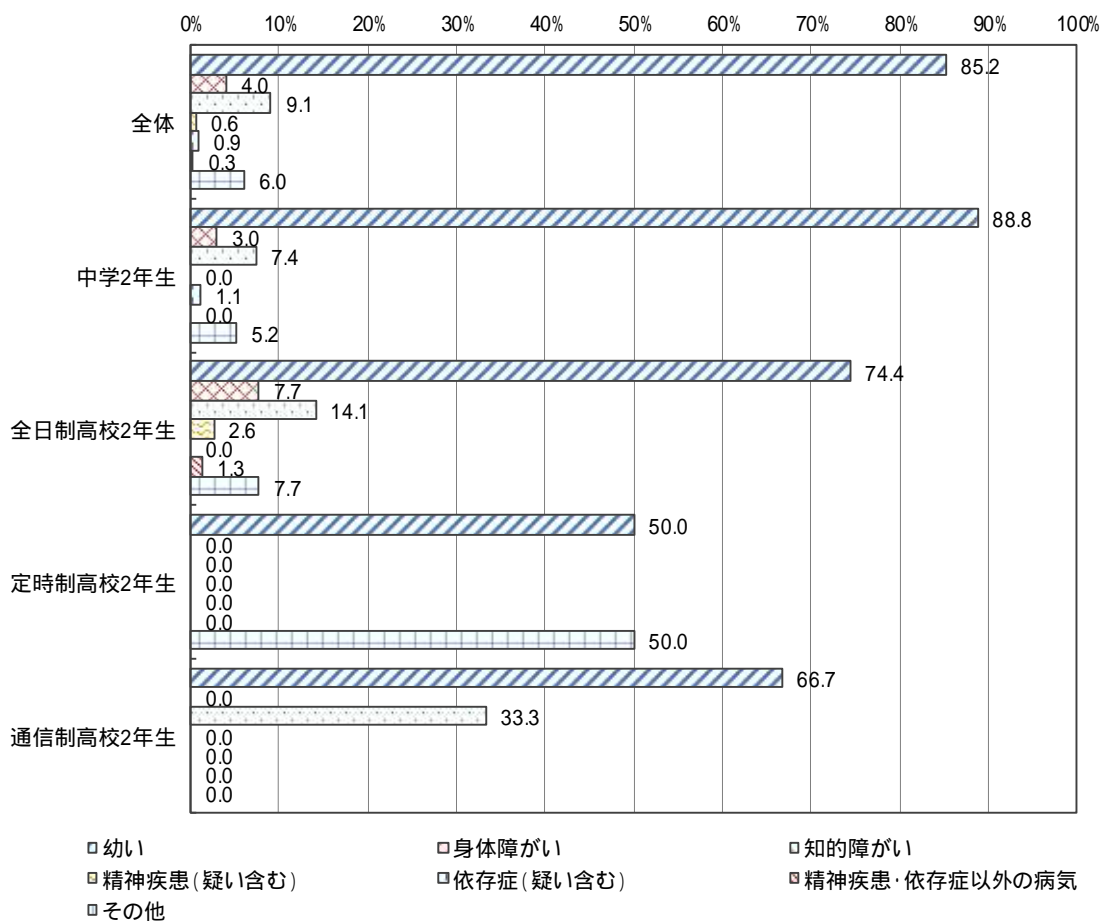
- 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
- 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)
- 外出の付き添い(買い物、散歩など)
- 通院の付き添い
- 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
- 見守り
- 通訳(日本語や手話など)
- 金銭管理
- 薬の管理
- その他

きょうだいの状況、きょうだいへの世話の内容

世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人に、きょうだいの状況を聞いたところ、いずれの学校種でも、国の調査同様、「若い」が最も高く、中学2年生で88.8%（国：73.1%）、全日制高校2年生で74.4%（国：70.6%）。次いで「知的障がい」が、中学2年生で7.4%（国：14.7%）、全日制高校2年生で14.1%（国：8.1%）となっている。

きょうだいの状況(複数回答)

	合計	若い	身体障がい	知的障がい	精神疾患(疑い含む)	依存症(疑い含む)	の精神疾患・依存症以外	その他
全体	352	300	14	32	2	3	1	21
	-	85.2	4.0	9.1	0.6	0.9	0.3	6.0
中学2年生	269	239	8	20	0	3	0	14
	-	88.8	3.0	7.4	0.0	1.1	0.0	5.2
全日制高校2年生	78	58	6	11	2	0	1	6
	-	74.4	7.7	14.1	2.6	0.0	1.3	7.7
定時制高校2年生	2	1	0	0	0	0	0	1
	-	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
通信制高校2年生	3	2	0	1	0	0	0	0
	-	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

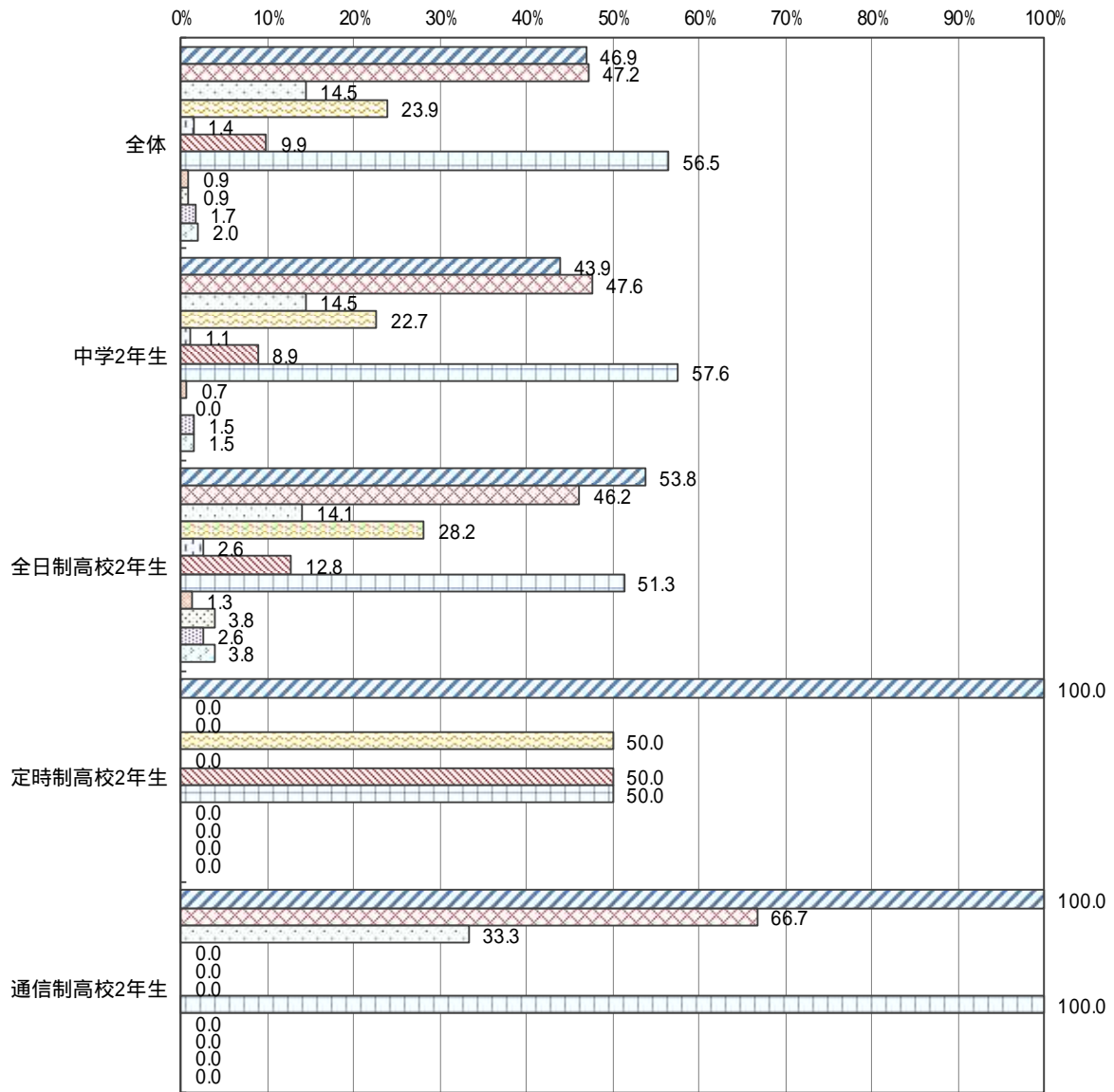


世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、国の調査同様、中学2年生は「見守り」が最も高く57.6%（国：68.0%）、全日制高校2年生では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も高く53.8%（国：56.6%）となっている。

国の調査では、全日制高校2年生は、中学2年生に比べ「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が他に比べ高くなっているが、県の調査では大きな差は見られない。

きょうだいへの世話の内容(複数回答)

	合計	家事 （食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの送迎など	身体的な世話など （入浴やトイレ）	外出の付き添い （買い物、散歩）	通院の付き添い	感情面のサポート （愚痴を聞き話し相手になるなど）	見守り	通訳 （日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他
全体	352	165	166	51	84	5	35	199	3	3	6	7
	-	46.9	47.2	14.5	23.9	1.4	9.9	56.5	0.9	0.9	1.7	2.0
中学2年生	269	118	128	39	61	3	24	155	2	0	4	4
	-	43.9	47.6	14.5	22.7	1.1	8.9	57.6	0.7	0.0	1.5	1.5
全日制高校2年生	78	42	36	11	22	2	10	40	1	3	2	3
	-	53.8	46.2	14.1	28.2	2.6	12.8	51.3	1.3	3.8	2.6	3.8
定時制高校2年生	2	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0
	-	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通信制高校2年生	3	3	2	1	0	0	0	3	0	0	0	0
	-	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0



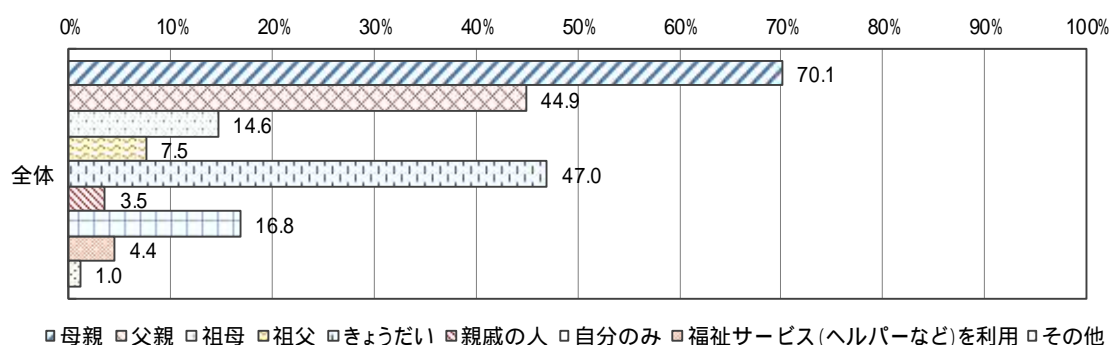
- 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
- 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)
- 通院の付き添い
- 見守り
- 金銭管理
- その他
- きょうだいの世話や保育所等への送迎など
- 外出の付き添い(買い物、散歩など)
- 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
- 通訳(日本語や手話など)
- 薬の管理

世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、国の調査同様、「母親」と回答した割合が高く、中学2年生で69.0%（国：58.3%）、全日制高校2年生で72.0%（国：52.1%）、定時制高校2年生で80.0%（国：41.9%）、通信制高校2年生で100.0%（国：46.9%）と最も高くなっている。「福祉サービス（ヘルパーなど）を利用」については、国の調査同様、中学2年生、全日制高校2年生ともに、1割を下回り、少なくなっている。

世話を一緒にしている人(複数回答)

	合計	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	その他
上段：実数 下段：%										
全体	481 -	337 70.1	216 44.9	70 14.6	36 7.5	226 47.0	17 3.5	81 16.8	21 4.4	5 1.0
中学2年生	355 -	245 69.0	155 43.7	53 14.9	26 7.3	177 49.9	14 3.9	64 18.0	14 3.9	4 1.1
全日制高校2年生	118 -	85 72.0	55 46.6	16 13.6	9 7.6	47 39.8	3 2.5	17 14.4	7 5.9	1 0.8
定時制高校2年生	5 -	4 80.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
通信制高校2年生	3 -	3 100.0	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



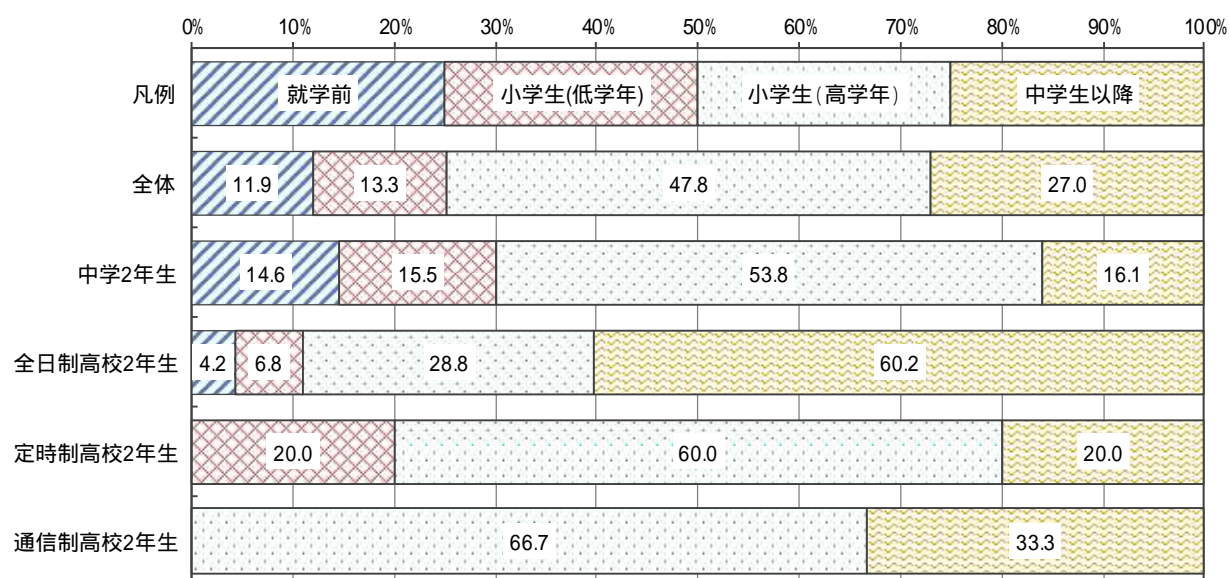
世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、中学2年生は平均9.9歳（国：9.9歳）、全日制高校2年生は平均12.9歳（国：12.2歳）となっている。

世話を始めた年齢をカテゴリー化すると、国の調査同様、中学2年生は「小学生（高学年）」が最も高く53.8%（国：34.2%）、全日制高校2年生は「中学生以降」が最も高く60.2%（国：37.8%）となっている。

世話を始めた年齢

	合計	就学前	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生 以降
全体	481	57	64	230	130
	100.0	11.9	13.3	47.8	27.0
中学2年生	355	52	55	191	57
	100.0	14.6	15.5	53.8	16.1
全日制高校2年生	118	5	8	34	71
	100.0	4.2	6.8	28.8	60.2
定時制高校2年生	5	0	1	3	1
	100.0	0.0	20.0	60.0	20.0
通信制高校2年生	3	0	0	2	1
	100.0	0.0	0.0	66.7	33.3



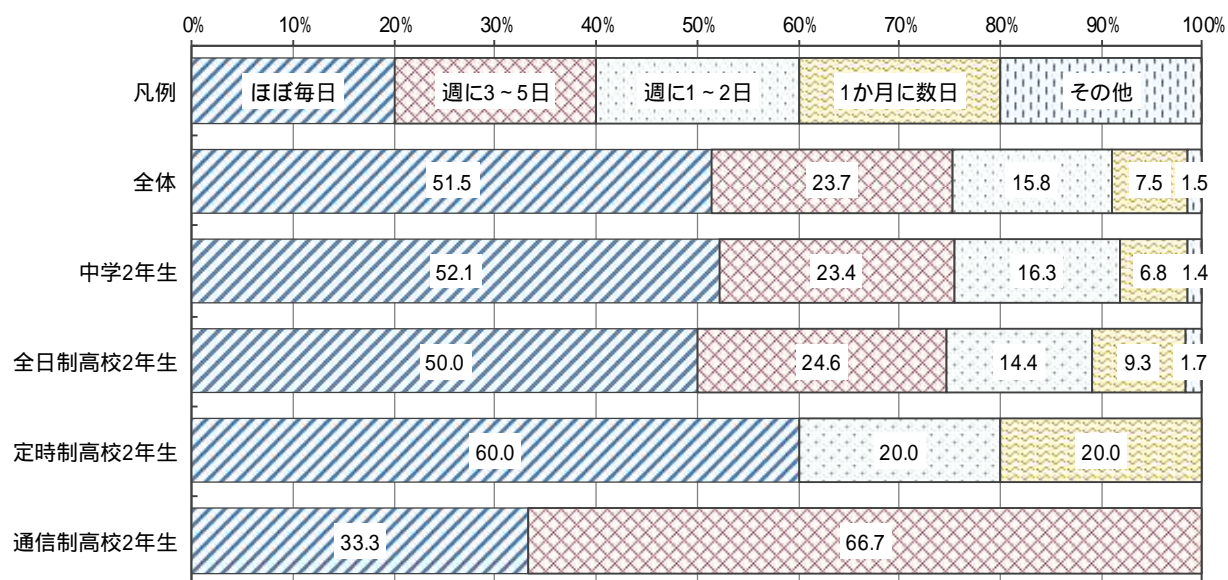
世話をしている頻度

世話をしている頻度については、中学2年生、全日制高校2年生、定時制高校2年生は「ほぼ毎日」と回答した割合が最も高く、中学2年生で52.1%（国：45.1%）、全日制高校2年生で50.0%（国：47.6%）、定時制高校2年生で60.0%（国：35.5%）となっている。通信制高校2年生では「週に3～5日」が最も高く66.7%（国：26.5%）となっている。

国の調査では、通信制高校生も「ほぼ毎日」が最も高く65.3%となっている。

世話をしている頻度

	合計	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	上段：実数
							下段：%
全体	481	248	114	76	36	7	
	100.0	51.5	23.7	15.8	7.5	1.5	
中学2年生	355	185	83	58	24	5	
	100.0	52.1	23.4	16.3	6.8	1.4	
全日制高校2年生	118	59	29	17	11	2	
	100.0	50.0	24.6	14.4	9.3	1.7	
定時制高校2年生	5	3	0	1	1	0	
	100.0	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0	
通信制高校2年生	3	1	2	0	0	0	
	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	



平日1日あたりに世話に費やす時間

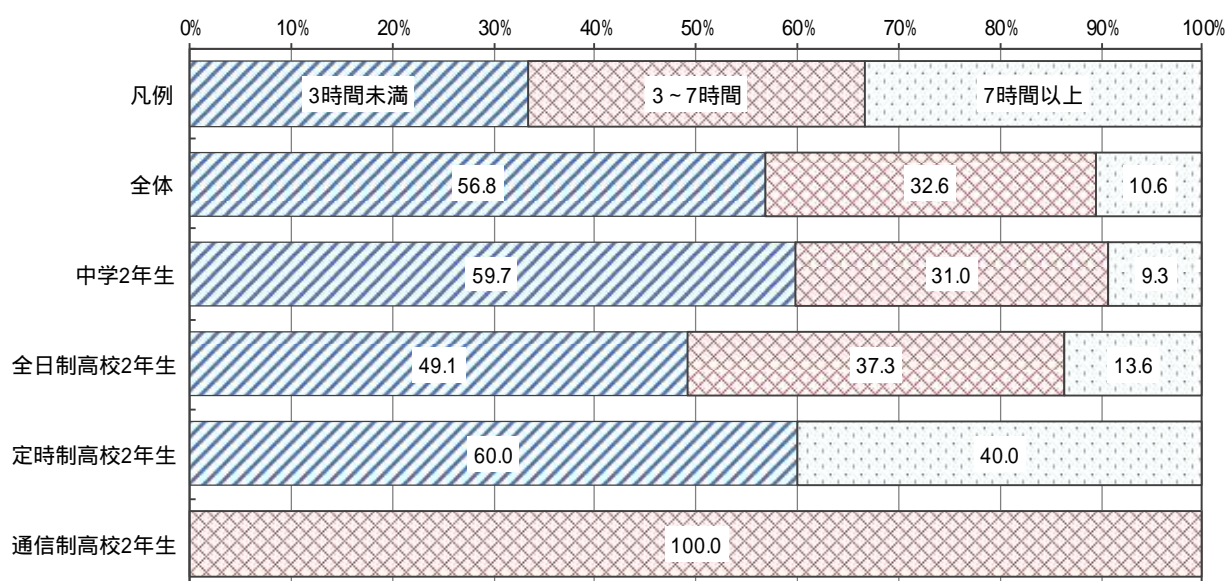
平日1日あたりに世話に費やす時間については、中学2年生は平均3.0時間（国：4.0時間）、全日制高校2年生は平均4.5時間（国：3.8時間）となっている。

平日1日あたりに世話に費やす時間をカテゴリー化すると、中学2年生、全日制高校2年生、定時制高校2年生は「3時間未満」が最も高くなっており、中学2年生で59.7%（国：42.0%）、全日制高校2年生で49.1%（国：35.8%）、定時制高校2年生で60.0%（国：19.4%）となっている。7時間以上世話に費やしているのは、中学2年生で9.3%（国：11.6%）、全日制高校2年生で13.6%（国：10.7%）となっている。

国の調査では、定時制高校2年生、通信制高校生は「3～7時間未満」が最も高くなっており、定時制高校2年生で25.8%、通信制高校生で34.7%となっている。

世話に費やす時間(平日1日あたり)

	合計	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上
全体	481	273	157	51
	100.0	56.8	32.6	10.6
中学2年生	355	212	110	33
	100.0	59.7	31.0	9.3
全日制高校2年生	118	58	44	16
	100.0	49.1	37.3	13.6
定時制高校2年生	5	3	0	2
	100.0	60.0	0.0	40.0
通信制高校2年生	3	0	3	0
	100.0	0.0	100.0	0.0



休日1日あたりに世話に費やす時間【独自調査】

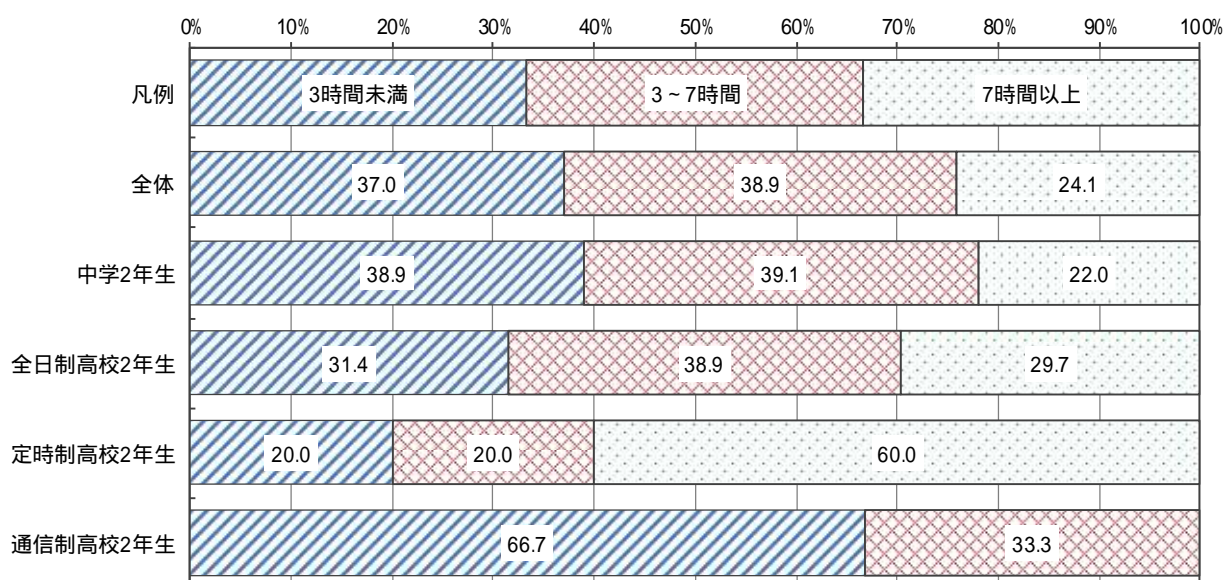
休日1日あたりに世話に費やす時間については、中学2年生は平均4.6時間、全日制高校2年生は平均6.1時間と平日よりも長くなっている。

休日1日あたりに世話に費やす時間をカテゴリー化すると、中学2年生、全日制高校2年生は「3～7時間未満」が最も高くなっている。

平日に比べて長い時間の割合が高くなっており、7時間以上世話に費やしているのは中学2年生で22.0%、全日制高校2年生で29.7%となっている。

世話に費やす時間(休日1日あたり)

	合計	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上
	上段：実数 下段：%			
全体	481 100.0	178 37.0	187 38.9	116 24.1
中学2年生	355 100.0	138 38.9	139 39.1	78 22.0
全日制高校2年生	118 100.0	37 31.4	46 38.9	35 29.7
定時制高校2年生	5 100.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0
通信制高校2年生	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0

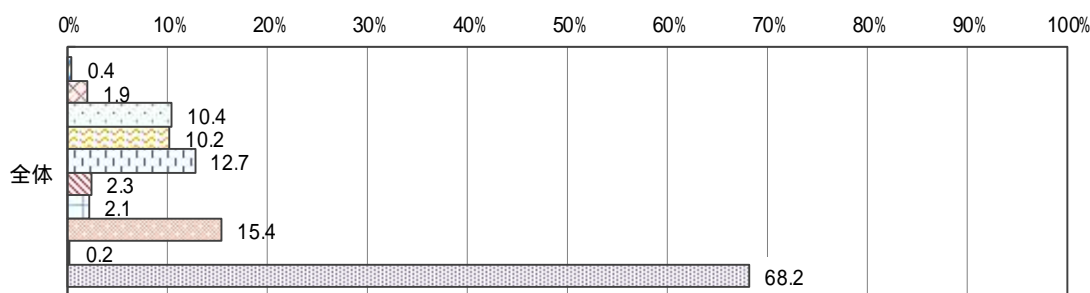


世話をしているために、やりたいけれどできていないこと

世話をしているために、やりたいけれどできていないことについては、いずれの学校種でも、国の調査同様、「特にない」が最も高くなっているが、次いで、「自分の時間が取れない」の割合がやや高くなっている。

お世話をしているために、やりたいけれどできていないこと(複数回答)

	合計	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活動や習い事ができない、もし辞めざるを得なかった、もしも	進路の変更を考えたが、進路を変更しな	自分の時間が取れない	その他	特にない
上段：実数 下段：%											
全体	481	2	9	50	49	61	11	10	74	1	328
	-	0.4	1.9	10.4	10.2	12.7	2.3	2.1	15.4	0.2	68.2
中学2年生	355	1	9	38	36	44	10	5	50	1	246
	-	0.3	2.5	10.7	10.1	12.4	2.8	1.4	14.1	0.3	69.3
全日制高校2年生	118	1	0	12	12	17	1	5	23	0	75
	-	0.8	0.0	10.2	10.2	14.4	0.8	4.2	19.5	0.0	63.6
定時制高校2年生	5	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4
	-	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	80.0
通信制高校2年生	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0



- 学校に行けない
- 睡眠時間が十分取れない
- 進路変更をした
- 特にない
- 学校を遅刻・早退してしまう
- 友人と遊ぶことができない
- 自分の時間が取れない
- 宿題や勉強をする時間がない
- 部活動や習い事ができない
- その他

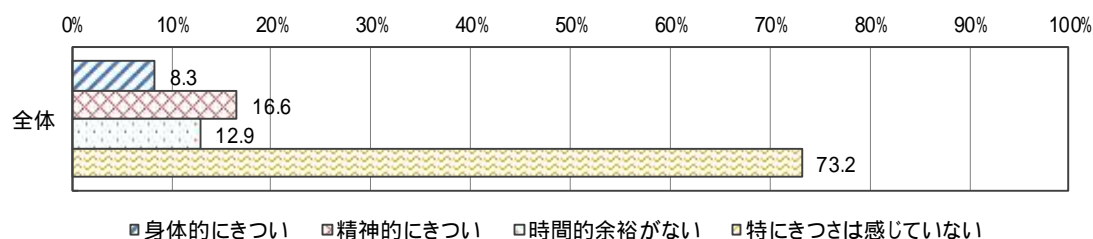
世話のきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、いずれの学校種でも「特にきつさは感じていない」が最も高くなっているが、次いで、中学2年生、全日制高校2年生は「精神的にきつい」の割合がやや高くなっている。

国の調査では、中学2年生、全日制高校2年生では、「特にきつさは感じていない」が最も高く、中学2年生で60.5%、全日制高校2年生で52.1%となっているが、次いで、中学2年生は「時間的余裕がない」が16.0%、全日制高校2年生は「精神的にきつい」が19.9%と高くなっている。

世話のきつさ(複数回答)

	合計	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない
上段：実数 下段：%					
全体	481	40	80	62	352
	-	8.3	16.6	12.9	73.2
中学2年生	355	30	56	46	262
	-	8.5	15.8	13.0	73.8
全日制高校2年生	118	9	24	16	83
	-	7.6	20.3	13.6	70.3
定時制高校2年生	5	0	0	0	5
	-	0.0	0.0	0.0	100.0
通信制高校2年生	3	1	0	0	2
	-	33.3	0.0	0.0	66.7

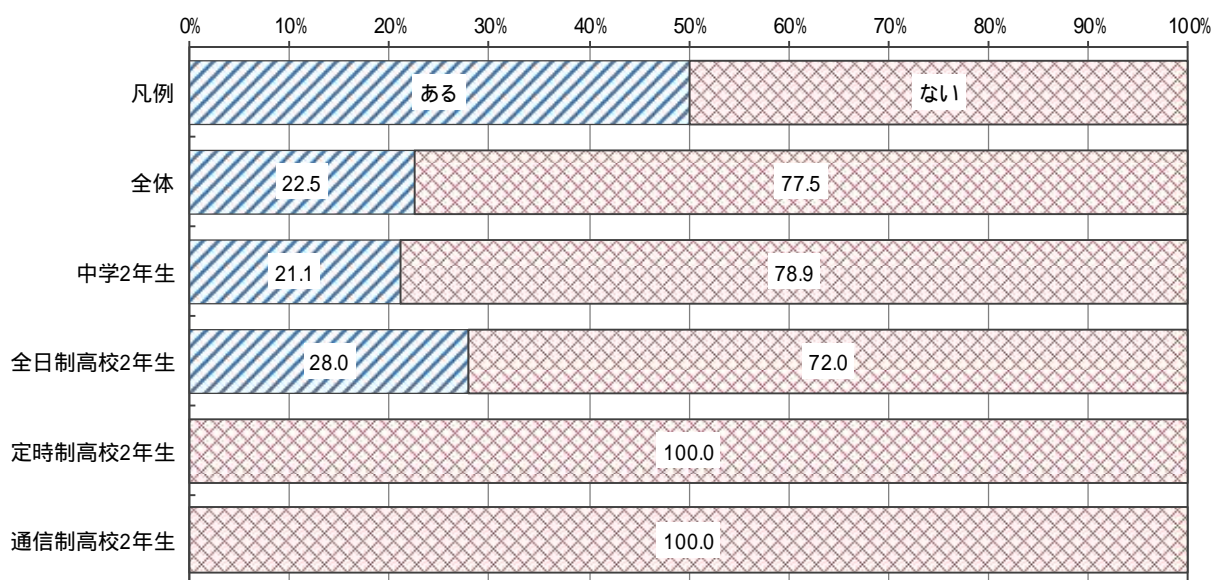


世話について相談した経験

世話について相談した経験は「ある」が中学2年生で21.1%（国：21.6%）、全日制高校2年生で28.0%（国：23.5%）、「ない」が中学2年生で78.9%（国：67.7%）、全日制高校2年生で72.0%（国：64.2%）、定時制高校2年生で100.0%（国：51.6%）、通信制高校で100.0%（国：63.3%）と、いずれの学校種でも、国の調査に比べ「ない」の割合が高くなっている。

世話について相談した経験

	合計	ある	ない
上段：実数 下段：%			
全体	481 100.0	108 22.5	373 77.5
中学2年生	355 100.0	75 21.1	280 78.9
全日制高校2年生	118 100.0	33 28.0	85 72.0
定時制高校2年生	5 100.0	0 0.0	5 100.0
通信制高校2年生	3 100.0	0 0.0	3 100.0

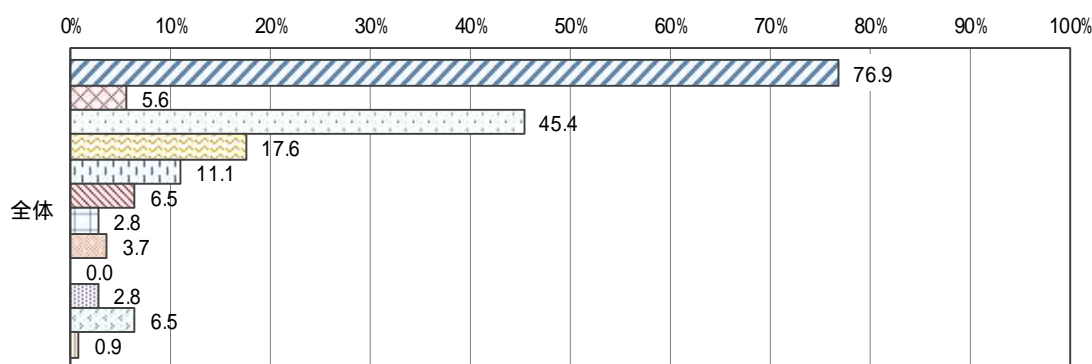


世話についての相談相手

世話についての相談相手について回答があった中学2年生、全日制高校2年生は、国の調査同様、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が最も高く、中学2年生で78.7%（国：69.6%）、全日制高校2年生で72.7%（国：69.4%）となっており、次いで、「友人」が、中学2年生で41.3%（国：40.6%）、全日制高校2年生で54.5%（国：47.2%）となっている。「学校の先生」や「保健室の先生」、「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」、「SNS上での知り合い」も国の調査と同様1割程度となっている。

世話についての相談相手(複数回答)

	合計	家族 (父、母、 きょうだい、 祖父、祖母、 おばなど)	親戚 (おじ、おばなど)	友人	学校の先生 (保健室の先生以 外)	保健室の先生	スクールソ シアルワ ーカー やスク ールカ ウンセ ラー	医師や 看護師、 その他 病院の 人	ヘル パー やケ アマ ネ、 福祉 サー ビス の人	役所 や保 健セ ンタ ーの 人	近所 の人	SNS 上 で の 知 り 合 い	その他
全体	108 - 76.9	83 - 76.9	6 5.6	49 45.4	19 17.6	12 11.1	7 6.5	3 2.8	4 3.7	0 0.0	3 2.8	7 6.5	1 0.9
中学2年生	75 - 78.7	59 - 78.7	4 5.3	31 41.3	10 13.3	5 6.7	3 4.0	2 2.7	3 4.0	0 0.0	2 2.7	2 2.7	0 0.0
全日制高校2年生	33 - 72.7	24 - 72.7	2 6.1	18 54.5	9 27.3	7 21.2	4 12.1	1 3.0	1 3.0	0 0.0	1 3.0	5 15.2	1 3.0
定時制高校2年生	0 - 0.0	0 - 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
通信制高校2年生	0 - 0.0	0 - 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



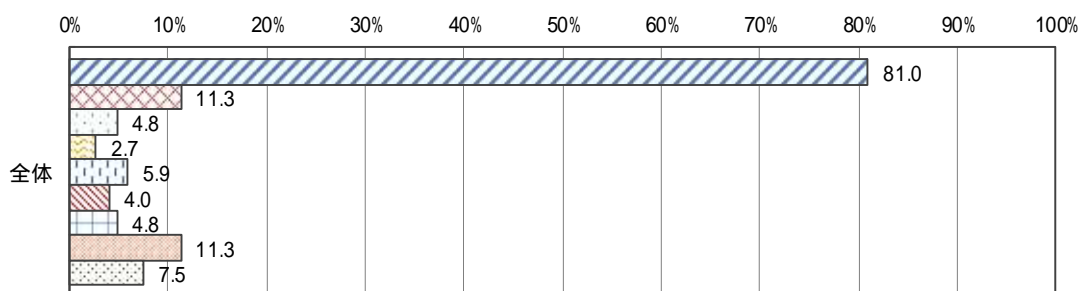
- 家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)
- 友人
- 保健室の先生
- 医師や看護師、その他病院の人
- 役所や保健センターの人
- SNS上での知り合い
- 親戚(おじ、おばなど)
- 学校の先生(保健室の先生以外)
- スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
- ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
- 近所の人
- その他

世話について相談したことがない理由

世話について相談した経験が「ない」と回答した人に、その理由について聞いたところ、いずれの学校種でも、国の調査同様、「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も高く、中学2年生で82.1%（国：74.5%）、全日制高校2年生で76.5%（国：65.0%）、定時制高校2年生で80.0%（国：62.5%）、通信制高校2年生で100.0%（国：45.2%）となっている。次いで、中学2年生は「家族外の人に相談するような悩みではない」が11.4%（国：15.3%）、全日制高校2年生は、国の調査同様、「相談しても状況が変わるとは思わない」が17.6%（国：22.8%）と高くなっている。

世話について相談したことがない理由（複数回答）

	合計	悩みかには相談しないほどの	誰か家族外の人には相談しない	家族外の悩みではない	誰かに相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話にくい	家族のこのことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他
全体	373	302	42	18	10	22	15	18	42	28	
	-	81.0	11.3	4.8	2.7	5.9	4.0	4.8	11.3	7.5	
中学2年生	280	230	32	13	8	13	8	13	27	25	
	-	82.1	11.4	4.6	2.9	4.6	2.9	4.6	9.6	8.9	
全日制高校2年生	85	65	9	4	2	8	6	4	15	3	
	-	76.5	10.6	4.7	2.4	9.4	7.1	4.7	17.6	3.5	
定時制高校2年生	5	4	1	1	0	1	1	1	0	0	
	-	80.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	
通信制高校2年生	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
	-	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	



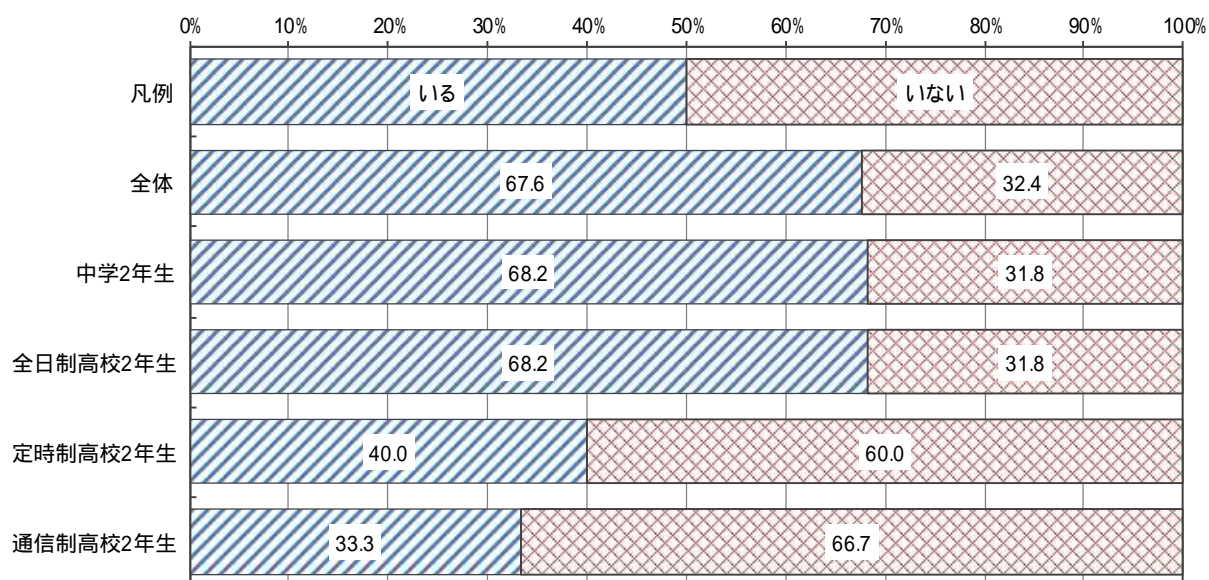
- 誰かに相談するほどの悩みではない
- 誰かに相談するのがよいかわからない
- 家族のこのため話にくい
- 家族に対して偏見を持たれたくない
- その他
- 家族外の人に相談するような悩みではない
- 相談できる人が身近にいない
- 家族のこのことを知られたくない
- 相談しても状況が変わるとは思わない

世話について話を聞いてくれる人の有無

世話についての相談した経験が「ない」と回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無を聞いたところ、中学2年生、全日制高校2年生では、「いる」と回答して割合が高く、中学2年生で68.2%（国：57.9%）、全日制高校2年生で68.2%（国：60.9%）となっており、国の調査に比べて「いる」と回答した割合が高い。定時制高校2年生、通信制高校2年生では、「いない」の割合が高く、定時制高校2年生で60.0%（国：31.3%）、通信制高校2年生で66.7%（国：61.3%）となっている。

世話について話を聞いてくれる人の有無

	合計	いる	いない
上段：実数 下段：%			
全体	373 100.0	252 67.6	121 32.4
中学2年生	280 100.0	191 68.2	89 31.8
全日制高校2年生	85 100.0	58 68.2	27 31.8
定時制高校2年生	5 100.0	2 40.0	3 60.0
通信制高校2年生	3 100.0	1 33.3	2 66.7

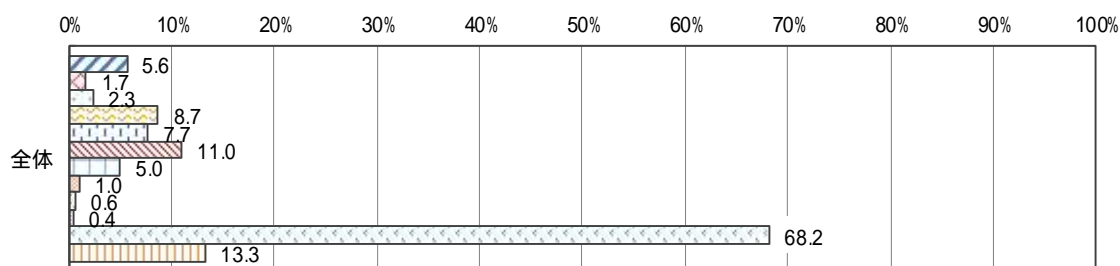


学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、いずれの学校種でも「特にない」が最も高く6~8割（国：約4割）となっているが、次いで、中学2年生、全日制高校2年生は「わからない」、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、「自由に使える時間がほしい」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」の割合がやや高くなっている。

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援(複数回答)

	合計	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	その他	特にない	わからない
上段：実数 下段：%													
全体	481	27	8	11	42	37	53	24	5	3	2	328	64
	-	5.6	1.7	2.3	8.7	7.7	11.0	5.0	1.0	0.6	0.4	68.2	13.3
中学2年生	355	20	6	7	32	26	41	16	3	2	2	247	43
	-	5.6	1.7	2.0	9.0	7.3	11.5	4.5	0.8	0.6	0.6	69.6	12.1
全日制高校2年生	118	7	2	4	10	11	12	8	2	1	0	75	18
	-	5.9	1.7	3.4	8.5	9.3	10.2	6.8	1.7	0.8	0.0	63.6	15.3
定時制高校2年生	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2
	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	40.0
通信制高校2年生	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3



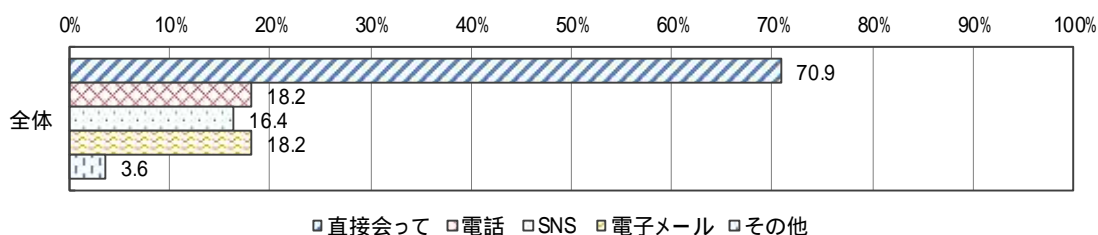
- 自分のいまの状況について話を聞いてほしい
- 家族のお世話について相談にのってほしい
- 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
- 自由に使える時間がほしい
- 進路や就職など将来の相談にのってほしい
- 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
- 家庭への経済的な支援
- 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい
- 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい
- その他
- 特にない
- 分からない

どのような方法で、話や相談にのってほしいか【独自調査】

どのような方法で話を聞いて欲しい、相談にのってほしいかは、中学2年生、全日制高校2年生では、「直接会って」が最も高く、中学2年生で71.8%、全日制高校2年生で68.8%となっている。「電話」、「SNS」、「電子メール」についても2割前後を占めている。

どのような方法で、話や相談にのってほしいか(複数回答)

	合計	直接会って	電話	S N S	電子メール	その他
上段：実数 下段：%						
全体	55	39	10	9	10	2
	-	70.9	18.2	16.4	18.2	3.6
中学2年生	39	28	6	6	8	2
	-	71.8	15.4	15.4	20.5	5.1
全日制高校2年生	16	11	4	3	2	0
	-	68.8	25.0	18.8	12.5	0.0
定時制高校2年生	0	0	0	0	0	0
	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通信制高校2年生	0	0	0	0	0	0
	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



□直接会って □電話 □SNS □電子メール □その他

(4) ヤングケアラーについて

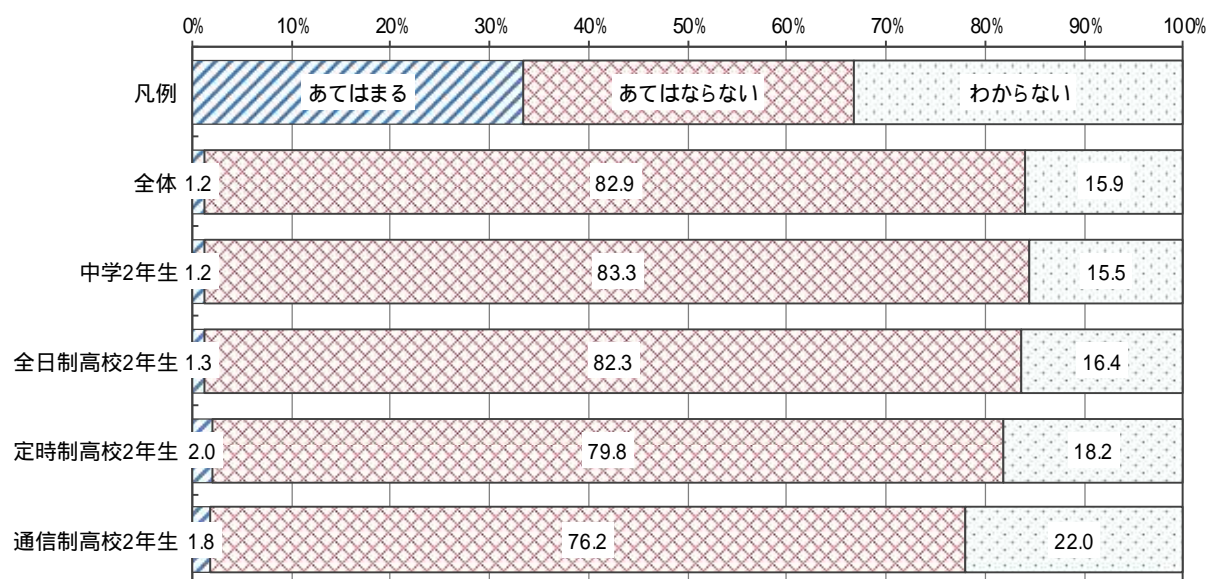
ヤングケアラーの自覚

自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて聞いたところ、「あてはまる」が、中学 2 年生で 1.2%（国：1.8%）、全日制高校 2 年生で 1.3%（国：2.3%）、定時制高校 2 年生で 2.0%（国：4.6%）、通信制高校 2 年生で 1.8%（国：7.2%）と、国の調査より低くなっている。いずれの学校種でも、国の調査と同様、「わからない」が 1～2 割程度となっている。

家族の世話の有無別にみると、中学 2 年生、全日制高校 2 年生では家族の世話をしていると回答した人のうち、中学 2 年生で 12.7%（国：16.3%）、全日制高校 2 年生で 22.0%（国：15.0%）が「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答している一方で「あてはまらない」と回答しているのは、中学 2 年生で 46.5%（国：46.7%）、全日制高校 2 年生で 30.5%（国：42.3%）となっている。

自分はヤングケアラーにあてはまると思うか

	合計	あてはまる	あてはまらない	わからない
上段：実数 下段：%				
全体	17,165 100.0	212 1.2	14,219 82.9	2,734 15.9
中学2年生	10,779 100.0	124 1.2	8,984 83.3	1,671 15.5
全日制高校2年生	5,870 100.0	78 1.3	4,827 82.3	965 16.4
定時制高校2年生	407 100.0	8 2.0	325 79.8	74 18.2
通信制高校2年生	109 100.0	2 1.8	83 76.2	24 22.0



< 中学2年生 >

		合計	あてはまる	あてはまらない	わからない
上段：実数 下段：%					
中学2年生		10,779	124	8,984	1,671
		100.0	1.2	83.3	15.5
世話をしている家族	いる	355	45	165	145
		100.0	12.7	46.5	40.8
世話をしていない家族	いる	10,424	79	8,819	1,526
		100.0	0.8	84.6	14.6

< 全日制高校2年生 >

		合計	あてはまる	あてはまらない	わからない
上段：実数 下段：%					
全日制高校2年生		5,870	78	4,827	965
		100.0	1.3	82.3	16.4
世話をしている家族	いる	118	26	36	56
		100.0	22.0	30.5	47.5
世話をしていない家族	いる	5,752	52	4,791	909
		100.0	0.9	83.3	15.8

< 定時制高校2年生 >

		合計	あてはまる	あてはまらない	わからない
上段：実数 下段：%					
定時制高校2年生		407	8	325	74
		100.0	2.0	79.8	18.2
世話をしている家族	いる	5	1	0	4
		100.0	20.0	0.0	80.0
世話をしていない家族	いる	402	7	325	70
		100.0	1.7	80.9	17.4

< 通信制高校2年生 >

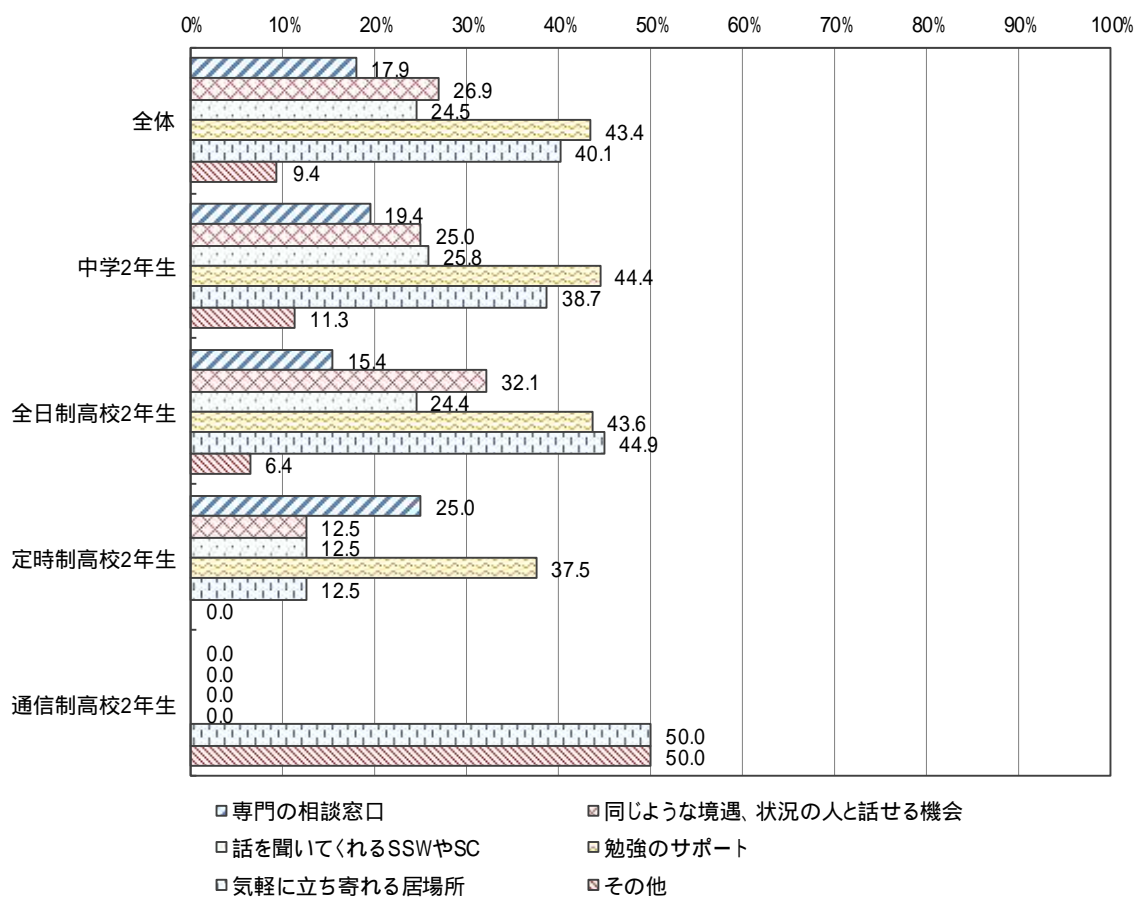
		合計	あてはまる	あてはまらない	わからない
上段：実数 下段：%					
通信制高校2年生		109	2	83	24
		100.0	1.8	76.2	22.0
世話をしている家族	いる	3	0	2	1
		100.0	0.0	66.7	33.3
世話をしていない家族	いる	106	2	81	23
		100.0	1.9	76.4	21.7

ヤングケアラーへのサービスについて【独自調査】

ヤングケアラーについて、どのようなサービスがあったらいいと思うかについて、中学2年生、定時制高校2年生では、「勉強のサポート」が最も高く、中学2年生で44.4%、定時制高校2年生で37.5%となっている。また、「気軽に立ち寄れる居場所」も中学2年生で38.7%、全日制高校2年生で44.9%と高い。

ヤングケアラーへのサービスについて(複数回答)

	合計	専門の相談窓口	のと同じような境遇、状況の人と話せる機会	S話を聞いたりSCしてくれる	勉強のサポート	居場所気軽に立ち寄れる	その他
	上段：実数 下段：%						
全体	212 -	38 17.9	57 26.9	52 24.5	92 43.4	85 40.1	20 9.4
中学2年生	124 -	24 19.4	31 25.0	32 25.8	55 44.4	48 38.7	14 11.3
全日制高校2年生	78 -	12 15.4	25 32.1	19 24.4	34 43.6	35 44.9	5 6.4
定時制高校2年生	8 -	2 25.0	1 12.5	1 12.5	3 37.5	1 12.5	0 0.0
通信制高校2年生	2 -	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0

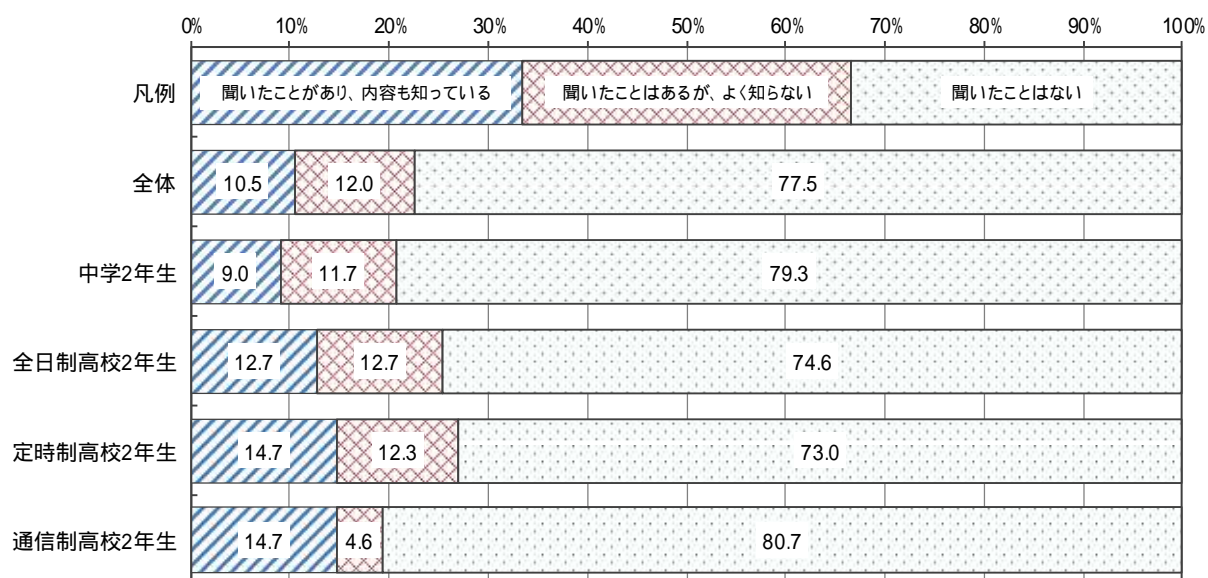


ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度については、いずれの学校種でも「聞いたことはない」が7～8割（国：8割以上）を占め、「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」がどちらも2割未満（国：1割未満）となっている。

ヤングケアラーの認知度

	合計	内容も聞いたことがあり、内	よく聞いたことはないがあるが、	聞いたことはない
全体	17,165	1,796	2,064	13,305
		10.5	12.0	77.5
中学2年生	10,779	974	1,262	8,543
		9.0	11.7	79.3
全日制高校2年生	5,870	746	747	4,377
		12.7	12.7	74.6
定時制高校2年生	407	60	50	297
		14.7	12.3	73.0
通信制高校2年生	109	16	5	88
		14.7	4.6	80.7

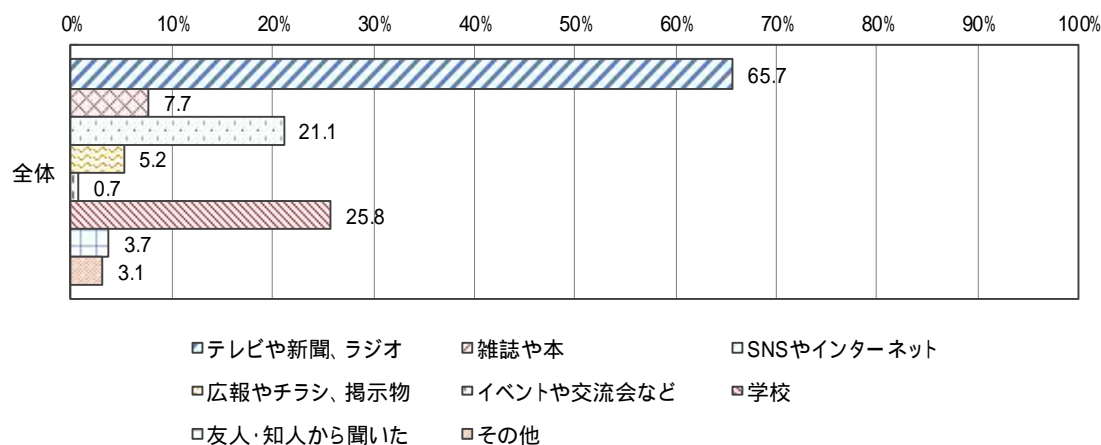


ヤングケアラーについて知ったきっかけ

ヤングケアラーについて「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人に、知ったきっかけを聞いたところ、いずれの学校種でも、国の調査同様、「テレビや新聞、ラジオ」が最も高く6割を占め、次いで、中学2年生、全日制高校2年生、定時制高校2年生は「学校」が高く2~3割、通信制高校2年生は「SNSやインターネット」で3割を占めている。

ヤングケアラーについて知ったきっかけ(複数回答)

	合計	テレビや新聞、ラジオ	雑誌や本	SNSやインターネット	広報やチラシ、掲示物	イベントや交流会など	学校	友人・知人から聞いた	その他
全体	3,860	2,536	299	816	200	28	997	144	118
	-	65.7	7.7	21.1	5.2	0.7	25.8	3.7	3.1
中学2年生	2,236	1,476	187	450	116	15	517	96	81
	-	66.0	8.4	20.1	5.2	0.7	23.1	4.3	3.6
全日制高校2年生	1,493	977	98	343	77	13	443	44	34
	-	65.4	6.6	23.0	5.2	0.9	29.7	2.9	2.3
定時制高校2年生	110	69	10	16	6	0	34	3	2
	-	62.7	9.1	14.5	5.5	0.0	30.9	2.7	1.8
通信制高校2年生	21	14	4	7	1	0	3	1	1
	-	66.7	19.0	33.3	4.8	0.0	14.3	4.8	4.8



3. 中高生アンケート調査 自由意見

中高生アンケート調査において、さまざまな自由意見が寄せられた。ここでは、その一部を紹介する。
以下に記載する意見は、原文のままではないが、なるべく回答者の表現を用いる形で記載している。

(1) ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うこと

● 学校に関すること

学校の授業で取り上げることでヤングケアラーのことをもっとみんなが知ることができるようになると思う。
気軽に相談できる場所を作る。 学校等で定期的にこのようなアンケートを取ったりする。
私は、ヤングケアラーについて知っていたけどみんなにもっと知ってもらうために学校などの総合の時間などで学習したり、学校が生徒一人一人の家庭状況を把握して対処をしてあげる。学校の先生だけでなく、友達がヤングケアラーについて理解をもっと深めたら相談しやすくなるとおもう。
学校にヤングケアラーについての掲示用のポスターを配布し、生徒の目につく場所に掲示してもらう。
学校での交流会やオンラインでの交流会を行い、障害がある方やヤングケアラーに当てはまる方からのお話を聞いたり、同級生で当てはまる人がいたら大人でヤングケアラーに当てはまる人と交流することで辛いことも軽減され相談できる環境があると周りも理解が深まり支援しようと言う人ができたり必要なことがわかり周りで取り上げられることも増えていくとおもいます
ヤングケアラーのことを学校でも学習するようになり、ポスターを貼ったりして、もっとこんな人もいるんだということを広めていくべきだと思います。外見ではヤングケアラーかどうかは分からないから、もし身近にそういう人がいたら、協力できることはしていきたいです。
本来学ぶことに専念できるはずの子供が今できていないのなら、今まで以上に学校でもアンケートを取ったり話しやすい環境づくりを行う。また、学校でのヤングケアラーについて学ぶ時間を作ったほうが良いと思う。
ヤングケアラーは、家庭内でのことが多く、表面に現れないことが多いと思います。新聞で読んだことがあるのですが、介護をしている子ども自身も、大人になってから自分がヤングケアラーであったことに気づいた人も多いそうです。学生が、大きすぎる負担のために、健全な学生生活を送れないのは、不平等だと思います。まず第一歩として、ヤングケアラーについて知る機会を学校などで、設けていただきたいです。
介護してくれる人を頼む料金の問題や自分自身が気付かないうちにやっている場合があると思った。相談しようとしても家族の家庭内の問題だったり、友達に相談するには内容が重かったりするとできないと思うので、学校のいじめアンケートのほかにヤングケアラーに関するアンケートを出したりしたらいいと思う

● 学校以外に関すること

SNSでの発信
少しでもアンケートなどでヤングケアラーを見つけ、ヤングケアラー本人の望む支援をする
ヤングケアラーの方が相談しやすいサービスをつくる
ヤングケアラーという言葉をいろんな人にわかってもらう。
ヤングケアラーをしている人への金銭的な援助
市街地以外の場所でも周りと集まったり協力したりできること
子供の自由に使える時間をもっと増やしてあげるために定期的に代わりにお世話をしてくれる人が家に来てくれる。
もっと幅広い人にヤングケアラーについて知ってもらう。私もつい最近知って、まだ知らない人がたくさんいると思うから。

<p>こういうアンケートを増やす</p>
<p>そもそも支援制度があるのを知らない子が多い。学校や自治体、児童相談所などが協力して広報活動をもっとすべき。</p>
<p>ヤングケアラーの家庭に定期的に訪問し健康的な生活を送れているか確認すること。その子供が困っていたり何か異常を感じたらケアをすること。</p>
<p>そのヤングケアラーの人たちが困っていたら、周りの人が気づいてあげる。そして、自分にできることがあれば何か手伝ってあげたり、無いのなら相談だけでも乗ってあげたりすることが大切だと思う。ヤングケアラーの人たちが一人にならないようにしてあげる。</p>
<p>実際体験した人の話を聞いて講座などを開く</p>
<p>ヤングケアラーで進路が狭まる人がいるからサポートをした方がいいと思う</p>
<p>もし身近にいたとしても気づかないと思います。また、他の人に言いにくいけど相談した方がいいと思うことがあると思うので信頼できる人や相談できる人を見つけることが良いと思いました。</p>
<p>もっと子供に対しての視野を広げ、子供同士も気にかけていった方がいいのかなーと思いました。でも実際は、身近にいたとしても気づかないと思います。また、誰も相談を聞く人がいないと思うので相談できる人や信頼できる人が身近にいることが安心して暮らせて良いと思いました。</p>
<p>いままで家事労働が当たり前で、自分の教育を侵害されていると気づかず頑張っている同世代の子供たちに自分のやっている事は、決して普通のことでないと知らせてあげる事が大切である。</p>
<p>障害を持っている人や幼い子、難病を抱えている方などの知識を色んな人が正しく知り、周りの人がヤングケアラーになっている子供のことを気にかけて、できることをしたりするようになればいいと思います。</p>
<p>ケアラー自身の希望や夢が潰されないように、周りがすすんでサポートをするべきだと思う</p>
<p>今回初めてヤングケアラーという言葉を知った。初めて聞いた私の思いとして、ヤングケアラーの対象となっている子どもたちが、自分のことや学業が疎かにならないような支援を周りがしていくことが大切だと思った。</p>
<p>ヤングケアラーへの精神的な支援(匿名で相談できる窓口を開くなど)や肉体的な援助(気軽に依頼できる代行サービスの実施など)をする。また、ヤングケアラーについてより広く知ってもらうための授業や講演会などを行う。経済的支援なども、必要である場合は行う。</p>
<p>お世話をされている方が施設へ入りたくても入れないということが無くなり、入ることに関してもお金など大きな負担があまりかからないようにすると良いと思う。</p>
<p>支援を広げるためには、各市町村で、各家庭の見回りやこのようなアンケートを定期的に取り必要だと思う。また、私はこのアンケートを見るまで、ヤングケアラーという言葉を知らなかった。だから、そういった子どもたちがいるということ、テレビ、ポスター、SNS等で広めていく必要があると思う。</p>
<p>家計を支えているヤングケアラーに対しての金銭面の援助など</p>
<p>家族の世話や、きょうだいの世話をせざるを得ない状況で、自分の時間が使えなかったり、きつかったりする人も少なくないと思うので、財政的な支援で助けたりすれば良いと思います。</p>
<p>ヤングケアラーの人が集まれる場のようなものをつくって、当事者たちにしか分からない悩みや困り事を共有してストレス発散する。 ヤングケアラーがいる家庭の周りの人も協力してみんなでお世話をしていく。</p>
<p>ヤングケアラーのお家は金銭的にも悩むことがあると思うので、募金をしたりすることが大切だと思います。また、そのヤングケアラーをお手伝いする団体も必要だと思います。</p>
<p>ヤングケアラーという言葉は、私も最近テレビで取り上げられていて知りました。このようにまだ、ヤングケアラーを知らない人や最近知った人に詳しくヤングケアラーについて伝える場を設けることがこれから必要になっていくのではないかなと思います。</p>
<p>少しでも心の負担を減らすことが大切だと思いました。</p>

(2) その他感想など

僕はこのアンケート調査を行うことで初めてヤングケアラーについて知りました。
ヤングケアラーの人は自分がヤングケアラーであることを隠して生活するんじゃないかな。自分の家族のことは自分で何とかして他人には迷惑かけたくないかと思ってそう。
ヤングケアラーの事をもっと知りたいです
私は、ヤングケアラーという言葉を知りませんでした。おそらく、私以外にもこの言葉を知らない人がたくさんいると思います。もしかしたら、自分がヤングケアラーだと気付いていない子もいるかもしれません。ヤングケアラーへの支援体制を整えるとともに、そもそもヤングケアラーとは何なのかを知る機会を増やすことも大切だと思います。
家事の時間で夜が遅くなるので早く寝たくなります。でも学校の提出物が疎かになると色々言われるので寝れません。人前で提出物に関して問いただしたり、理由を聞いたり、サボりだと言ったりしないでほしいです。
友達や知り合いがヤングケアラーだと知ったときにどのような対応をすればよいのかを知りたいです。

資料編



申請団体選択

> 手続き申込

> 申込内容照会

> 職員署名検証

手続き申込

手続き選択をする	メールアドレスの確認	内容を入力する	申し込みをする
----------	------------	---------	---------

申込

選択中の手続き名：学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

問合せ先 [+開く](#)

説明

【回答上の注意】

- ご回答は、選択肢を選ぶ場合と、数字や具体的な内容を入力いただく場合があります。設問文に従ってご回答ください。
- 複数回答が可能な設問については、選択部分を2回押すことでその選択が解除されます。
- 回答は1人1回限りです。所要時間は10～15分程度です。
- 集計結果を含めた報告書は、個々の回答が特定できないよう編集し、熊本県のホームページなどで公表します。

受付時期

2021年8月23日0時00分～2021年10月1日0時00分

基本情報

問1 ご回答された方の役職をお教えてください。あてはまる番号1つを選択してください。

必須

- 1. 校長
- 2. 副校長・教頭
- 3. 主幹・主任教諭（具体的に記載）

- 4. 養護教諭
- 5. スクールソーシャルワーカー（SSW）
- 6. スクールカウンセラー（SC）
- 7. その他

選択解除

問2 貴校の学校区分をお教えてください。あてはまる番号1つを選択してください。 **必須**

1. 小学校 →問4へ
2. 中学校 →問4へ
3. 高等学校（全日制） →問3へ
4. 高等学校（定時制） →問3へ
5. 高等学校（通信制） →問3へ

選択解除

問3 問2で「3」「4」「5」を選択された方へ、単位制の有無を選択してください。

必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 単位制あり
2. 単位制なし

選択解除

問4 貴校の所在地をお教えてください。 **必須**

選択してください

問5 人数についてお教えてください。 **必須**

小学校については小学6年生、中学校については中学2年生、高等学校については高校2年生の人数についてお教えてください。（令和3年5月1日時点）

人

支援が必要だと思われる子どもへの対応についてお伺いします。

問6 SSWの派遣・配置状況をお伺いします。あてはまる番号1つを選択してください。

必須

1. 週に2～3回以上派遣・配置されている
2. 週に1回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている
4. 要請に応じて派遣される
5. その他

6. 派遣・配置されていない

選択解除

問7 SCの派遣・配置状況をお伺いします。あてはまる番号1つを選択してください。

必須

1. 週に2～3回以上派遣・配置されている
2. 週に1回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている
4. 要請に応じて派遣される
5. その他

6. 派遣・配置されていない

選択解除

問8 下記の子どもについて校内で共有しているケースはありますか。あてはまる番号すべてを選択してください。 必須

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない
10. 部活を途中でやめてしまった
11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
12. 校納金が遅れる、未払い
13. その他

問9 問8のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

必須

最も多いケースでご回答ください。あてはまる番号1つを選択してください。

1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している →問10へ
2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している →問10へ
3. 個別に対応している（決まった検討体制はない） →問12へ

選択解除

問10 問9で「1」「2」を回答した方にお伺いします。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。あてはまる番号すべてを選択してください。

1. スクリーニング会議（すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な鑑別を行う会議）
2. ケース会議
3. 生徒指導部・委員会など
4. 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有
5. 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名
6. その他

問11 問10で「1」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。

必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

あてはまる番号すべてを選択してください。

1. スクリーニング会議

(参加者)

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 学年主任
4. 担任教諭
5. 生徒指導教諭
6. 養護教諭
7. SSW
8. SC
9. 外部の関係機関

10. その他

問11 問10で「1」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。

必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

あてはまる番号1つを選択してください。

1. スクリーニング会議

(頻度)

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度
3. 半年に1回程度
4. 年に1回程度

選択解除

問11 問10で「2」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。

必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

あてはまる番号すべてを選択してください。

2. ケース会議

(参加者)

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 学年主任
4. 担任教諭
5. 生徒指導教諭
6. 養護教諭
7. SSW
8. SC
9. 外部の関係機関

10. その他

問11 問10で「2」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。

必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

あてはまる番号1つを選択してください。

2. ケース会議

(頻度)

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度
3. 半年に1回程度
4. 年に1回程度

選択解除

問11 問10で「3」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。

必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

あてはまる番号すべてを選択してください。

3. 生徒指導部・委員会など

(参加者)

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 学年主任
4. 担任教諭
5. 生徒指導教諭
6. 養護教諭
7. SSW
8. SC
9. 外部の関係機関

10. その他

問11 問10で「3」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。

必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

あてはまる番号1つを選択してください。

3. 生徒指導部・委員会など

(頻度)

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度

3. 半年に1回程度
4. 年に1回程度

選択解除

問11 問10で「6」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。

必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

あてはまる番号すべてを選択してください。

4. その他

(参加者)

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 学年主任
4. 担任教諭
5. 生徒指導教諭
6. 養護教諭
7. SSW
8. SC
9. 外部の関係機関

10. その他

問11 問10で「6」と回答した方にお伺いします。会議の頻度はどれくらいですか。

必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

あてはまる番号1つを選択してください。

4. その他

(頻度)

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度
3. 半年に1回程度
4. 年に1回程度

選択解除

問12 問9で「3. 個別に対応している」と回答した方にお伺いします。 必須**選択肢の結果によって入力条件が変わります**

問8のケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的に教えてください。

入力文字数：0/150

問13 問8のケースについてお尋ねします。

学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

1 要保護児童対策地域協議会の登録ケース 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 体制は特でない
2. 体制はある →以下の関係機関であてはまる番号すべてを選択してください。
- (1) 市区町村教育委員会
- (2) 市区町村の福祉部門(4)を除く
- (3) 市区町村の保健部門
- (4) 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
- (5) 教育支援センター(適応指導教室)
- (6) フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
- (7) 児童相談所
- (8) 民生委員
- (9) 病院
- (10) 警察や刑事司法関係機関
- (11) その他

2 不登校のケース 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 体制は特でない

2. 体制はある →以下の関係機関であてはまる番号すべてを選択してください。
- (1) 市区町村教育委員会
- (2) 市区町村の福祉部門（4）を除く
- (3) 市区町村の保健部門
- (4) 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関／虐待対応部門
- (5) 教育支援センター（適応指導教室）
- (6) フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
- (7) 児童相談所
- (8) 民生委員
- (9) 病院
- (10) 警察や刑事司法関係機関
- (11) その他

3 それ以外 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 体制は特でない
2. 体制はある →以下の関係機関であてはまる番号すべてを選択してください。
- (1) 市区町村教育委員会
- (2) 市区町村の福祉部門（4）を除く
- (3) 市区町村の保健部門
- (4) 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関／虐待対応部門
- (5) 教育支援センター（適応指導教室）
- (6) フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
- (7) 児童相談所
- (8) 民生委員
- (9) 病院
- (10) 警察や刑事司法関係機関
- (11) その他

ヤングケアラーについてお伺いします。

問14 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。あてはまる番号1つを選択してください。 **必須**

1. 言葉を知らない →問17へ
2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない →問17へ
3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない →問17へ
4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している →問15へ

選択解除

問15 問14で「4」と回答した方にお伺いします。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。あてはまる番号1つを選択してください。

1. 把握している →問16へ
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない →問17へ
3. 該当する子どもはいない（これまでいなかった） →問17へ

選択解除

問16 問15で「1」と回答した方にお伺いします。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。あてはまる番号すべてを選択してください。

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
3. その他

ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことを言います。ヤングケアラーの定義を踏まえて、以下の設問にお答えください。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

© 一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

問17 ヤングケアラーの定義を見てご回答ください。 **必須**

現在、貴校にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもはいますか。あてはまる番号1つを選択してください。

1. いる →問18へ
2. いない →問26へ
3. わからない →問25へ

選択解除

問18 問17で「1. いる」と回答した方にお伺いします。 **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。あてはまる番号すべてを選択してください。

1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている
2. 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
3. 家族に代わり、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている
4. 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている
5. 家族の通訳をしている
6. 家計を支えるために、アルバイト等をしている

7. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
8. 病気の家族の看病をしている
9. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
10. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
11. その他

問19 ヤングケアラーと思われる子どもについてご回答ください。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など）の支援につないだケースはありますか。あてはまる番号すべてを選択してください。（3の場合は、3のみ選択してください。）

1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある →問20（1）へ
2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある →問20（2）へ
3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している） →問21へ

問20 問19で「1」と回答した方にお伺いします。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

それぞれの該当する直近のケースについて、1件ずつお教えてください。

問20（1）要保護児童対策地域協議会に通告したケース性別（あてはまる番号1つを選択してください。）

1. 女性
2. 男性
3. その他

選択解除

学年（あてはまる番号1つを選択してください。） 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 小学1年生
2. 小学2年生
3. 小学3年生
4. 小学4年生
5. 小学5年生
6. 小学6年生

7. 中学1年生
8. 中学2年生
9. 中学3年生
10. 高校1年生
11. 高校2年生
12. 高校3年生

選択解除

学校生活の状況（あてはまる番号すべてを選択してください） **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない
10. 部活動を途中でやめてしまった
11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
12. 校納金が遅れる、未払い
13. その他

家族構成（あてはまる番号すべてを選択してください） **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他

家庭でのケアの状況を把握していますか（あてはまる番号1つを選択してください） **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. はい →a) からc) へ
2. いいえ →ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけへ

選択解除

a) ケアを必要としている人（あてはまる番号すべてを選択してください） **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他

b) ケアを必要としている人の状況（あてはまる番号すべてを選択してください） **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 高齢（65歳以上）
2. 幼い
3. 要介護（介護が必要な状態）
4. 認知症
5. 身体障がい
6. 知的障がい
7. 精神疾患（疑い含む）
8. 依存症（疑い含む）
9. 7, 8以外の病気
10. その他

11. わからない

c) ケアの内容（あてはまる番号すべてを選択してください） **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
4. 外出の付き添い（買い物、散歩など）
5. 通院の付き添い
6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
7. 見守り
8. 通訳（日本語や手話など）
9. 金銭管理
10. 薬の管理
11. その他

12. わからない

ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります
要保護児童対策地域協議会への通告ルート **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 市区町村教育委員会経由
2. 学校から直接連絡
3. その他

選択解除

学校で行った支援（要対協との連携も含めて） **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります
支援した結果、子どもへの変化 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

問20 問19で「2」と回答した方にお伺いします。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

それぞれの該当する直近のケースについて、1件ずつお教えてください。

問20 (2) 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

性別（あてはまる番号1つを選択してください。）

1. 女性
2. 男性
3. その他

選択解除

学年（あてはまる番号1つを選択してください。） 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 小学1年生
2. 小学2年生
3. 小学3年生
4. 小学4年生
5. 小学5年生
6. 小学6年生
7. 中学1年生
8. 中学2年生
9. 中学3年生
10. 高校1年生
11. 高校2年生
12. 高校3年生

選択解除

学校生活の状況（あてはまる番号すべてを選択してください） 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない

6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない
10. 部活を途中でやめてしまった
11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
12. 校納金が遅れる、未払い
13. その他

家族構成（あてはまる番号すべてを選択してください） **必須**
選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他

家庭でのケアの状況を把握していますか（あてはまる番号1つを選択してください） **必須**
選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. はい →a) からc) へ
2. いいえ →ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけへ

a) ケアを必要としている人（あてはまる番号すべてを選択してください） **必須**
選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい

6. その他

b) ケアを必要としている人の状況（あてはまる番号すべてを選択してください） **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 高齢（65歳以上）
2. 幼い
3. 要介護（介護が必要な状態）
4. 認知症
5. 身体障がい
6. 知的障がい
7. 精神疾患（疑い含む）
8. 依存症（疑い含む）
9. 7, 8以外の病気
10. その他

11. わからない

c) ケアの内容（あてはまる番号すべてを選択してください） **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
4. 外出の付き添い（買い物、散歩など）
5. 通院の付き添い
6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
7. 見守り
8. 通訳（日本語や手話など）
9. 金銭管理
10. 薬の管理
11. その他

12. わからない

ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

つないだ機関 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

入力文字数：0/100

外部機関へのつながり方 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 市区町村教育委員会経由
2. 学校から直接連絡
3. その他

選択解除

学校が行った支援（つながり先との連携も含めて） **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

支援した結果、子どもへの変化 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

問21 問19で「3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応）」と回答した方にお伺いします。 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

外部の支援につながなかった理由を教えてください。

問21 問19で「3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応）」と回答した方にお伺いします。 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

どのように対応しているのか教えてください。

問 2 2 選択肢の結果によって入力条件が変わります

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

問 2 3 選択肢の結果によって入力条件が変わります

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

問 2 4 選択肢の結果によって入力条件が変わります

問 8 の選択肢は、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握するためのチェック項目として作成したものです。追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。

<参考：問 8 の選択肢> 選択肢の結果によって入力条件が変わります

- 学校を休みがちである
- 遅刻や早退が多い
- 保健室で過ごしていることが多い
- 精神的な不安定さがある
- 身だしなみが整っていない
- 学力が低下している
- 宿題や持ち物の忘れ物が多い
- 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
- 学校に必要なものを用意してもらえない
- 部活を途中でやめてしまった
- 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
- 校納金が遅れる、未払い

 ←入力不要
問 2 5 問 1 7 で「ヤングケアラーと思われる子どもがいるか 3. わからない」と回答した方にお伺いします。 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

その理由をお教えてください。あてはまる番号すべてを選択してください。

- 1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
- 2. 不登校やいじめなどに比べ緊急度が不高いため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
- 3. 家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
- 4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない

5. その他

問26 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。

必須

あてはまる番号すべてを選択してください。

1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
2. 教職員がヤングケアラーについて知ること
3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
4. SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること
5. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
6. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
8. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
9. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること
10. 福祉と教育の連携を進めること（具体的に）

11. その他

12. 特になし

問27 ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

入力文字数：0/200

確認へ進む



入力中のデータを一時保存・読み込み

【申込データ一時保存、再読み込み時の注意事項】


- ・添付ファイルは一時保存されません。再読み込み後は、必要に応じて、ファイルを添付し直してください。
- ・パソコンに一時保存した申込データはパソコンで閲覧・加筆・修正することはできません。


・システムに読み込む場合は一時保存した手続きの画面でしか読み込めませんので、ご注意ください

「入力中のデータを保存する」では申込みの手続きが完了していませんのでご注意ください。

※入力中の申込データをパソコンに一時保存します。

※一時保存した申込データを再度読み込みます。

 入力中のデータを保存する

 保存データの読み込み

【操作に関するお問合せ先（コールセンター）】

○固定電話コールセンター

TEL：0120-464-119（フリーダイヤル）

（平日9：00～17：00 年末年始除く）

○携帯電話コールセンター

TEL：0570-041-001（有料）

（平日9：00～17：00 年末年始除く）

FAX：06-6455-3268

e-mail：help-shinsel-kumamoto@s-kantan.com

【各種手続き等の内容に関するお問合せ先】

直接担当課にお問合せください。



ログイン

利用者登録

申請団体選択

} 手続き申込

} 申込内容照会

} 職員署名検証

手続き申込

手続き選択をする	メールアドレスの確認	内容を入力する	申し込みをする
----------	------------	---------	---------

申込

選択中の手続き名： 中高生の生活実態に関するアンケート調査

問合せ先 [+開く](#)

説明

◇◆ご回答にあたってのお願い◆◇

- この調査に同意し、協力してくださる場合のみ、アンケートにご回答ください。アンケートへの回答をもって、この調査に同意していただいたものと判断させていただきます。
- ご回答は、選択肢を選ぶ場合と、数字や具体的な内容を入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従ってご回答ください。
- 複数回答ができる設問については、チェックを2回押すとその選択肢が外れます。
- このネット調査では、一時保存ができません。回答を途中で中断する場合は、保存されませんので、最後まで回答いただくか、改めて初めから回答をお願いいたします。なお、回答は1人1回限りです。
- 所要時間は10～15分程度です。
- 集計結果を含めた報告書は、個々の回答が特定できないよう編集し、県庁のホームページなどで公表します。

受付時期

2021年8月23日0時00分～2021年10月1日0時00分

基本情報

問1 あなたの学年を教えてください。あてはまる番号1つを選択してください。 **必須**

1. 中学2年生
2. 高校2年生（全日制）
3. 高校2年生（定時制）
4. 高校2年生（通信制）
5. あてはまるものはない

選択解除

問2 あなたの性別を教えてください。あてはまる番号1つを選択してください。 **必須**

1. 男性
2. 女性

3. その他

選択解除

問3 現在住んでいる市町村を教えてください。あてはまる番号1つを選択してください。

必須

選択してください ▼

問4 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。あてはまる番号すべてを選択してください。 **必須**

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. 兄・姉
6. 弟・妹
7. その他（下の欄に具体的に記入してください）

問5 あなたの健康状態について教えてください。あてはまる番号1つを選択してください。

必須

1. よい
2. まあよい
3. ふつう
4. あまりよくない
5. よくない

選択解除

ふだんの生活についてお伺いします。

問6 学校への出席状況について教えてください。あてはまる番号1つを選択してください。

必須

1. ほとんど欠席しない
2. たまに欠席する
3. よく欠席する

選択解除

問7 遅刻や早退の状況について教えてください。あてはまる番号1つを選択してください。

必須

1. ほとんどしない
2. たまにする
3. よくする

選択解除

問8 部活動（学校外での活動を含む）に参加していますか。あてはまる番号1つを選択してください。

必須

1. 参加している
2. 参加していない

選択解除

問9 ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか。あてはまる番号すべてを選択してください。

必須

1. 授業中に居眠りすることが多い
2. 宿題や課題ができていないことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い
4. 部活動や習い事を休むことが多い
5. 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い
6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する
7. 保健室で過ごすことが多い
8. 学校では1人で過ごすことが多い
9. 友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
10. 特にない

問10 現在、悩んだり困っていることはありますか。あてはまる番号すべてを選択してください。

必須

1. 友人との関係のこと
2. 学業成績のこと
3. 進路のこと
4. 部活動のこと

5. 学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと
6. 塾（通信含む）や習い事ができない
7. 家庭の経済的状況のこと
8. 自分と家族との関係のこと
9. 家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）
10. 病気や障がいのある家族のこと
11. 自分のために使える時間が少ない
12. その他（下の欄に具体的に記入してください）

13. 特にない

問11 問10で1～12のいずれかを回答した方にお聞きます。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。あてはまる番号1つを選択してください。

1. 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
2. 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
3. 相談や話はしたくない

選択解除

家庭や家族のことについてお伺いします。

問12 家族の中にあなたがお世話している人はいますか。あてはまる番号1つを選択してください。 必須

（ここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。）

1. いる → 問13へ
2. いない → 問29へ

選択解除

問13 お世話を必要としている方はどなたですか。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

あてはまる番号すべてを選択してください。

- 1. 母親
- 2. 父親
- 3. 祖母
- 4. 祖父
- 5. きょうだい
- 6. その他（下の欄に具体的に記入してください）

問14 お世話を必要としている方の状況について教えてください。あてはまる番号すべてを選択してください。 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

- 1. 高齢（65歳以上）
- 2. 幼い
- 3. 要介護（介護が必要な状態）
- 4. 認知症
- 5. 身体障がい
- 6. 知的障がい
- 7. 精神疾患（疑い含む）
- 8. 依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）
- 9. 7, 8以外の病気
- 10. その他（下の欄に具体的に記入してください）

問15 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。あてはまる番号すべてを選択してください。 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

- 1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
- 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
- 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
- 4. 外出の付き添い（買い物、散歩など）
- 5. 通院の付き添い
- 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
- 7. 見守り
- 8. 通訳（日本語や手話など）
- 9. 金銭管理

10. 薬の管理
11. その他（下の欄に具体的に記入してください）

問16 お世話は誰と行っていますか。あてはまる番号すべてを選択してください。 **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. 親戚の人
7. 自分のみ
8. 福祉サービス（ヘルパーなど）を利用
9. その他（下の欄に具体的に記入してください）

問17 お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢を教えてください。 **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

（はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢で構いません。）

 歳から

問18 お世話をしている頻度を教えてください。あてはまる番号1つを選択してください。

必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. ほぼ毎日
2. 週に3～5日
3. 週に1～2日
4. 1か月に数日
5. その他（下の欄に具体的に記入してください）

選択解除

問19 平日にお世話はどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。 **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

(日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください。)

1日 時間程度

問20 休日にお世話はどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

(日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください。)

1日 時間程度

問21 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。あてはまる番号すべてを選択してください。 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 学校に行きたくても行けない
2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう
3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない
4. 睡眠が十分に取れない
5. 友人と遊ぶことができない
6. 部活動や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
7. 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した
8. 自分の時間が取れない
9. その他(下の欄に具体的に記入してください)

10. 特になし

問22 お世話をすることにきつさを感じていますか。あてはまる番号すべてを選択してください。 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 身体的にきつい
2. 精神的にきつい
3. 時間的余裕がない
4. 特にきつさは感じていない

問23 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

あてはまる番号1つを選択してください。

1. ある →問24へ
2. ない →問25へ

選択解除

問24 問23で「1. ある」と回答した方にお聞きします。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

それは誰ですか。あてはまる番号すべてを選択してください。

1. 家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）
2. 親戚（おじ、おばなど）
3. 友人
4. 学校の先生（保健室の先生以外）
5. 保健室の先生
6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
7. 医師や看護師、その他病院の人
8. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
9. 役所や保健センターの人
10. 近所の人
11. SNS上での知り合い
12. その他（下の欄に具体的に記入してください）

問25 問23で「2. ない」と回答した方にお聞きします。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

相談していない理由を教えてください。あてはまる番号すべてを選択してください。

1. 誰かに相談するほどの悩みではない
2. 家族外の人に相談するような悩みではない
3. 誰に相談するのがよいかわからない
4. 相談できる人が身近にいない
5. 家族のここのため話しにくい
6. 家族のことを知られたくない
7. 家族に対して偏見を持たれたくない
8. 相談しても状況が変わるとは思わない
9. その他（下の欄に具体的に記入してください）

問26 問23で「2. ない」と回答した方にお聞きします。 必須
選択肢の結果によって入力条件が変わります

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みなどを聞いてくれる人はいますか。あてはまる番号1つを選択してください。

1. いる
2. いない

問27 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。あてはまる番号すべてを選択してください。 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい
2. 家族のお世話について相談にのってほしい
3. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
4. 自由に使える時間がほしい
5. 進路や就職など将来の相談にのってほしい
6. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
7. 家庭への経済的な支援
8. 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい
9. 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい →具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか。下の欄に具体的に記入してください。

10. その他（下の欄に具体的に記入してください）

11. 特になし
12. わからない

問28 問27で「1」、「2」、「5」を回答した方にお聞きします。 必須
選択肢の結果によって入力条件が変わります

どのような方法で話を聞いてほしい、相談にのってほしいですか。あてはまる番号すべてを選択してください。

1. 直接会って
2. 電話

3. SNS
4. 電子メール
5. その他（下の欄に具体的に記入してください）

ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

（ヤングケアラーのイメージ 例）



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼児きょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

© 一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration: Izumi Shiga

問29 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。あてはまる番号1つを選択してください。 **必須**

1. あてはまる
2. あてはまらない
3. わからない

選択解除

問30 問29で「1」と回答した方にお聞きします。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

ヤングケアラーについて、どのようなサービスがあったらいいと思いますか。あてはまる番号すべてを選択してください。

1. 専門の相談窓口
2. 同じような境遇、状況の人と話せる機会
3. 話を聞いてくれるスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
4. 勉強のサポート
5. 気軽に立ち寄れる居場所
6. その他（下の欄に具体的に記入してください）

問31 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。あてはまる番号1つを選択してください。 必須

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

選択解除

問32 問31で「1」「2」と回答した方にお聞きします。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。あてはまる番号すべてを選択してください。

1. テレビや新聞、ラジオ
2. 雑誌や本
3. SNSやインターネット
4. 広報やチラシ、掲示物
5. イベントや交流会など
6. 学校
7. 友人・知人から聞いた
8. その他（下の欄に具体的に記入してください）

自由記述欄（ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望等なんでも）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

確認へ進む



入力中のデータを一時保存・読み込み

【申込データ一時保存、再読み込み時の注意事項】

- 添付ファイルは一時保存されません。再読み込み後は、必要に応じて、ファイルを添付し直してください。
- パソコンに一時保存した申込データはパソコンで閲覧・加筆・修正することはできません。
- システムに読み込む場合は一時保存した手続きの画面でしか読み込めませんので、ご注意ください

「入力中のデータを保存する」では申込みの手続きが完了していませんのでご注意ください。

※入力中の申込データをパソコンに一時保存します。

※一時保存した申込データを再度読み込みます。

入力中のデータを保存する

保存データの読み込み

【操作に関するお問合せ先（コールセンター）】

○固定電話コールセンター

TEL：0120-464-119（フリーダイヤル）

（平日9：00～17：00 年末年始除く）

○携帯電話コールセンター

TEL：0570-041-001（有料）

（平日9：00～17：00 年末年始除く）

FAX：06-6455-3268

e-mail：help@shinsei-kumamoto@skantan.com

【各種手続き等の内容に関するお問合せ先】

直接担当課にお問合せください。